

統計ツールによる

# 埼玉県の人ロ分析

埼玉県総務部統計課

平成31年3月



## はじめに

人口に関する統計は、身近に多数ありますが、これを分析するとなると、その方法が分からず、統計の利活用が進んでいないのが現状ではないかと思われます。

埼玉県では、進んで手軽に統計を利活用できるよう、「彩の国統計情報館」のホームページで、「役に立つ統計ツール」を平成25年度から順次公表してまいりました。

これまで公表してきた人口分析のツールには、「埼玉県の市町村別将来人口推計ツール」、「全国の市区町村別昼夜間人口見える化ツール」、「全国の市区町村別移動人口見える化ツール」、「都道府県別自然増社会増見える化ツール」、「都市の交通手段見える化ツール」があります。これらのツールは、市町村の人口ビジョンの策定や企業のマーケティングなど、多くの方々にご利用いただいておりますが、使い方次第で様々な分析を行うことができます。

埼玉県は、かつてないほどのスピードで、少子高齢化が進んでいます。そこで、今回、この問題にスポットを当てて、埼玉県の人口を様々な角度から分析してみました。

本書は、第1部として、埼玉県全体の人口分析、第2部として、埼玉県を12の地域に分けた地域人口分析を行いました、また、第3部として、市町村の人口統計のデータを掲載しました。

単に人口に関する統計を提示するだけでなく、人口の理論とともに、人口の分析の手法等を紹介しています。人口の見方や新たな分析手法の発見などの一助になれば、幸いです。

なお、将来人口や出生数等については、「埼玉県の市町村別将来人口推計ツール」のデータを使用しているため、県で公表している値と異なる場合がありますので、あらかじめ、御了承ください。

平成31年3月  
埼玉県総務部統計課

# 目 次

第1部	埼玉県の人	口分析	1
1	埼玉県の人	口の推移	2
(1)	年少人口	(0-14歳)の推移	5
(2)	生産年齢人口	(15-64歳)の推移	6
(3)	高齢者人口	(65歳以上)の推移	7
(4)	20代30代女性人口	の推移	8
2	埼玉県の少	子化	9
(1)	コーホ	ート合計特殊出生率と期間合計特殊出生率	9
(2)	母の年	齢別出生数の推移	10
(3)	未婚者	の推移	11
(4)	有配偶	女性人口と出生数	12
3	埼玉県の	労働力人口	14
(1)	男性の	労働力人口と完全失業者数	14
(2)	女性の	労働力人口と完全失業者数	15
(3)	年齢別	にみた女性の労働力率	17
4	埼玉県の	高齢化	18
(1)	生命表	からみた高齢化	18
(2)	生残率	と死亡率からみた高齢化	19
(3)	高齢化	と死亡数について	20
5	埼玉県の	移動人口	22
(1)	埼玉	県の年齢別移動人口の状況	22
(2)	埼玉	県の年齢別の転入者数・転出者数の状況	23
(3)	純移	動人口の矛盾について	25
6	埼玉	県の昼間人口夜間人口	26
(1)	男女	別年齢別にみた昼夜間人口比率	26
(2)	15	歳以上の県内常住者の通勤通学地について	27
第2部	埼玉	県の地域別人口分析	29
1	埼玉	県の地域別人口	30
(1)	地域	別にみた人口	30
(2)	地域	別にみた人口増減数と増減率	31
2	地域	別にみた出生率	33
(1)	地域	別にみた合計特殊出生率の推移	33
(2)	母の	年齢別にみた出生率の推移	34
(3)	出生	率と女性の有配偶率の関係について	36

3	地域別にみた出生数と死亡数	38
(1)	地域別出生数の推移	38
(2)	地域別死亡数の推移	39
4	地域別にみた移動人口	40
(1)	10-14歳→15-19歳の地域別移動人口と 15-19歳→20-24歳の地域別移動人口	41
(2)	20-24歳→25-29歳の地域別移動人口と 25-29歳→30-34歳の地域別移動人口	41
5	地域別にみた昼間人口夜間人口	44
(1)	地域別にみた昼夜間人口比率	44
(2)	東京都への流出割合	45
(3)	地域間の通勤通学状況	45
第3部	市町村別人口統計	47
	用語の解説	64



# 第1部

## 埼玉県の人ロ分析

# 1. 埼玉県の人口の推移

埼玉県の人口は、国勢調査が始まった年の大正9年から平成27年まで、一貫して増加してきました。(図1-1)しかし、平成32年になると埼玉県の人口は、平成27年よりも減少すると予測されています。人口の減少はその後も続き、平成57年には、6,249千人と平成27年よりも約1,000千人減少すると推計されています。

なぜ、埼玉県の人口は減少するのか。

埼玉県の人口を別の統計から、出生数、死亡数、転入者数、転出者数に分け、昭和29年から平成29年までの推移を追って、増減の要因を分析してみましょう。

図1-2から自然増(出生数-死亡数)についてみると、埼玉県の出生数のピークは、昭和48年の106千人で、以降、出生数は、年々減少しています。死亡数は年々増加しており、死亡数が出生数を上回ったのは、平成24年で、それ以降、出生数と死亡数の差は、拡大する方向で、推移しています。平成29年の死亡数は66千人、出生数は53千人となり、自然増は△12千人となりました。

社会増(転入者数-転出者数)についてみると、昭和29年は転出超過でしたが、昭和30年から転入超過となり、以降、社会増はプラスで推移します。平成18年に転出超過となった年があったものの、平成19年以降はプラスで推移しており、平成29年の転入者数は162千人、転出者数は147千人となり、社会増は15千人となりました。

以上のことから、平成27年の人口が平成22年の人口よりも増加となった要因は、社会増によるものであることが分かります。ですが、近いうちに社会増よりも自然減の方が上回るときが来ると予想されますので、将来の埼玉県の人口は、減少すると予測できるのです。

図1-1 埼玉県の人口の推移

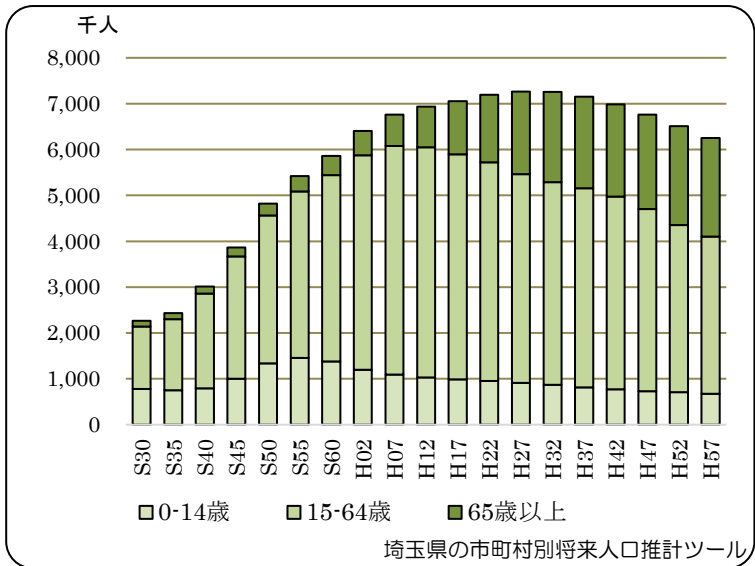
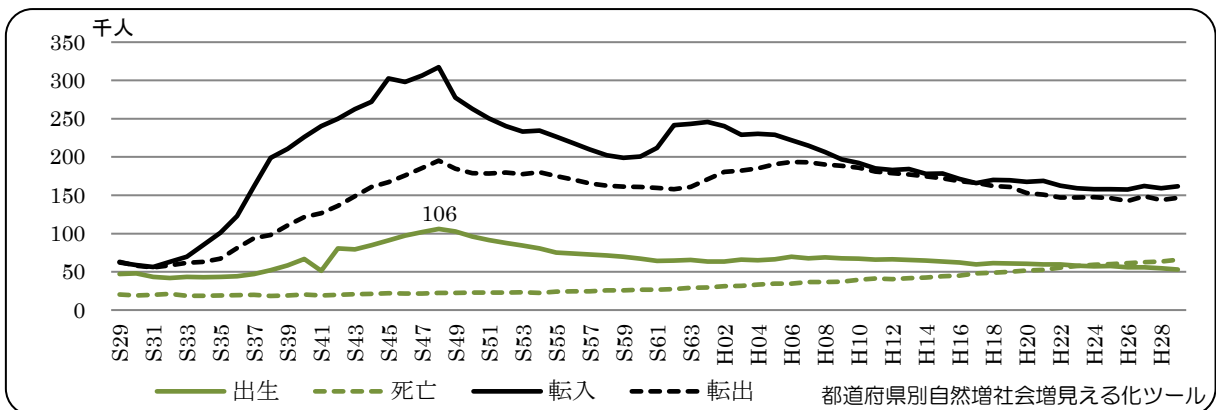


図1-2 埼玉県の出生数、死亡数、転入者数、転出者数の推移



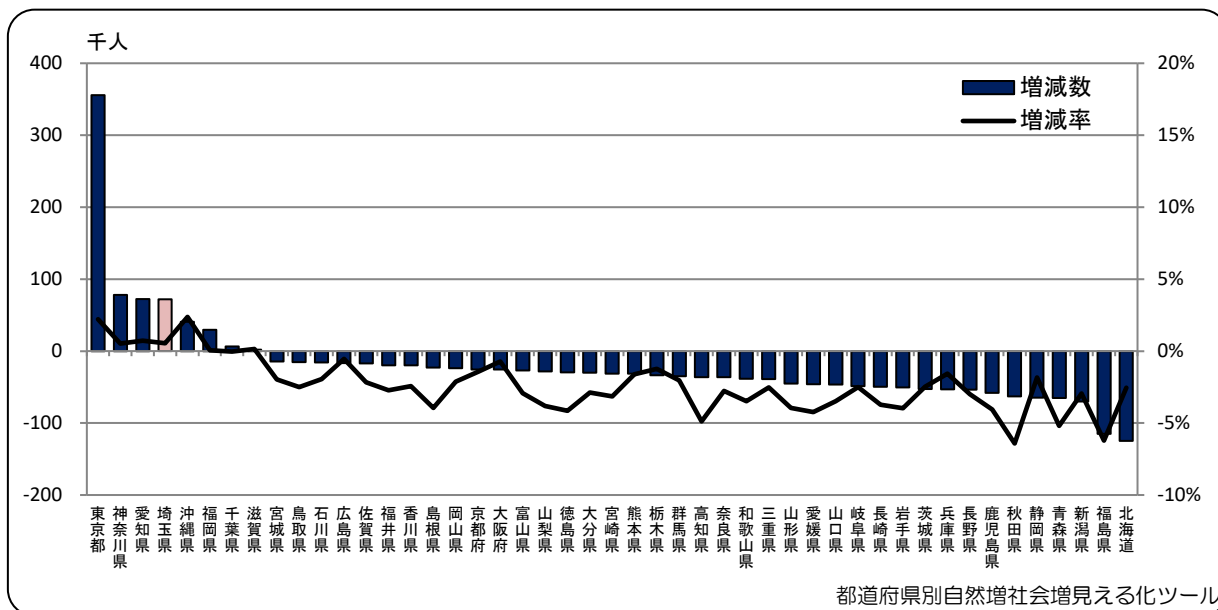
ところで、埼玉県のように平成27年の人口が、平成22年の人口よりも増加している県は、あまり多くありません。次のグラフは、都道府県を人口増減数の大きい順に並べ替えたグラフです。

人口が増加している都県は、東京都、神奈川県、愛知県、埼玉県、沖縄県、福岡県、千葉県、滋賀県の8都県で、39道府県は減少しています。これらの人口増加県の多くは、大都市、大都市に隣接しているという特徴があります。



埼玉県は、東京都に隣接しているという地の利があり、その関係で今まで人口が増加していたと考えてよいでしょう。

図 1-3 都道府県別にみた人口増減数と人口増減率（平成 22 年→平成 27 年）

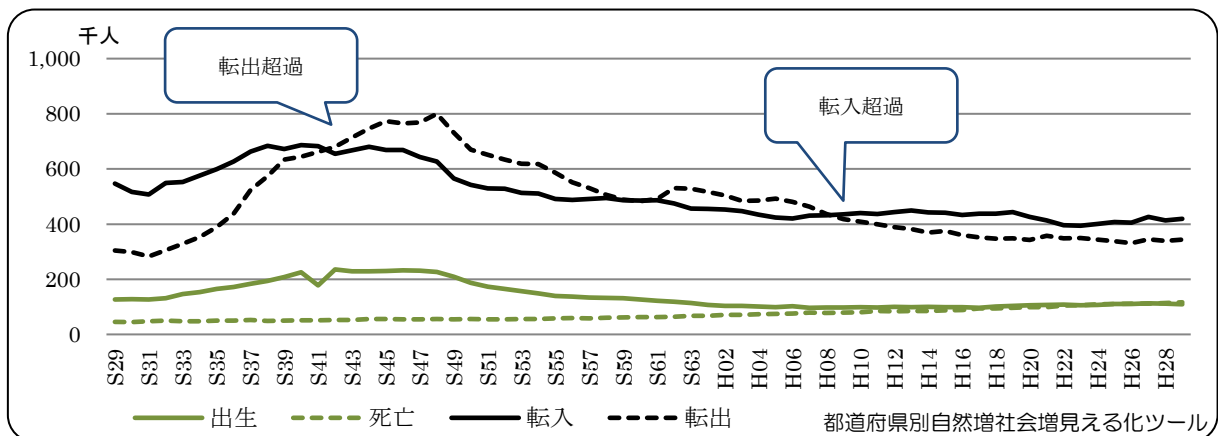


それでは、東京都の出生数、死亡数、転入者数、転出者数の推移をみてみましょう。

東京都の出生数は、昭和 42 年をピークに減少していましたが、平成 10 年頃から緩やかに増加しています。一方、死亡数も増加しており、平成 24 年から 26 年は死亡数の方が出生数を上回っていました。

社会増についてみると、昭和 29 年以前から転入者数が多くなっていましたが、昭和 35 年頃から転出者数が急上昇し、昭和 42 年には転出超過に転じています。そして、昭和 48 年、東京都からの転出者数はピークに達しました。転出者の半数は、埼玉県、千葉県、神奈川県に流出しています。

図 1-4 東京都の出生数、死亡数、転入者数、転出者数の推移



昭和 60 年には、転入者数が転出者数を再び上回りますが、この頃から地価が高騰し、再び、東京都は転出超過に転じます。

平成 9 年、東京都は再び転入超過となり、東京一極集中の時代が到来します。

表 1-1 は、東京都と他道府県との純移動人口（社会増）の関係をみたものです。平成 27 年から平成 29 年の 3 か年における東京都の社会増は、ほとんどの道府県からの転入超過となっています。特に大阪府、神奈川県からの転入者数が多く、唯一、埼玉県のみが転出超過となっています。

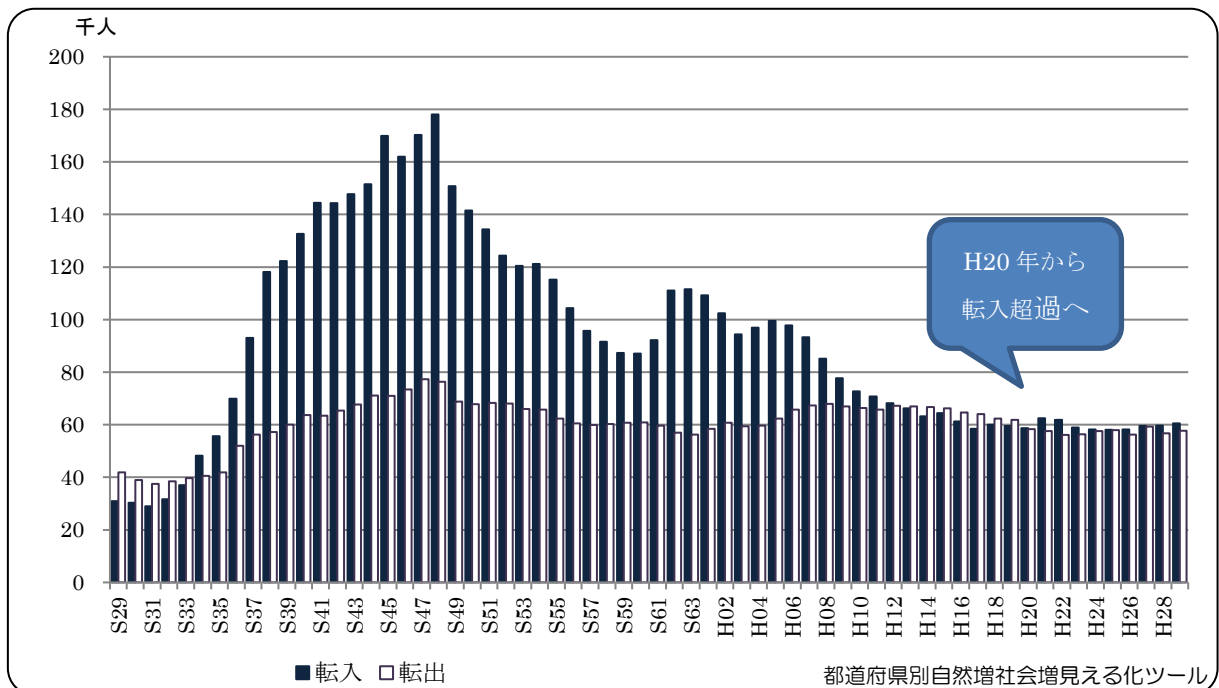
表 1-1 東京都からみた他道府県との純移動人口（平成 27 年～29 年）

平成27年				平成28年				平成29年			
地域	純移動	地域	純移動	地域	純移動	地域	純移動	地域	純移動	地域	純移動
大阪府	7,950	秋田県	1,061	神奈川県	7,806	熊本県	1,060	大阪府	7,627	熊本県	1,111
神奈川県	6,191	長野県	1,052	大阪府	7,611	山形県	1,022	神奈川県	6,959	鹿児島県	1,033
兵庫県	4,955	奈良県	1,051	愛知県	5,048	岡山県	1,022	愛知県	5,011	千葉県	991
千葉県	4,584	岡山県	949	兵庫県	4,606	愛媛県	940	兵庫県	4,742	三重県	987
愛知県	4,580	長崎県	938	北海道	4,044	奈良県	849	北海道	4,078	宮崎県	932
北海道	4,308	滋賀県	925	福岡県	3,599	滋賀県	841	福岡県	3,875	愛媛県	920
福岡県	3,961	山口県	853	静岡県	3,178	山口県	826	新潟県	2,895	長崎県	910
静岡県	3,407	三重県	848	宮城県	2,674	三重県	803	静岡県	2,884	奈良県	899
茨城県	2,845	愛媛県	808	茨城県	2,616	長崎県	758	宮城県	2,830	滋賀県	870
宮城県	2,844	宮崎県	724	新潟県	2,575	石川県	757	福島県	2,360	石川県	781
新潟県	2,768	富山県	693	福島県	1,913	大分県	652	広島県	2,119	山口県	774
栃木県	2,148	石川県	682	京都府	1,715	宮崎県	644	茨城県	1,926	香川県	633
広島県	2,064	大分県	569	広島県	1,714	沖縄県	632	京都府	1,805	沖縄県	624
京都府	1,840	福井県	551	栃木県	1,644	和歌山県	589	青森県	1,745	和歌山県	603
福島県	1,745	香川県	551	青森県	1,615	香川県	578	栃木県	1,511	富山県	538
群馬県	1,669	和歌山県	504	群馬県	1,557	富山県	503	群馬県	1,511	大分県	518
山梨県	1,648	佐賀県	495	長野県	1,330	佐賀県	417	長野県	1,419	佐賀県	486
青森県	1,621	高知県	451	千葉県	1,323	福井県	415	岐阜県	1,335	福井県	462
山形県	1,243	徳島県	437	鹿児島県	1,266	徳島県	407	岩手県	1,313	高知県	451
岩手県	1,210	沖縄県	286	岐阜県	1,237	高知県	398	山梨県	1,216	徳島県	423
岐阜県	1,199	鳥取県	258	岩手県	1,159	島根県	295	岡山県	1,184	島根県	366
熊本県	1,132	島根県	190	山梨県	1,159	鳥取県	252	山形県	1,154	鳥取県	353
鹿児島県	1,093	埼玉県	-185	秋田県	1,101	埼玉県	-2,973	秋田県	1,136	埼玉県	-2,802
合計		81,696		合計		74,177		合計		75,498	

都道府県別自然増社会増見える化ツール

図 1-5 は、埼玉県からみた東京都との転入者数・転出者数の推移です。東京都からの転入者数は、昭和 34 年から転出者数を上回って推移し、昭和 48 年には、転入者数 178 千人、転出者数 76 千人と 100 千人を超える転入超過となりました。転入超過の傾向は、平成 12 年まで続き、平成 13 年に 42 年ぶりに転出超過となりましたが、再び転入超過となったのは、平成 20 年からです。

図 1-5 埼玉県からみた東京都との転入者数・転出者数の推移



都道府県別自然増社会増見える化ツール



## (2) 生産年齢人口（15-64歳）の推移

埼玉県の実年齢人口は、昭和30年から顕著に増加してきました。

生産年齢人口のピークは、平成12年の5,021千人で、昭和30年の人口の3.7倍になりましたが、平成17年から人口は減少し、平成27年は4,549千人、平成57年は3,421千人になると予測されます。

生産年齢人口の減少数を図1-9から都道府県別にみてみましょう。

生産年齢人口が増加している都道府県は、一県もなく、すべての都道府県で人口が減少しています。

減少数の一番少ない県は沖縄県で、6千人減、減少率も△0.7%と一番低い率となっています。

逆に減少率が一番大きい県は、秋田県の△11.6%です。秋田県は年少人口の減少率も高く、2番目に位置していました。

埼玉県は、242千人の減少となり、4番目に減少人口の多い県ですが、減少率では△5.1%と41番目に位置しています。

図1-8 埼玉県の生産年齢人口の推移

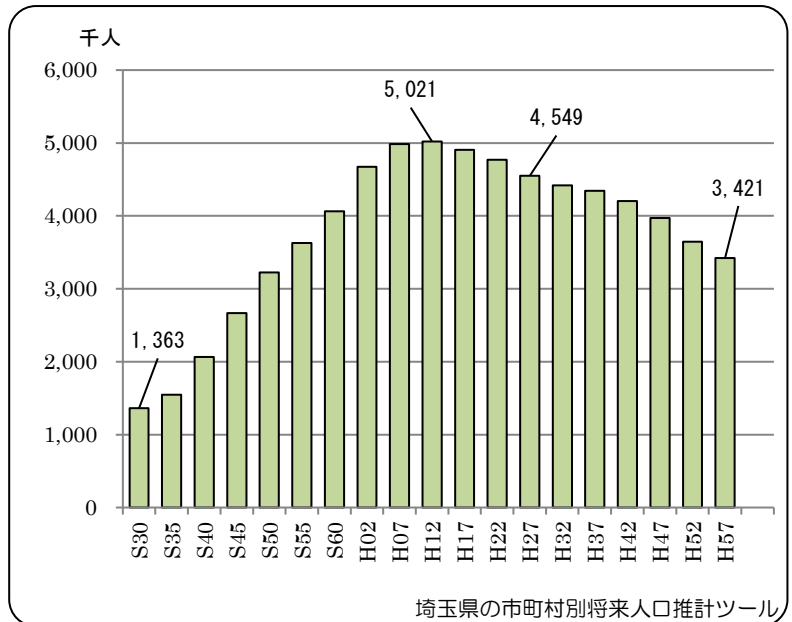
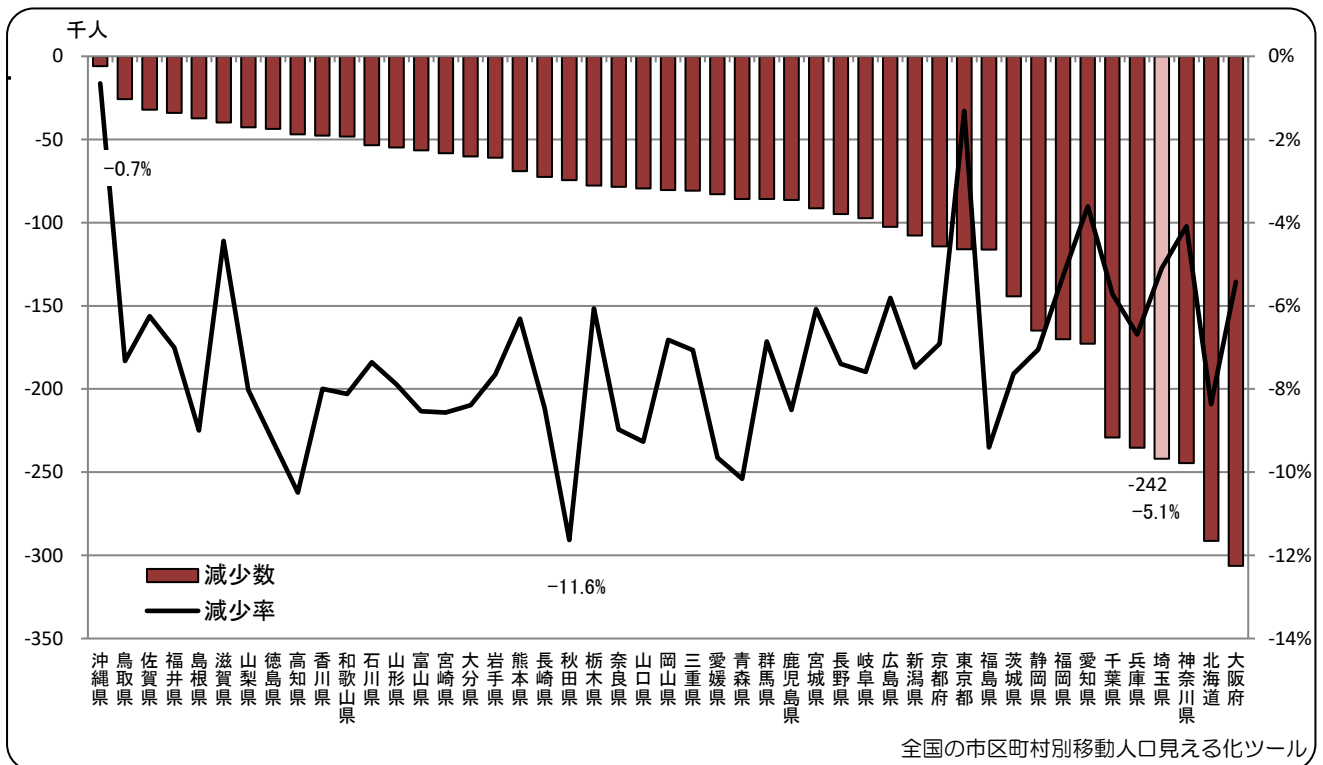


図1-9 都道府県別にみた生産年齢人口の人口減少数と人口減少率（平成22年→平成27年）



### (3) 高齢者人口（65歳以上）の推移

埼玉県の高齢者人口は、戦前から緩やかに増加していましたが、近年急速に高齢化が進みました。

ちなみに、昭和60年の人口が420千人であるのに対して、平成27年の人口は1,804千人と、30年で4倍以上の人口に増加しました。

しかし、このような急速な人口の増加は、平成32年までで、それ以降は緩やかに増加するものと推測されます。

高齢者人口の増加数を図1-11から都道府県別にみてみましょう。

高齢者人口はすべての都道府県で増加しており、増加数が最も多いのは、東京都で363千人増、次いで、神奈川県、埼玉県、大阪府、愛知県、千葉県と続いています。

しかし、増加率についてみると、埼玉県が22.1%と全国で一番高い率を示しています。次いで、千葉県の20.0%、神奈川県の18.6%となっており、東京の近隣県が高い率となっています。

増加率の一番低い県は、鹿児島県の6.7%です。

図1-10 埼玉県の高齢者人口の推移

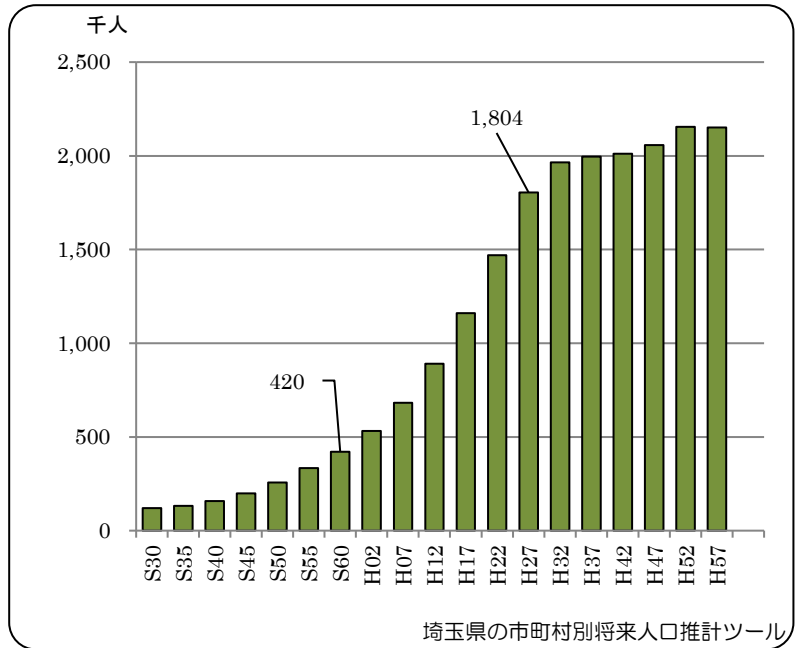
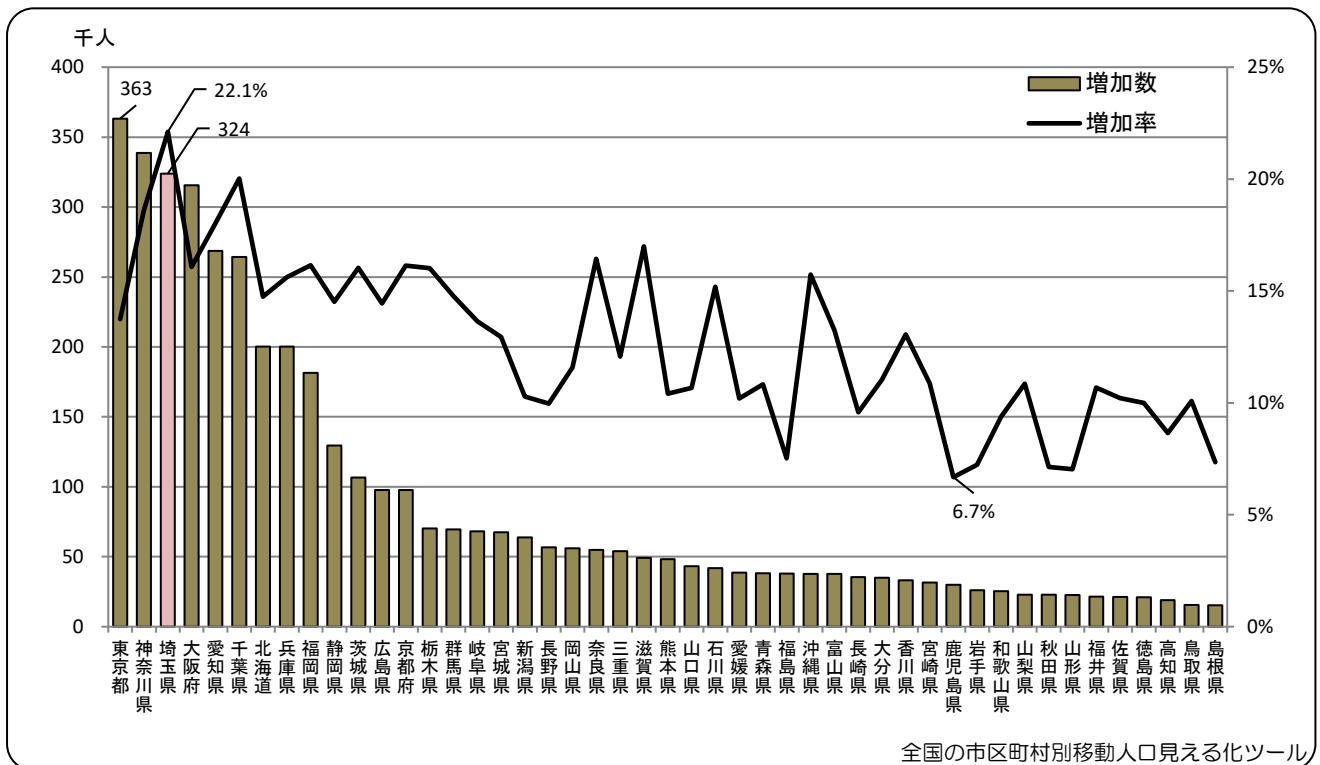


図1-11 都道府県別にみた高齢者人口の人口増加数と人口増加率（平成22年→平成27年）



#### (4) 20代30代女性人口の推移

出生数を計算する年代として、15歳から49歳の女性人口を主に対象としていますが、埼玉県では20代30代で全出生数の93.2%（平成29年）を占めています。そこで、その年代に絞って、女性人口の推移を追ってみました。

埼玉県の20代30代女性の人口は、昭和30年から40年代の高度成長期に急速に増加しました。その後、多少の人口の増減はあるものの、平成12年にピークを迎え、1,013千人に達しました。

しかし、平成17年から人口が減少し、平成27年にはピーク時の2割の人口減となり、816千人、平成57年には605千人になると予測されています。

20代30代女性人口の減少数を図1-13から都道府県別にみてみましょう。

20代30代女性の人口は、すべての都道府県で減少しています。

減少率の一番高い県は、福島県で△17.2%です。福島県は年少人口においても一番大きい減少率でした。

一方、一番低い県は、沖縄県で△7.2%です。沖縄県は、年少人口の増減率はプラスで、生産年齢人口の減少率は、△0.7%と小さく、少子高齢化の進行がうまく抑制されている特別な県であるといえるでしょう。

埼玉県の女性人口は、110千人減となり、減少率は△12.0%となっています。

図1-12 埼玉県の20代30代女性人口の推移

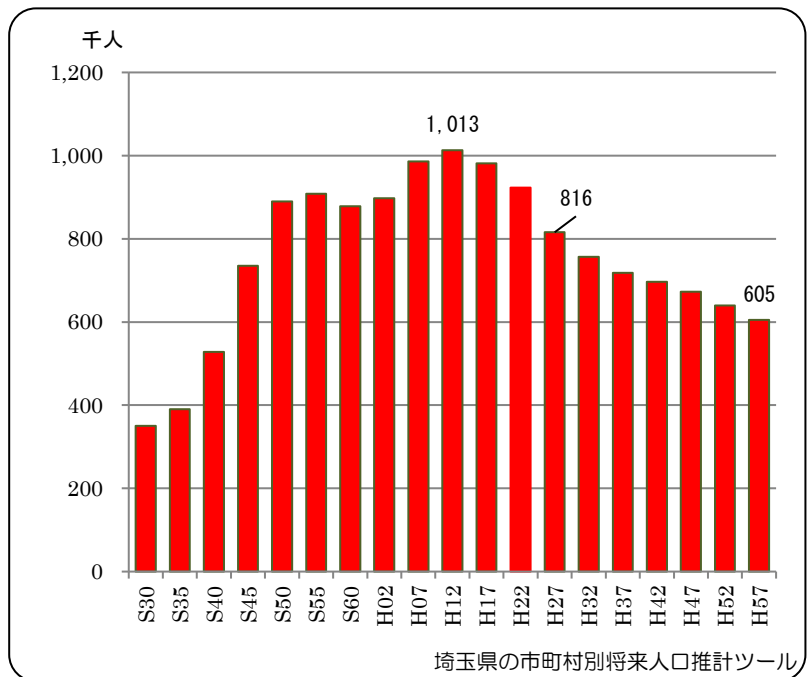
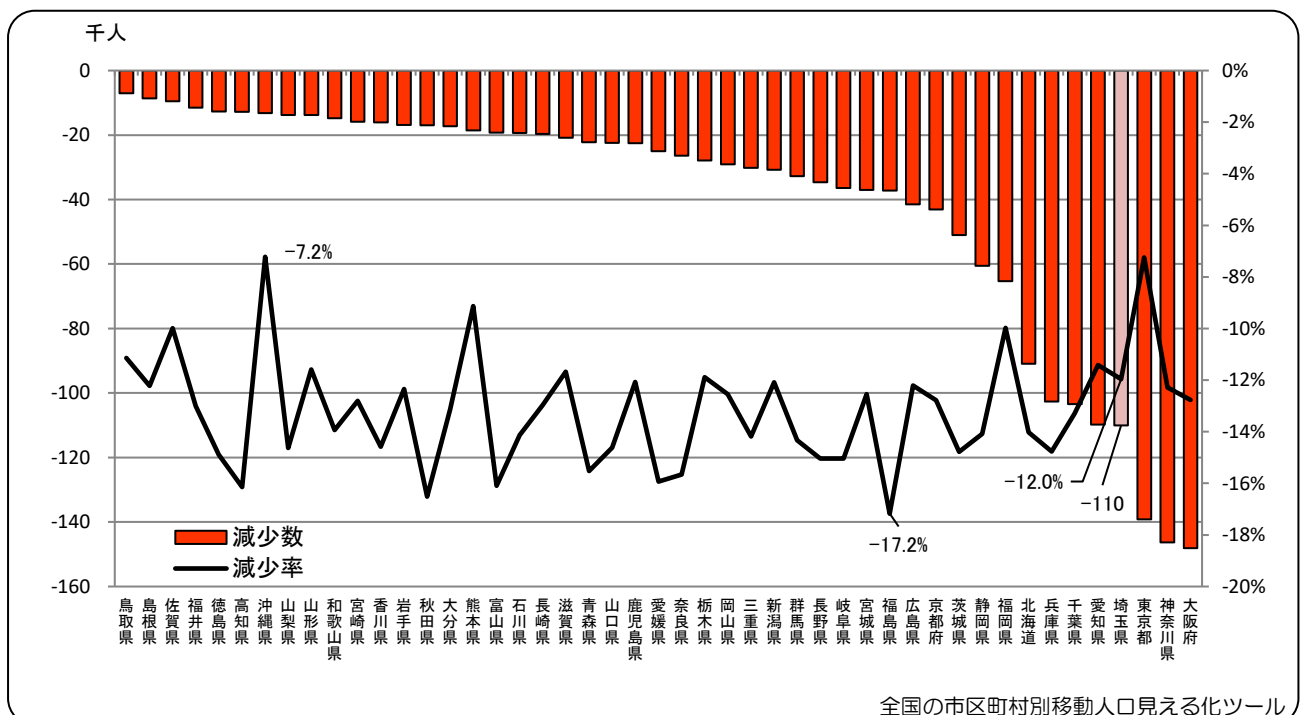


図1-13 都道府県別にみた20代30代女性人口の人口減少数と人口減少率(平成22年→平成27年)



## 2. 埼玉県の少子化

一人の女性が一生の間に子供を生む人数の指標として、合計特殊出生率があります。

合計特殊出生率は、15歳から49歳までの母親の年齢別出生数から、年齢ごとに日本人の女性の人口で割って年齢別出生率を計算し、年齢別出生率を合算した率が合計特殊出生率となります。県や市町村の場合は、5歳階級別に出生率を計算し、合算した率を合計特殊出生率としています。

図2-1をみると埼玉県の合計特殊出生率は、昭和50年が2.06と2を上回っていましたが、昭和55年になると1.73と1ポイント台に低下しています。合計特殊出生率には、人口置換水準という、ひとつの基準値があります。人口置換水準2.07を下回ると人口が維持できないといわれています。

合計特殊出生率に社会的関心が集まったのは、平成元年で、その年の全国の出生率は、1.57でした。何故、1.57なのかというと、過去に合計特殊出生率が非常に低下した年がありました。昭和41年の丙午（ひのえうま）の年で、1.58という出生率でした。平成元年は丙午の年を下回る出生率だったのです。これを1.57ショックといわれています。しかし、人口は依然増え続けており、当時は、将来の人口が減少するなど、真剣に考えていなかったのかもしれませんが。

平成17年、全国の合計特殊出生率は、過去最低の1.26となりましたが、それでも人口は増えていました。

平成22年、日本人の人口は、初めて減少に転じました。そして、平成27年、1.57ショックの時に生まれた人は26歳になっています。子供を多く生む世代である20代30代女性の人口が1.57ショック前後に生まれた世代です。女性の人口自体が少なくなってきましたから、少子化は更に進むことになったのです。

それでは、この合計特殊出生率を更に分析してみましょう。

### (1) コーホート合計特殊出生率と期間合計特殊出生率

図2-1の埼玉県の合計特殊出生率を母の年齢別出生率にして数値化した表が、表2-1になります。

合計特殊出生率は、英語で Total Fertility Rate といい、略して TFR と記しています。合計特殊出生率は、一般的には、期間合計特殊出生率を指していて、表2-1では、縦に母の年齢別出生率を合計した率となります。

しかし、本来意味している合計特殊出生率は、一人の女性が一生の間に生む子供の数のことをいっています。

表2-1 埼玉県の母の年齢別出生率の推移

	S55	S60	H02	H07	H12	H17	H22	H27
15～19歳	0.0191	0.0201	0.0182	0.0168	0.0233	0.0255	0.0201	0.0164
20～24歳	0.3522	0.2796	0.2008	0.1862	0.1705	0.1619	0.1525	0.1221
25～29歳	0.8952	0.8658	0.6606	0.5553	0.4549	0.4077	0.4115	0.3975
30～34歳	0.3864	0.4544	0.4931	0.4887	0.4631	0.4222	0.4729	0.5138
35～39歳	0.0717	0.0931	0.1127	0.1432	0.1668	0.1838	0.2338	0.2817
40～44歳	0.0097	0.0091	0.0129	0.0158	0.0205	0.0246	0.0408	0.0537
45～49歳	0.0005	0.0002	0.0002	0.0003	0.0005	0.0007	0.0010	0.0014
TFR	1.73	1.72	1.50	1.41	1.30	1.22	1.33	1.39

コーホート

1.64 1.47

資料：埼玉県保健医療政策課

図2-1 全国と埼玉県の合計特殊出生率の推移

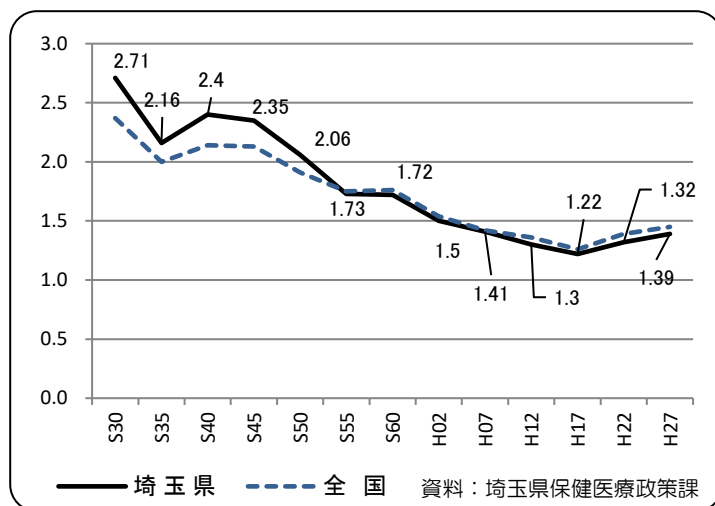


表 2-1 で説明すると、昭和 55 年に 15-19 歳だった女性の出生率は、0.0191 でした。昭和 60 年には、5 歳年を取っていますから 20-24 歳になります。その時の出生率は、0.2796 となります。そして、平成 22 年には、45-49 歳になり、その時の出生率は、0.0010 になり、これらを合算した 1.64 が合計特殊出生率となります。

つまり、各年齢の出生率を縦にみないで、斜めにみて合計した率が、本来意味している合計特殊出生率となります。これをコーホート合計特殊出生率といいます。この場合、出生率の一番高い年代である 25-29 歳の年がコーホート合計特殊出生率の基準年となるため、平成 2 年のところに 1.64 と記すことになります。

しかし、このやり方で計算すると、15 歳の人が 49 歳になるまで待たなければなりませんから、出生率を確定するまで 35 年の歳月を費やすことになります。結果が出るまで、相当な期間を要することになりますから、早く計算できる期間合計特殊出生率を合計特殊出生率として公表している経緯があります。

ところで、平成 2 年の期間合計特殊出生率とコーホート合計特殊出生率を比べてみると、1.50 と 1.64 となって、0.14 の差があります。コーホート合計特殊出生率の方が高く出ています。

例えば、一人の女性が 2 人目の子供を生むとき、25-29 歳で生むのではなく、30-34 歳で生んだとしたらどうでしょう。コーホート合計特殊出生率では、斜めに計算するため 2 人と計算されます。35-39 歳で生んだとしても 2 人と計算されます。しかし、期間合計特殊出生率ですと、その年の 25-29 歳の子供の数がカウントされず、少なく計算されてしまいます。つまり、期間合計特殊出生率は、子供を生む年齢が高くなる過渡期になると小さく計算される傾向にあるのです。そして、埼玉県の母の年齢別の出生数は、その過渡期に入っているといえるのです。

## (2) 母の年齢別出生数の推移

図 2-2 は、埼玉県の母の年齢別出生数の推移を昭和 55 年から平成 29 年にかけて、1 年間隔で表したものです。

昭和 55 年、一番多く子供を生んだ母の年齢は 25-29 歳で、出生数は 37 千人でした。次が、30-34 歳の年齢で、22 千人の出生数となっています。しかし、平成 14 年になりますと、30-34 歳の母の出生数 (24 千人) の方が 25-29 歳の母の出生数 (23 千人) を上回り、以降、母の年齢が 30-34 歳の出生数が一番多くなります。

25-29 歳の母の出生数は、その後も減少を続け、35-39 歳の母の出生数に抜かれようとしています。

図 2-2 埼玉県の母の年齢別出生数の推移

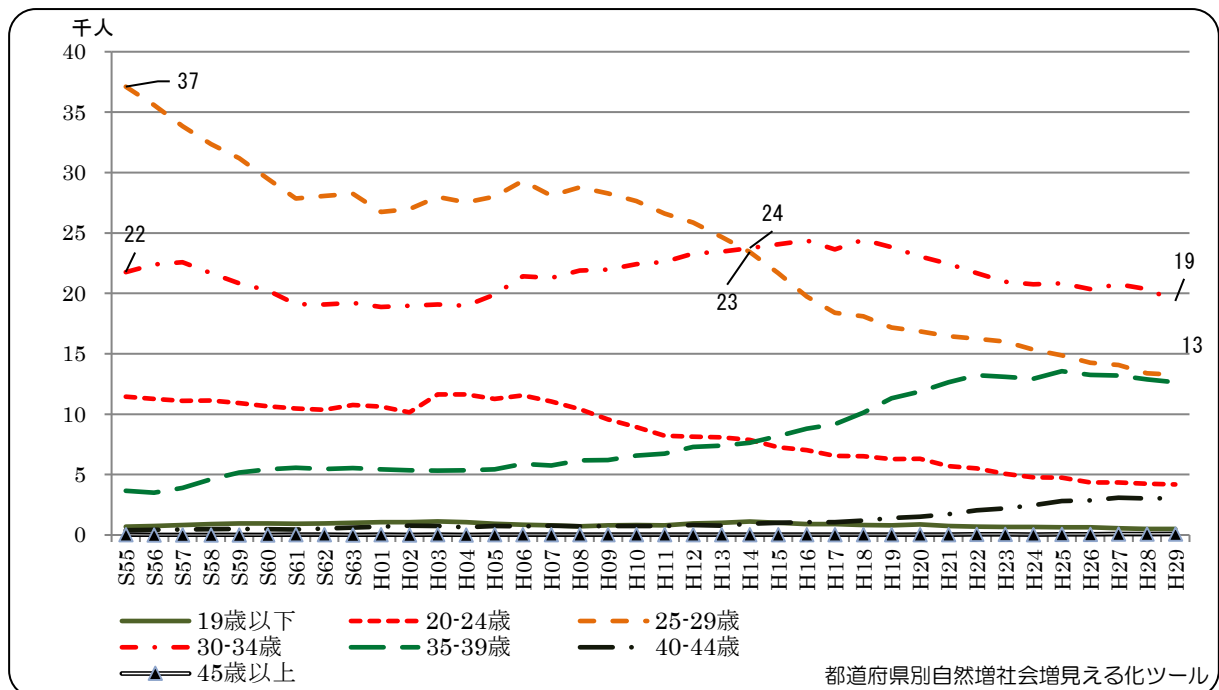




図 2-3 は、母の年齢別出生数を構成比で表したものです。

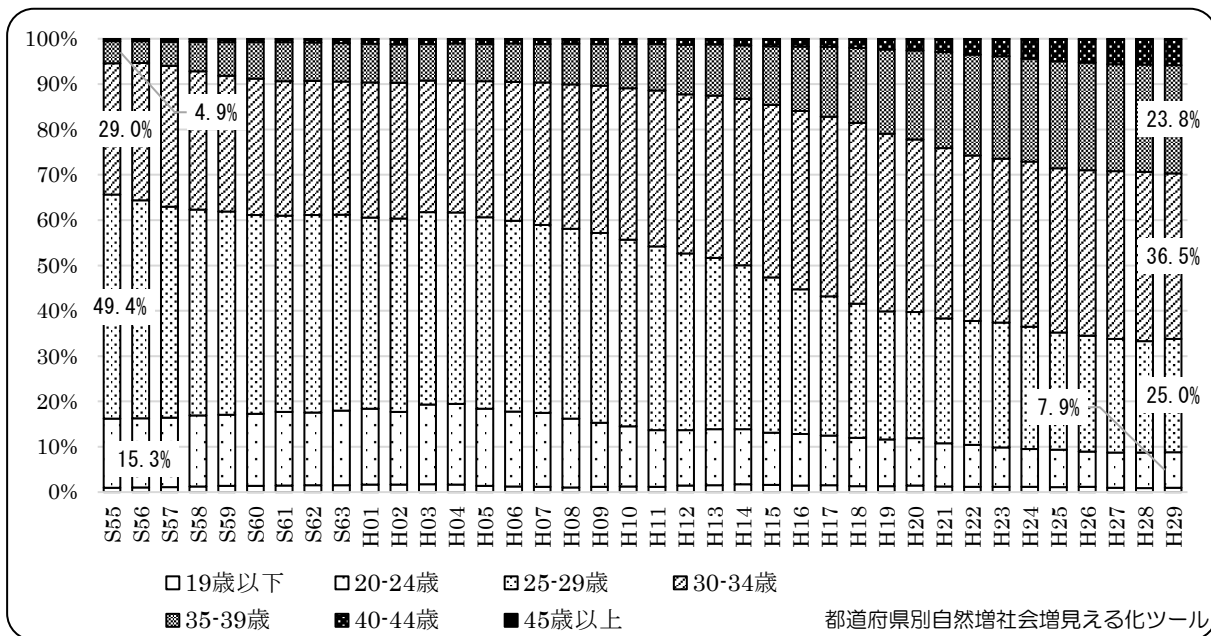
昭和 55 年は、母の年齢が 25-29 歳の出生数が、全体の出生数の 49.4%と約半数を占めていました。20-24 歳の母の出生数 (15.3%) と合わせると、20 代の母の出生数は、全体の 65%を占めることになります。

一方、30 代の母の出生数は、30-34 歳 (29.0%) と 35-39 歳 (4.9%) で、34%を占めています。

平成 29 年の母の年齢別出生数の割合をみてみますと、25-29 歳は 25.0%に減っています。逆に 30 代の母の出生数の割合は、30-34 歳が 36.5%、35-39 歳が 23.8%となっていて、30 代で 60%を占めるようになりました。

このように、埼玉県の母の出産 (生) 年齢は、30 代にシフトしているとみてよいでしょう。

図 2-3 埼玉県の母の年齢別出生数の構成比



### (3) 未婚者の推移

国勢調査では、15 歳以上の人を対象に配偶状態を調べています。未婚、離別、死別、有配偶の区分で調査をしています。

図 2-4 は、20 代 30 代の男女の未婚者数の推移を表したものです。

これをみると、未婚者数は、平成 12 年まで年々増加しているのがわかります。

特に、平成 2 年、平成 7 年と、男女とも大きく増加しているのがうかがえます。(図 2-4 の未婚者は不詳を按分していない実数です。)

次に、未婚者を人口で割った未婚率 (未婚者数 ÷ (人口 - 不詳)) でみてみましょう。

図 2-4 埼玉県の 20-39 歳の男女別未婚者の推移

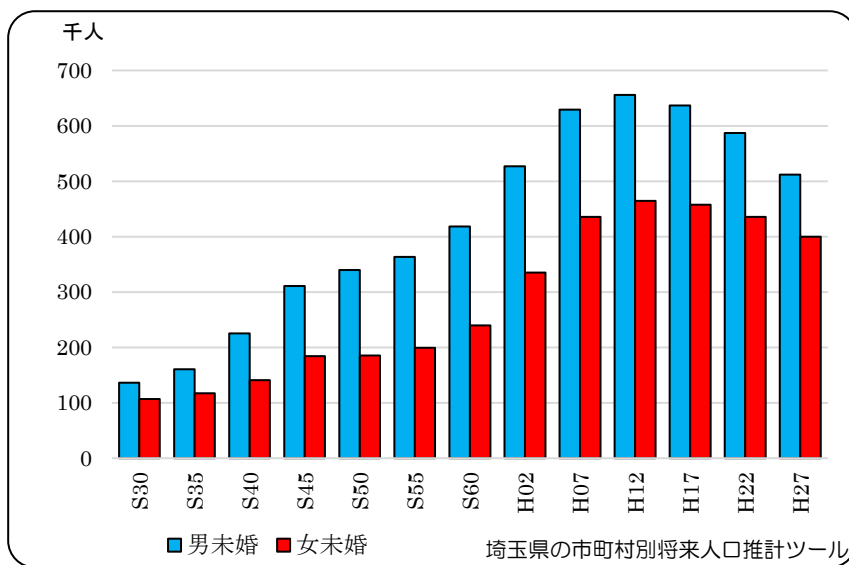


図 2-5 は埼玉県の 25-29 歳の男女の未婚率の推移、図 2-6 は 30-34 歳の男女の未婚率の推移を表したものです。

25-29 歳の男性の未婚率は、昭和 30 年から昭和 50 年にかけて、40%台で推移していましたが、昭和 50 年頃から上昇をはじめ、平成 7 年は、67.5%と 3 人に 2 人は未婚となりました。平成 27 年は 74.9%と 4 人に 3 人は未婚という結果になりました。

25-29 歳の女性の未婚率は、昭和 35 年まで 20%台で推移していましたが、昭和 45 年には、14.7%にまで低下します。昭和 50 年から上昇をはじめ、平成 7 年は 46.7%と半数近くの人が未婚となり、平成 27 年は、63.2%の人が未婚という結果になりました。

30-34 歳の男性の未婚率は、昭和 45 年までは、10%前後の未婚率でしたが、昭和 55 年から大きく上昇をはじめます。平成 17 年には、49.6%と 2 人に 1 人は未婚という結果となりました。しかし、それ以降、未婚率はほぼ横ばいで推移しています。

30-34 歳の女性についてみると、昭和 60 年までは、10%未満の未婚率でしたが、平成 2 年に 12.2%と 10%台の未婚率となり、上昇をはじめます。平成 22 年には、34.2%の未婚率となり、3 人に 1 人は未婚となり、平成 27 年は、平成 22 年とほぼ同水準で推移しています。

図 2-5 埼玉県の 25-29 歳の男女別未婚率の推移

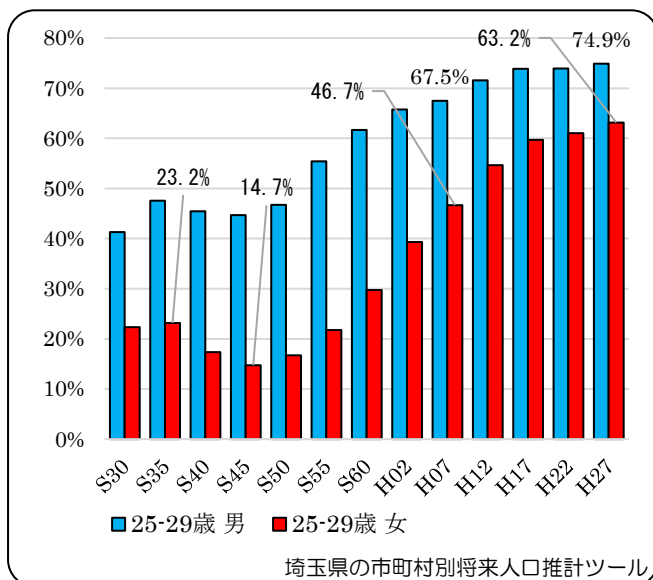
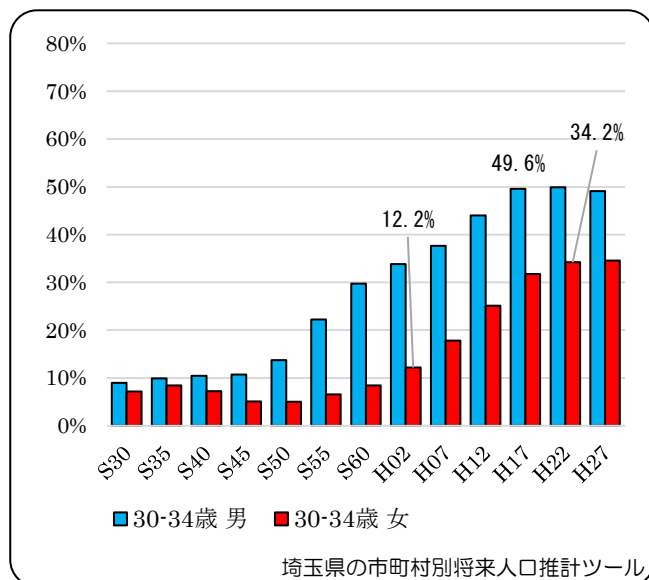


図 2-6 埼玉県の 30-34 歳の男女別未婚率の推移



こうしてみると、昭和 50 年から昭和 55 年頃が未婚率上昇の起点のように思われます。

次は、有配偶女性人口と出生数の関係についてみてみましょう。

#### (4) 有配偶女性人口と出生数

第 1 章の図 1-12 で、20 代 30 代女性人口の推移をみてきました。

この 20 代 30 代の女性人口を有配偶者、未婚者、死離別者の 3 つの配偶関係に分けて表したのが、図 2-7 になります。なお、ここでは、配偶関係が不詳の人は、それぞれの配偶関係の構成比で按分せず、有配偶者、未婚者、死離別者の実人数としています。

これをみますと、20 代 30 代の女性の人口のピークは、平成 12 年であることが分かります。

しかし、有配偶者についてみると、昭和 55 年が有配偶者数のピークで、以降、有配偶者数は減少しています。逆に未婚者の人口が増えていきます。

図 2-7 埼玉県の 20 代 30 代の配偶状態と出生数の推移

これに、出生数を重ねますと、出生数は有配偶者の推移と類似した動向を示しています。(なお、出生数は、それぞれの年の過去 5 年間の合計としています。)

昭和 35 年から昭和 55 年にかけて、有配偶者数は増加していますが、それに合わせるように出生数も増加しています。昭和 55 年から出生数は減少し、有配偶者は、時期をずらして昭和 60 年から減少し、以降、有配偶者数と出生数は、減少傾向に入っています。

ところで、昭和 35 年は、有配偶者数

と出生数の差は小さかったのですが、年を経るにしたがって、その差は徐々に大きくなっていきます。しかし、平成 7 年頃から、有配偶者数と出生数の差が小さくなってきています。

有配偶者数と出生数の関係をもう少し深く分析してみましょう。

有配偶者数と出生数の関係を表す指標として、有配偶出生率というのがあります。これは、母の年齢別出生数をそれぞれの母の年齢の日本人女性の有配偶人口で割って、1000 を掛けたものです。つまり、有配偶女性 1000 人当たり出生数ということになります。これで、昭和 55 年から平成 27 年までをグラフにしてみると、図 2-8 のようになります。

図 2-8 をみるといずれの年齢も右上がりの傾向で推移しています。

母の年齢が 20-24 歳は、昭和 55 年から平成 2 年にかけて、一時下降気味で推移し、平成 2 年は 300% (パーミル) の出生率となりましたが、その後、上昇し、平成 27 年には 381% となっています。

母の年齢が 25-29 歳は、平成 2 年から平成 12 年にかけて下降していましたが、平成 17 年から上昇しています。

母の年齢が 30-34 歳は、昭和 55 年が 84% と低い出生率でしたが、平成 27 年には 172% と約 2 倍の出生率になっています。

母の年齢が 35-39 歳は、昭和 55 年が 15% でしたが、平成 27 年は 81% となっています。

このように、20 代 30 代の女性の有配偶者数と出生数の関係を見ても、近年、有配偶出生率は、すべての年齢において上昇傾向にあることが分かります。

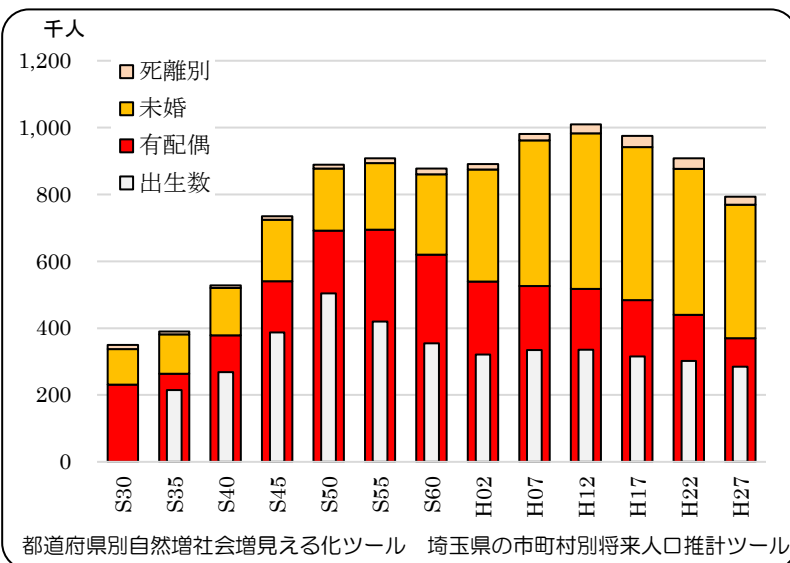
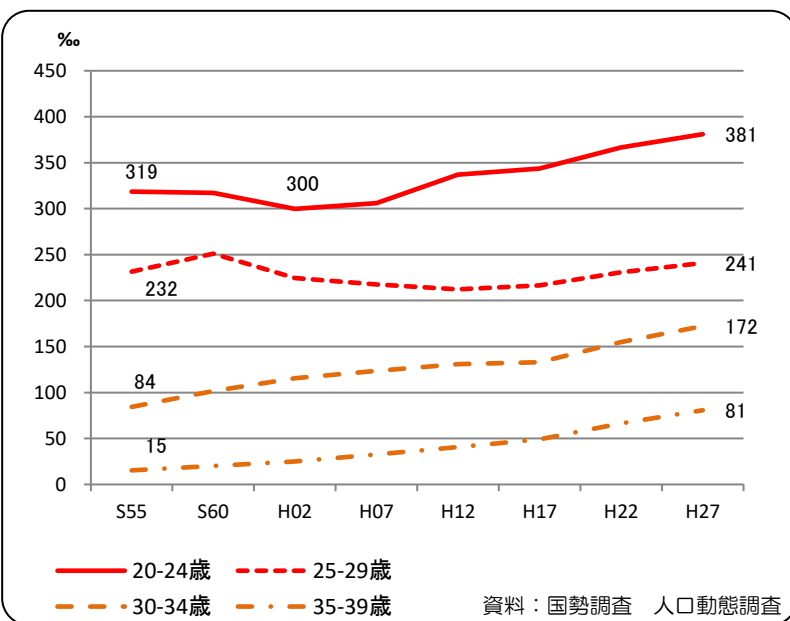


図 2-8 埼玉県の 20 代 30 代の有配偶出生率の推移



資料：国勢調査 人口動態調査

### 3. 埼玉県労働力人口

生産年齢人口は、15歳以上から64歳以下の人口を指しますが、労働力人口は、15歳以上で、働く意欲のある人を対象にした人口です。ですから、65歳以上でも働く意欲のある人は、労働力人口の中に含まれますし、学生や主婦など働く能力があってもその意思を持たない人は、労働力人口には含まれず、非労働力人口とみなされま

す。  
これらを人口の計算式で表しますと、(人口 = 労働力人口 + 非労働力人口 + 労働力状態不詳)となります。少子高齢化により、労働力人口の年齢構成は、どのように変化していったのか、その推移を追ってみました。

#### (1) 男性の労働力人口と完全失業者数

図3-1は、埼玉県の男性の労働力人口と労働力率です。労働力率は、(労働力人口 ÷ (人口 - 労働力状態不詳))で計算します。

これによると、労働力人口は平成7年まで、増加していましたが、平成12年から減少に転じています。

年齢別にみても、15-19歳の労働力人口は、昭和45年が70千人で、昭和50年は、40千人にまで減少しています。

平成2年は、団塊ジュニアの年代(昭和46年～昭和49年生)の影響から、62千人にまで増加しますが、平成7年から減少に転じ、平成27年になると27千人にまで、減少します。

20-24歳も、15-19歳とほぼ同じような動向を示しており、平成27年の労働力人口は、平成7年のピーク時の半数に減少しています。

労働力率でみると、15-19歳の労働力率は、昭和45年が42.2%で、昭和50年になると、25.2%と、4人に1人の割合の労働力率となります。

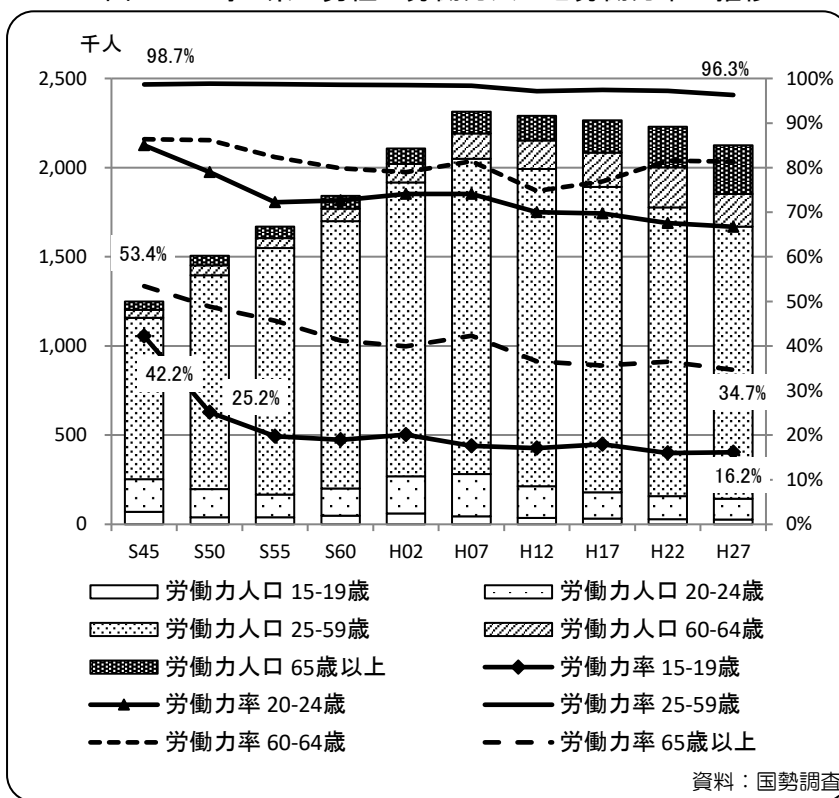
昭和55年には、19.7%とさらに低下し、平成22年は過去最低の16%となりました。

25-59歳の労働力率は、昭和45年が98.7%、平成27年が96.3%とやや右下がり傾向で推移していますが、高い率を示しているといえます。しかし、人口自体が下がっているため、労働力人口の減少は止められません。

60-64歳の労働力人口は、昭和45年(45千人)から平成22年(224千人)にかけて増加していましたが、平成27年は、183千人とはじめて減少に転じました。これは、団塊の世代(昭和22年～昭和24年生)が、平成27年に65-69歳になったことによるものです。

65歳以上の労働力人口は年々増加しており、平成27年(273千人)は平成12年(138千人)の約2倍となりました。今後、高齢者人口が増えるにしたがって、65歳以上の労働力人口は、増加するでしょう。ただ、労働力率に関してみれば、昭和45年が53.4%であったのに対して、平成27年は34.7%と低い率を示しています。

図3-1 埼玉県の男性の労働力人口と労働力率の推移



資料：国勢調査

労働力人口は、就業者数と完全失業者数とに分けることができます。

また、完全失業率は、(完全失業者数 ÷ 労働力人口) で計算します。

図 3-2 は、埼玉県の男性の完全失業者数と完全失業率の推移です。

これによると、平成 2 年から平成 7 年にかけて失業者数が大幅に増加しているのがわかります。いわゆるバブル崩壊による影響と考えられます。

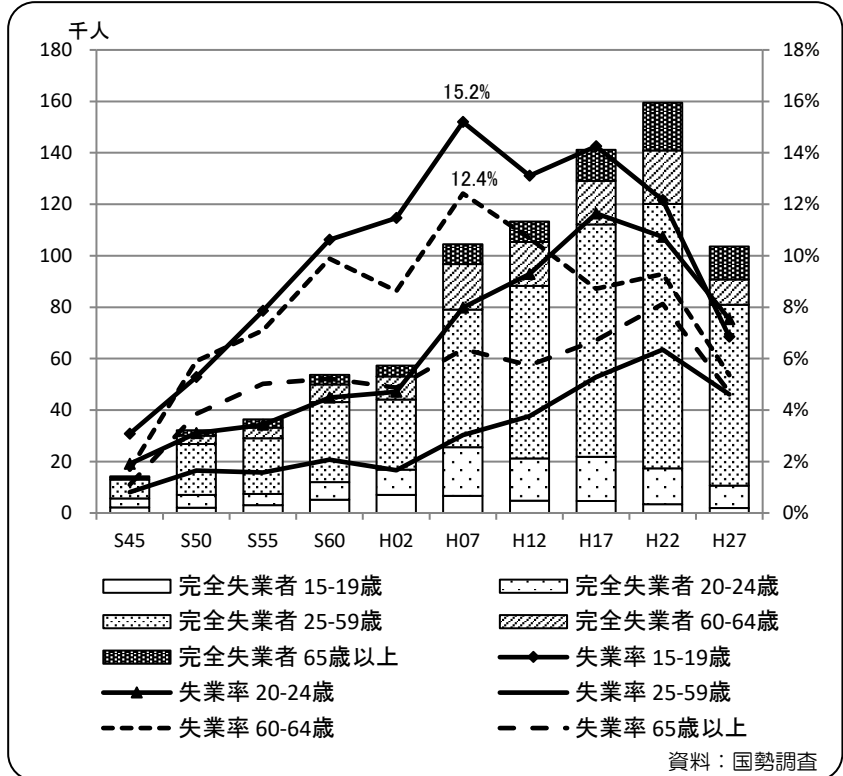
図 3-2 埼玉県の男性の完全失業者数と完全失業率の推移

失業者の増加は平成 22 年まで続きますが、平成 27 年で、大きく改善されています。

失業率についてみると、15-19 歳の失業率が高い水準で推移しています。平成 7 年は、15.2%と最も高くなっていましたが、平成 27 年になると、6.9%にまで改善しています。

20-24 歳の失業率は、15-19 と比較すると低く推移していますが、平成 17 年、平成 22 年は 10%以上の失業率となっていて、若い年代の就職難の時代であったことがうかがえます。

60-64 歳の失業率は、平成 7 年が 12.4%と高かったのですが、徐々に下がりはじめ、平成 27 年は、5.4%と改善されています。



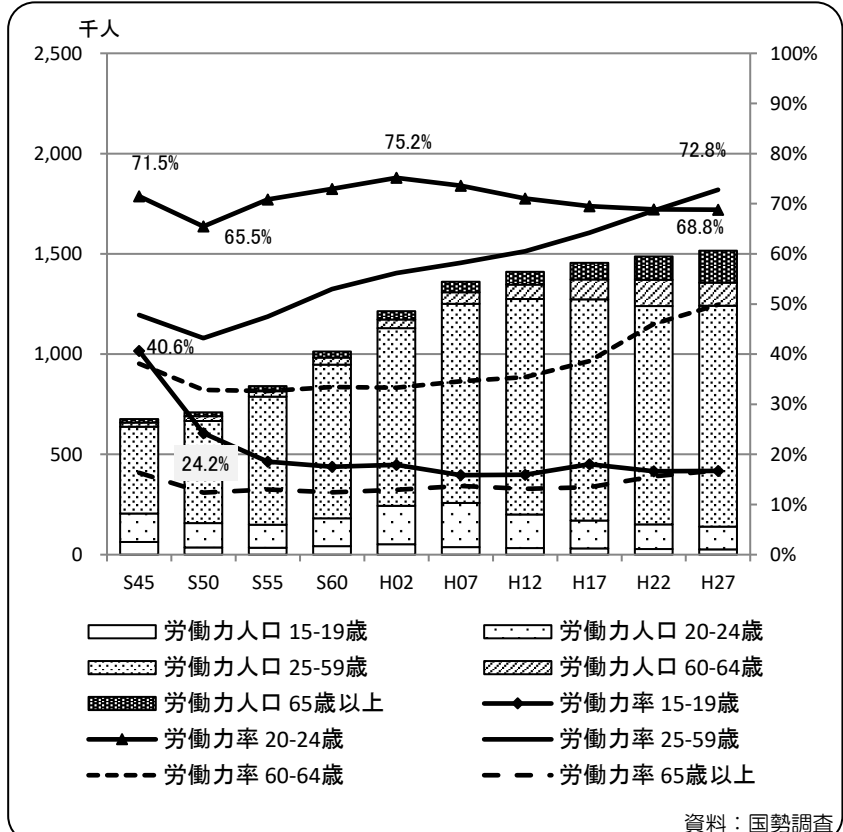
## (2) 女性の労働力人口と完全失業者数

図 3-3 は、埼玉県の女性の労働力人口と労働力率の推移を表したものです。

男性の労働力人口が平成 12 年から減少していたのに対して、女性の労働力人口は、増加傾向にあります。

年齢別にみると、15-19 歳の労働力人口は、昭和 45 年が、63 千人でしたが、昭和 50 年には、36 千人と減少しています。平成 2 年になると、団塊ジュニアの年代に当たるため、52 千人に増加するのですが、平成 7 年から再び減少しはじめ、平成 27 年の労働力人口は 27 千人となり、平成 7 年の約半数の人口となっています。

図 3-3 埼玉県の女性の労働力人口と労働力率の推移



20-24歳の労働力人口も15-19歳とほぼ同じような動向を示しています。平成27年の労働力人口は、ピーク時の平成7年の半数に減少しています。

25-59歳の労働力人口は年々上昇しており、昭和45年が432千人であるのに対して、平成27年は1,101千人と倍以上に増加しています。

労働力率でみると、15-19歳の労働力率は、昭和45年で40.6%となっていました。昭和50年になると、24.2%と4人に1人の労働力率となります。15-19歳は、大半が高校に通学している年代ですから、労働力率は小さいのですが、昭和50年の労働力率は大幅に低下しています。

20-24歳の労働力率は、昭和45年から70%前後という高い水準で推移しています。しかし、平成2年をピーク(75.2%)に右下がりで推移しており、平成27年では68.8%にまで低下しています。

25-59歳の労働力率は、昭和45年の労働力率が47.8%と、50%近い労働力率であったのに対して、平成27年は72.8%の労働力率になっており、右上がりで推移しています。労働力率の上昇が労働力人口の増加の要因となっています。

60-64歳の労働力率も、近年上昇しており、平成27年は49.9%と2人に1人は、働く意欲のある人たちとなっています。

65歳以上の労働力率は昭和45年から平成27年に至るまで、20%未満と低いのですが、高齢者の人口の増加に伴って、労働力人口も増加しています。

図3-4から埼玉県女性の完全失業者数と完全失業率の推移をみていきましょう。

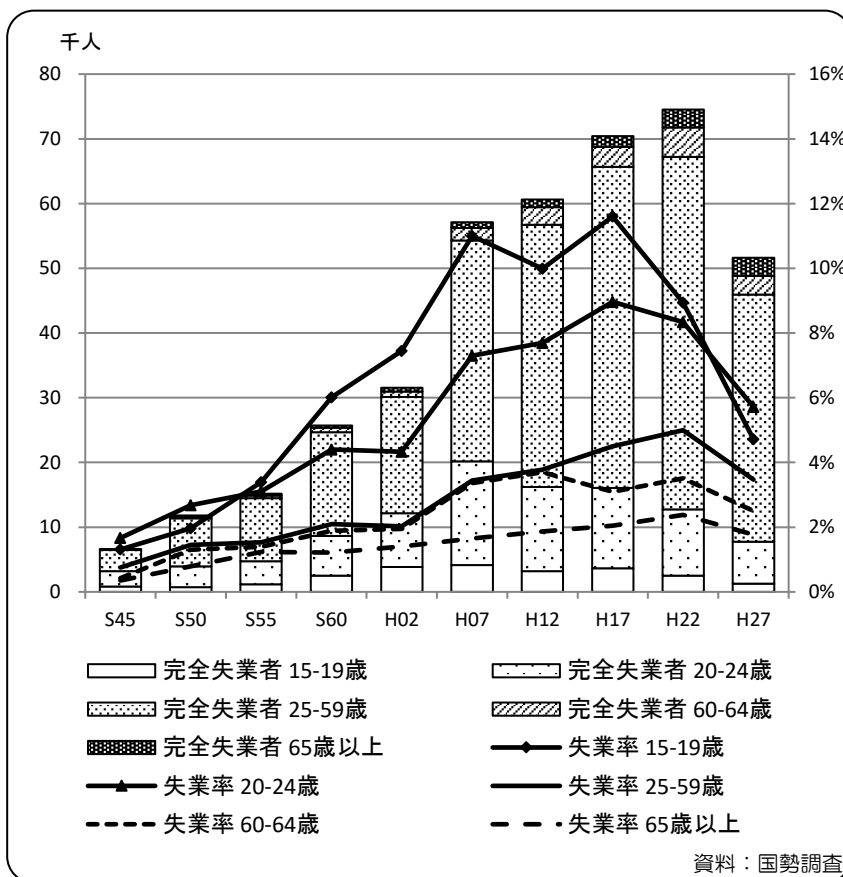
完全失業者は、女性も男性と同じく、平成2年から平成7年にかけて失業者数が大幅に増加しています。その後も増加を続けていますが、平成27年には失業者数が大きく減少し、改善されています。

失業率は、15-19歳、次いで20-24歳の失業率が高く、平成17年、22年は若い年代の就職難がうかがえますが、平成27年には、5%台にまで回復しています。

25-59歳の失業率は、平成22年の5%が最も高く、男性の同年代の失業率よりも低い失業率となっています。

60-64歳、65歳以上の失業率は、4%を上回ることなく、推移しています。

図3-4 埼玉県の女性の完全失業者数と完全失業率の推移



### (3) 年齢別にみた女性の労働力率

女性の労働力率で、特に注目したい年代は、結婚、出産期に該当する20代30代の女性の労働力率です。図3-5は、20-39歳の女性の労働力率を5歳階級別に表したものです。

20-24歳の労働力率については、70%前後という高い水準で推移していますが、平成17年からは25-29歳の労働力率の方が上回るようになりました。

25-29歳の労働力率は、昭和50年が、36.2%と低い率を示していましたが、昭和55年から上昇しはじめ、平成22年の労働力率は、78.0%、平成27年の労働力率は、80.9%と上昇しています。

30-34歳の労働力率は、平成2年、平成7年と伸び悩んだ時期がありましたが、平成12年から大幅に上昇しています。

35-39歳の労働力率は、昭和60年から平成7年にかけて50%前後の率で推移していましたが、平成12年頃から上昇しています。

図3-5 埼玉県の女性の年齢別労働力率の推移

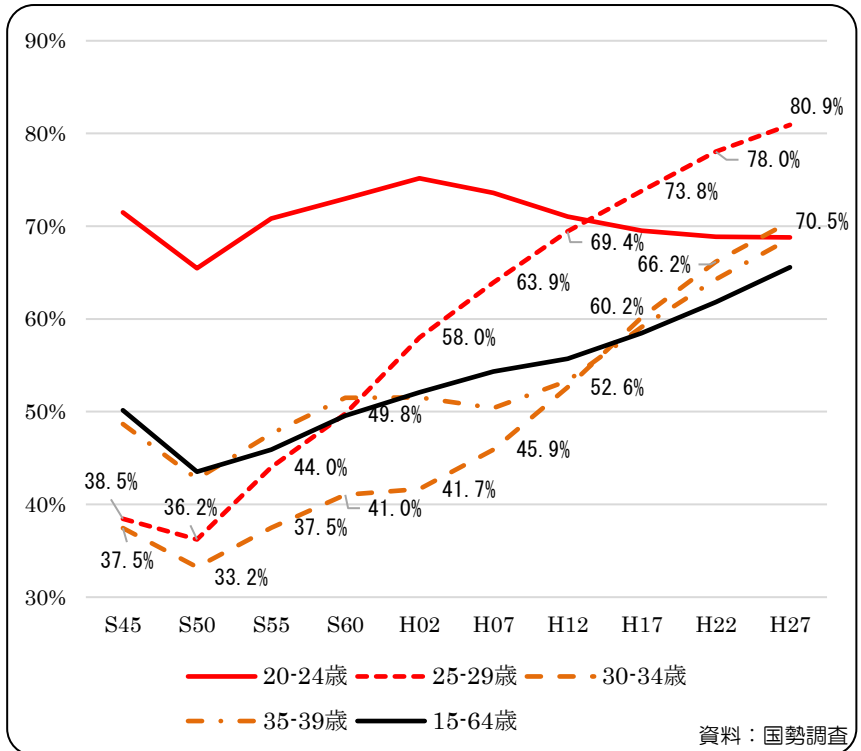


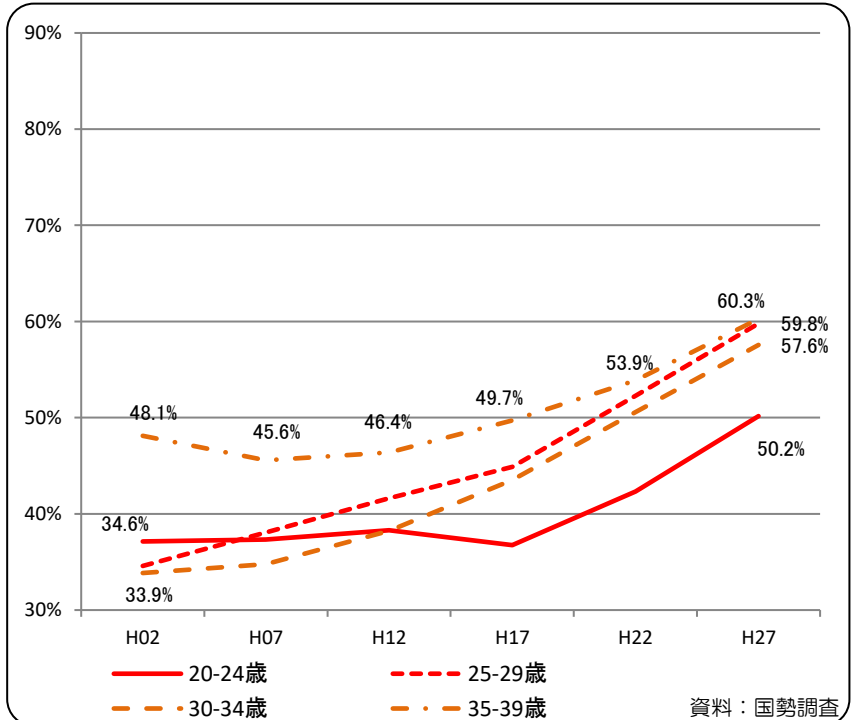
図3-6は、有配偶者における労働力率を年齢別に表したものです。

これによると、20-24歳の有配偶者の労働力率は、平成17年まで横ばいで推移していましたが、平成22年から上昇しています。平成27年の労働力率は、50.2%と他の年代と比べ一番低い率となっています。

25-29歳は、平成2年が34.6%と低かったのですが、その後急上昇し、平成27年は59.8%と2倍近い率にまで、上昇しています。

30-34歳は、平成2年は、33.9%と一番低い労働力率でしたが、その後、25-29歳と同じような傾向で上昇し、平成27年は57.6%となっています。

図3-6 埼玉県の有配偶女性の年齢別労働力率の推移



35-39歳は、平成2年が48.1%と、5割近い労働力率でした。平成7年に一時低下するものの、平成12年から上昇し、平成27年には60.3%と高い労働力率を示し、25-29歳、30-34歳とほぼ同水準となっています。

## 4. 埼玉県の高齢化

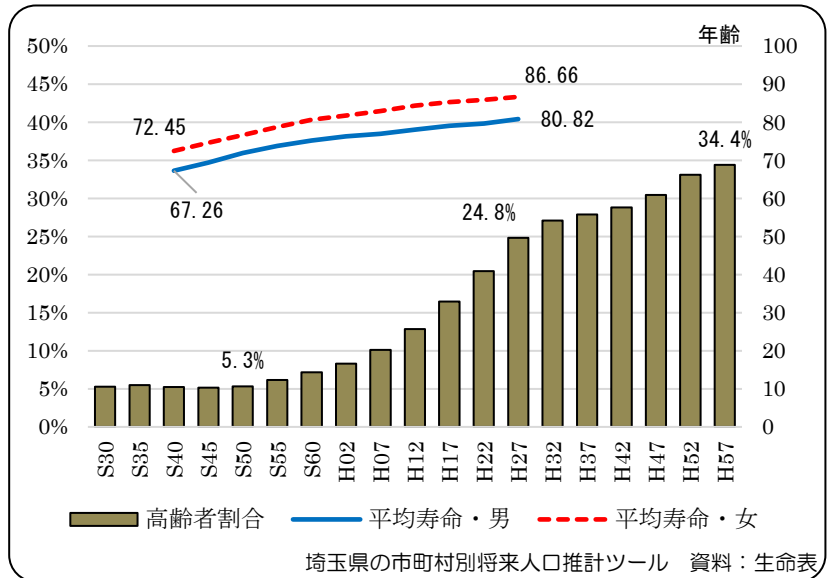
埼玉県は近年、急速に高齢化が進みました。

図 4-1 は、高齢者（65 歳以上）の人口割合をグラフ化したものです。昭和 50 年までは、5%前後で推移していましたが、昭和 55 年から上昇はじめ、平成 27 年は 24.8%と 4 人に 1 人が高齢者となりました。

平成 57 年は 34.4%と 3 人に 1 人は高齢者の時代がくると予測されています。

このような高齢者化の急激な上昇は、少子化と医療や救急の処置等の進歩により、高齢者の死亡率が大変低くなったことが、要因のひとつと考えられます。ここでは、高齢者割合の上昇理由について、統計的に説明していきたいと思います。

図 4-1 埼玉県の高齢者割合と平均寿命の推移



### (1) 生命表からみた高齢化

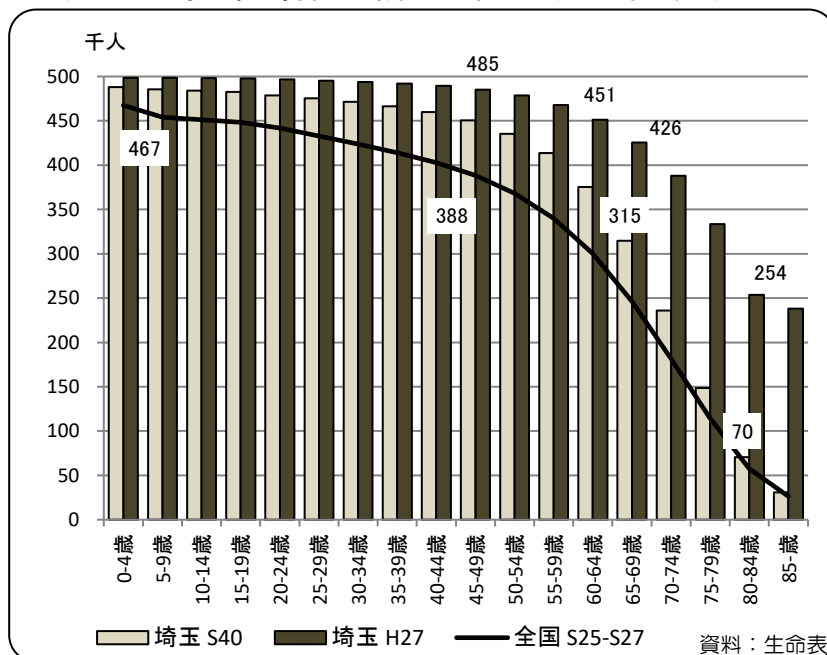
生命表は、ある期間における死亡状況が今後変化しないと仮定したときに、各年齢の者が 1 年以内に死亡する確率等を死亡率や平均余命によって表したものです。都道府県の生命表は、昭和 40 年から整備されていて、平成 27 年の生命表が最新のものです。

昭和 40 年の埼玉県の男性の平均寿命は、67.26 歳でしたが、平成 27 年では、80.82 歳となり、13.56 歳寿命が延びました。女性の平均寿命は、昭和 40 年が、72.45 歳で、平成 27 年は、86.66 歳と、14.21 歳寿命が延びています。ところで、平均寿命は生命表から導き出されたものですが、生命表には定常人口という項目があります。

定常人口は、仮に 10 万人の出生があった場合、10 万の人が、当時の統計データのとおり死亡するとして、年齢ごとに生存する人数の集団を計算したものです。この定常人口を昭和 40 年と平成 27 年の埼玉県の男性のもので比較した表が、図 4-2 です。5 歳階級別に加工したので、年齢別の定常人口の初期（出生）の集団の人数は、10 万人×5 で、50 万としています。

最初に、65-69 歳の昭和 40 年の定常人口をみてみましょう。65-69 歳の定常人口は、315 千人となっています。これは、当初 50 万人いた出生者が、65-69 歳になるころには、315 千人、生き残ったとみるものです。

図 4-2 埼玉県の男性の昭和 40 年と平成 27 年の定常人口





平成 27 年の 65-69 歳の定常人口と比べてみましょう。平成 27 年は、426 千人となっています。昭和 40 年の定常人口と比較すると、平成 27 年の人口の方が 10 万人以上多く生き残っているのが分かります。

80-84 歳についてみてみましょう。昭和 40 年の定常人口は 70 千人ですから、14%の人が生き残ったのに対して、平成 27 年は 254 千人となっています。25 万ということは、当初は 50 万人の出生数でしたから、約半数の人が生き残っている訳です。平成 27 年は、80-84 歳になるまでに、50%の人が生き残っていて、長寿の時代を迎えていることが分かります。

参考に、全国の昭和 25 年から昭和 27 年における定常人口を折れ線グラフで表しました。

これによると、0-4 歳の定常人口が 467 千人と少なくなっておりますが、乳幼児の段階で 6.5%の命が失われています。また、45-49 歳の定常人口は 388 千人ですから、人口の 20%以上の方が、早い時期に亡くなっているのが分かります。一方、平成 27 年の埼玉県の 45-49 歳の定常人口は 485 千人です。3%の方が亡くなっていることになりまますから、昭和 25 年から昭和 27 年当時の生き残りの率の低さがうかがえます。

それでは、次に、生残率と死亡率について、みてみましょう。

## (2) 生残率と死亡率からみた高齢化

図 4-2 から、平成 27 年の 60-64 歳の定常人口と 65-69 歳の定常人口を比較してみましょう。

60-64 歳の定常人口は 451 千人で、65-69 歳の定常人口は 426 千人です。65-69 歳の人口 426 千人は、60-64 歳の人口 451 千人の 5 年後の生き残りの人口を意味しています。

よって、60-64 歳と 65-69 歳の人口の差、25 千人は、5 年の間に亡くなった人の人数を表しています。そこから生き残った人の率を計算することができます。

65-69 歳の定常人口を 60-64 歳の定常人口で割ると、426 千人 ÷ 451 千人 = 0.94354 となり、94.4%の人が、5 年後に生き残った人の率となります。これを生残率といいます。

図 4-3 から、60-64 歳→65-69 歳における昭和 40 年の生残率と平成 27 年の生残率を比較してみましょう。

昭和 40 年の生残率は 83.8%、平成 27 年は 94.4%ですから、昭和 40 年の方が低いことが分かります。

75-79 歳→80-84 歳の 5 年間における生残率を比較してみると、昭和 40 年は 47.4%で、5 年間に約半数弱の人が生き残りますが、平成 27 年は 76.1%と 4分の3の人が生き残ることが分かります。

次は、死亡率についてみてみま

図 4-3 埼玉県の男性の昭和 40 年と平成 27 年の生残率

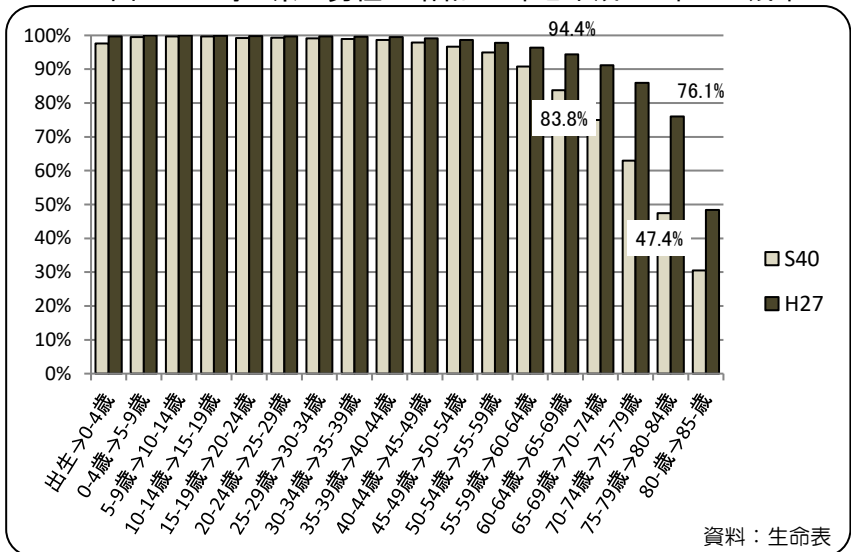
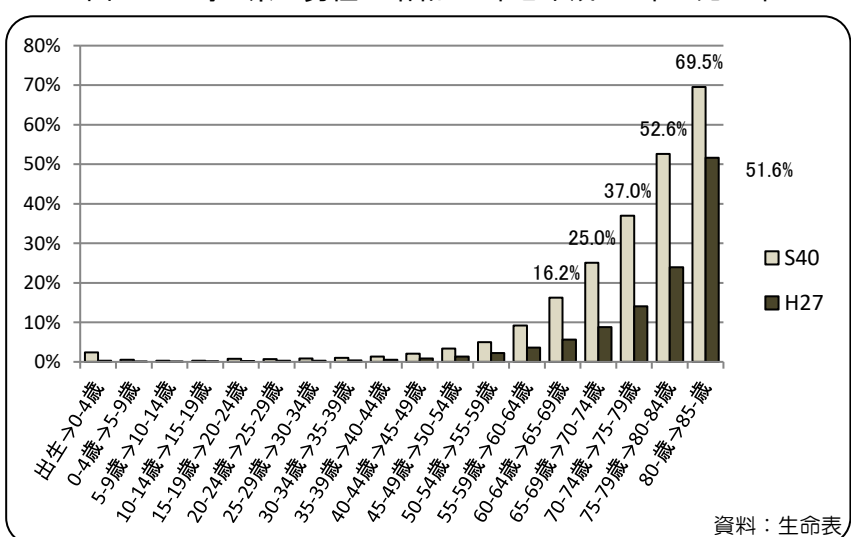


図 4-4 埼玉県の男性の昭和 40 年と平成 27 年の死亡率



よう。死亡率は、生残率の反対になりますから、1から生残率を引いた率となります。

図 4-4 は埼玉県の男性の年齢別死亡率になります。年齢が高くなるにしたがって、死亡率も高くなっています。

参考に図 4-5 で、男性と女性の平成 27 年の死亡率を表してみました。

70-74 歳の方が、75-79 歳になる 5 年間の死亡率について見ると、男性が 14.1%であるのに対して女性は、6.1%と低くなっています。

図 4-5 埼玉県の男女別年齢別死亡率 (H27)

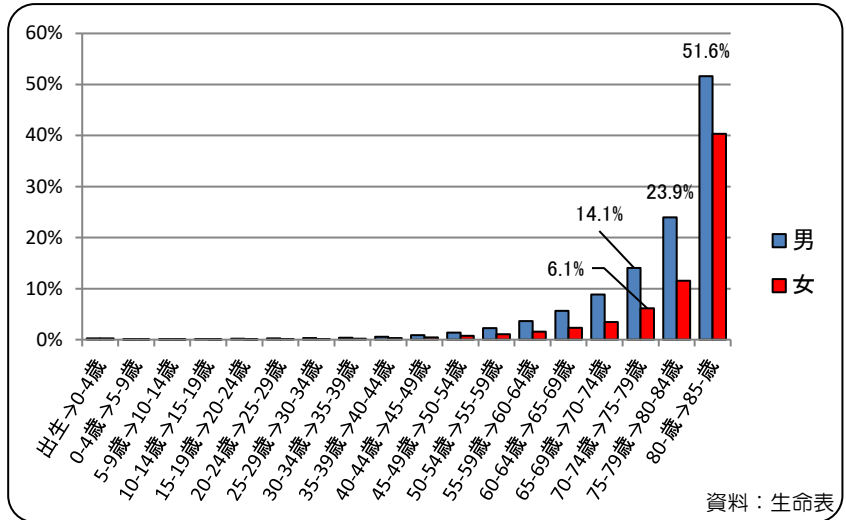


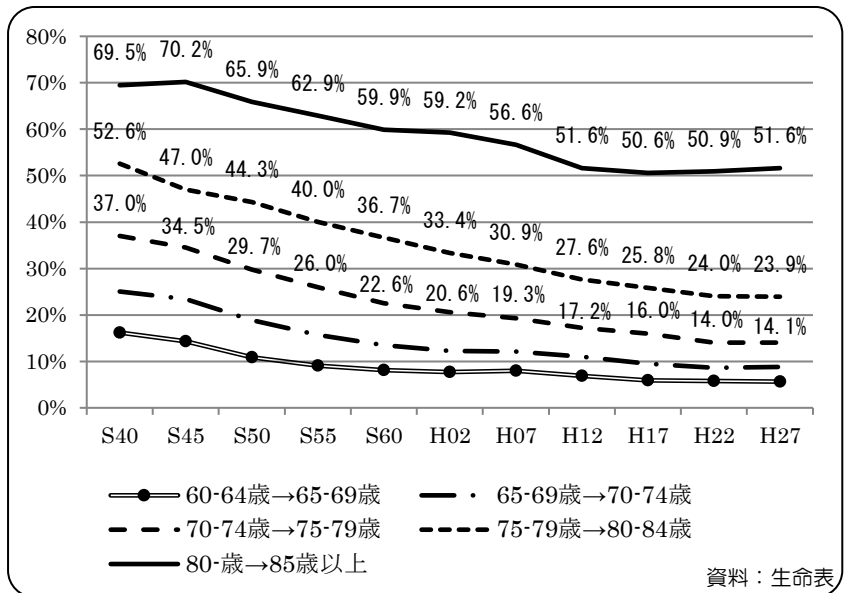
図 4-6 は、埼玉県の男性の高齢者の死亡率を年齢別に、昭和 40 年から平成 27 年にかけて表したものです。

これをみると、年齢が高いほど死亡率の高いことがわかります。

75-79 歳→80-84 歳から下の年齢の死亡率は、昭和 40 年と比べると、相当低くなっています。

また、平成 22 年と 27 年を比べると、死亡率に差がなく、下げ止まりの傾向がみられます。

図 4-6 埼玉県の男性の高齢者の死亡率の推移



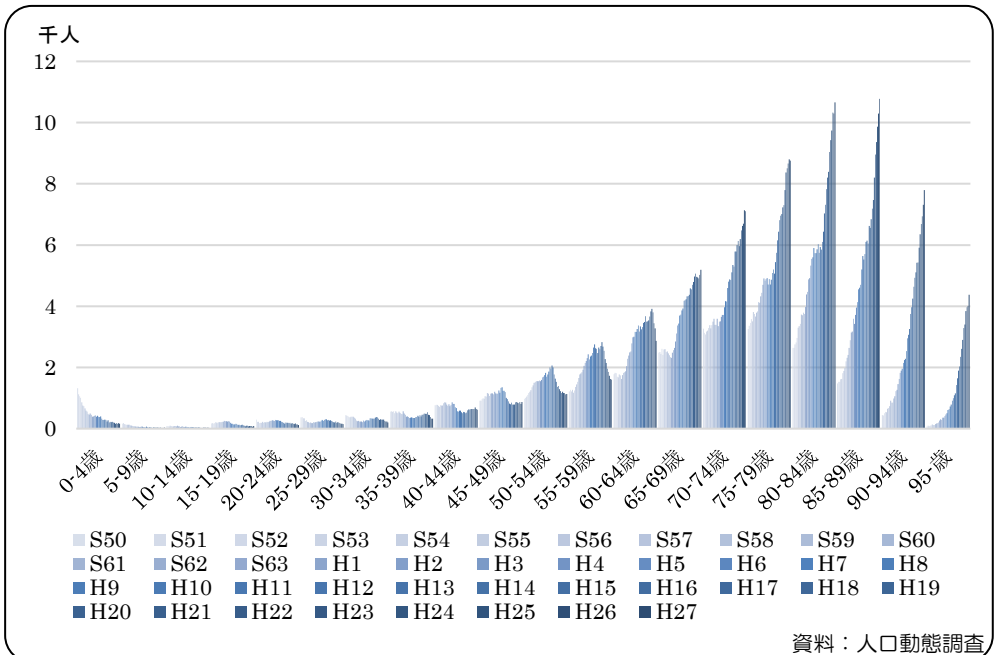
(3) 高齢化と死亡数について

図 4-7 は、男女計の死亡数を年齢別に、昭和 50 年から平成 27 年にかけて 1 年間隔で表したものです。

これをみると、60 歳以上の死亡数が、年々増加しているのがうかがえます。

特に、70 歳以上の死亡数においては、高齢者の増加に伴って死亡数も急

図 4-7 埼玉県の年齢別死亡数の推移



激に増加する傾向がみられます。

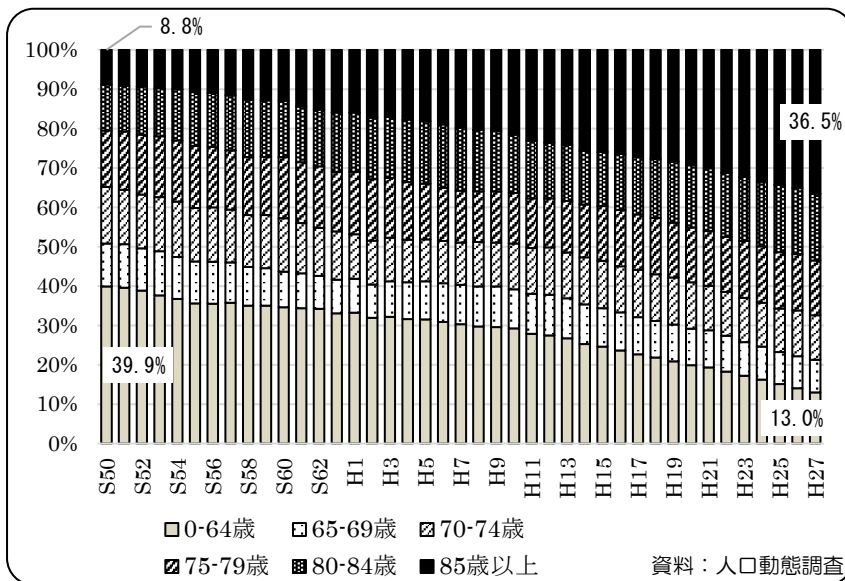
図 4-8 埼玉県の年齢別死亡数の構成比の推移

図 4-8 は、男女計の死亡数を年齢別に構成比で表したものです。

0-64 歳の死亡数の構成比は、昭和 50 年は、39.9%でしたが、平成 27 年は、13.0%と小さくなっています。

65-84 歳の死亡数の構成比は、昭和 50 年から平成 27 年にかけて、あまり変化はみられません。

85 歳以上は、昭和 50 年は、8.8%でしたが、平成 27 年は 36.5%と全死亡数の 3 分の 1 以上を占めるようになりました。図 4-6 の高齢者の死亡率から明らかなように、60 代、70



代の男性の高齢者の平成 27 年の死亡率は、24%以下となっていますが、80 歳以上→85 歳以代の死亡率は、51.6%と上昇しています。今後、80 歳以上の人口が多くなると予想されますので、85 歳以上の死亡数の構成比は高くなると推測できます。

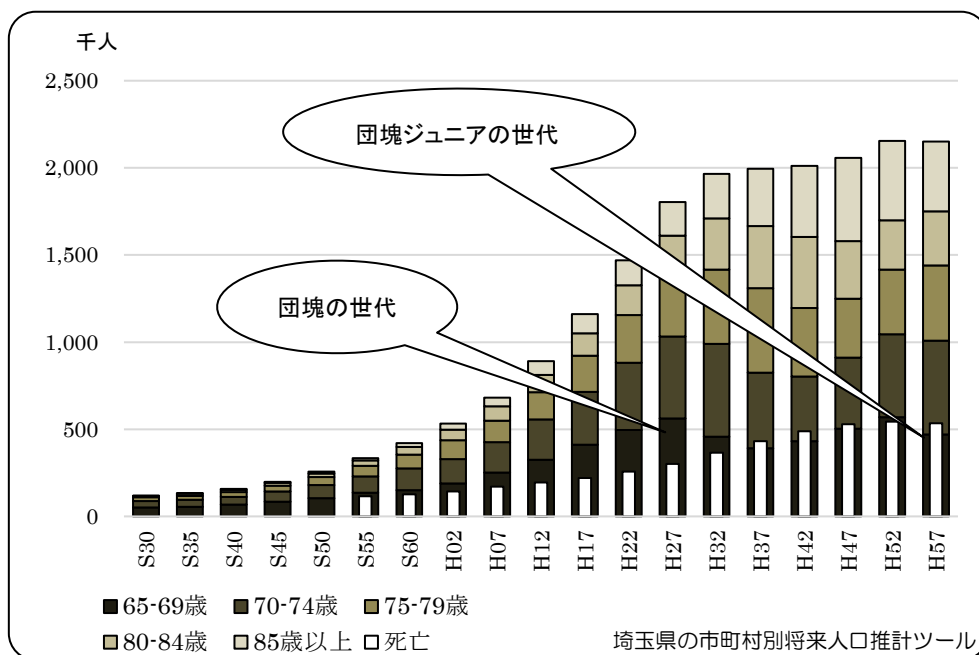
図 4-9 は、高齢者人口と死亡数を表したものです。

埼玉県の高齢者人口は、平成 32 年まで、急激に増加しますが、平成 37 年以降は緩やかな増加で推移すると推測されます。

それは、高度成長によって急激に膨らんだ生産年齢人口が高齢者人口に移行する過程で増加するのですが、団塊の世代が 65-69 歳になる平成 27 年を境に、生産年齢人口から高齢者人口へ移行する年代が減少するためです。

また、85 歳以上の人口は増加していきませんが、死亡率が 51.6%（男性）と高いため、死亡数は増加し、高齢者人口は、これまで以上の増加が進まないと推測されるからです。

図 4-9 埼玉県の高齢者人口と死亡数の推移



## 5. 埼玉県の実動人口

平成 27 年国勢調査では、5 年前の常住市区町村を調査しています。

この調査から、現在常住している市区町村に 5 年前常住していた市区町村から何人移動して来たのか（転入）、把握することができます。逆に、5 年前常住していた市区町村からの転出状況も把握することができます。

国勢調査の以上のデータを利用して、埼玉県の移動人口の状況を分析してみました。

### （1）埼玉県の年齢別移動人口の状況

図 5-1 は、年齢別に埼玉県への転入の状況をグラフ化したものです。

これをみると、移動が多い年代は、25-44 歳であることがわかります。

特に 30-34 歳は、埼玉県内での移動人口が 120 千人で、埼玉県以外から 65 千人転入しています。

30-34 歳の転入者数を地域別にみると、東京都から 30 千人、千葉県から 7 千人、神奈川県から 6 千人と首都圏からの転入者が多い状況です。

図 5-2 は、年齢別に、埼玉県からの転出の状況をグラフ化したものです。

転出の方も、25-44 歳の年代の転出者が多く、25-29 歳は 56 千人、30-34 歳は 55 千人、35-39 歳は 43 千人県外へ転出しています。

25-29 歳の転出先は、東京都へ 22 千人、神奈川県へ 6 千人、千葉県へ 5 千人と首都圏への転出者が多く、1 都 3 県での移動人口が多いことがうかがえます。

そこで、移動人口の多い 25-39 歳に絞って、関東地方の移動人口マトリックスを表 5-1 のとおり、作成してみました。これをみると、どの県も東京都との人口移動が多いことがうかがえますが、栃木県と群馬県は、東京都よりも埼玉県に多くの人口の移動があることがわかります。

図 5-1 埼玉県の年齢別転入状況（H22 年→H27 年）

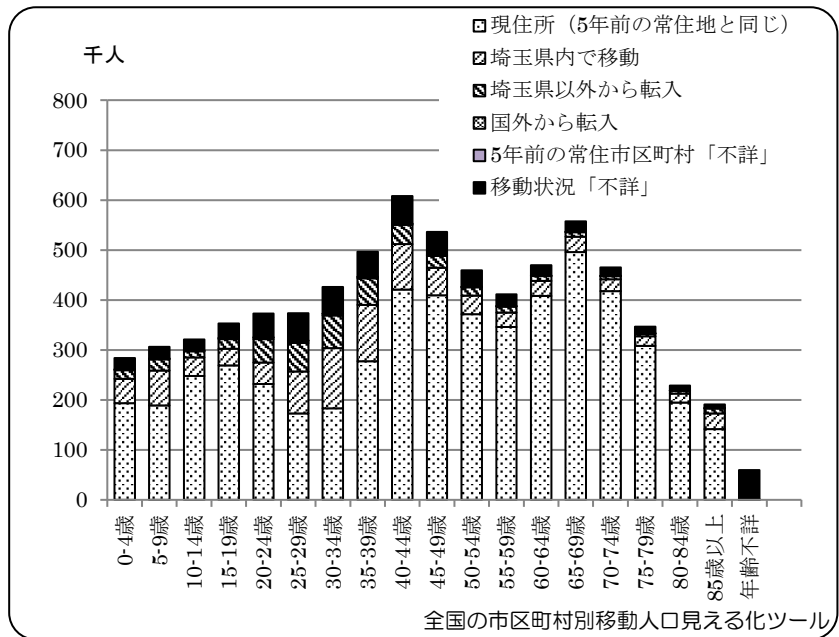


図 5-2 埼玉県の年齢別転出状況（H22 年→H27 年）

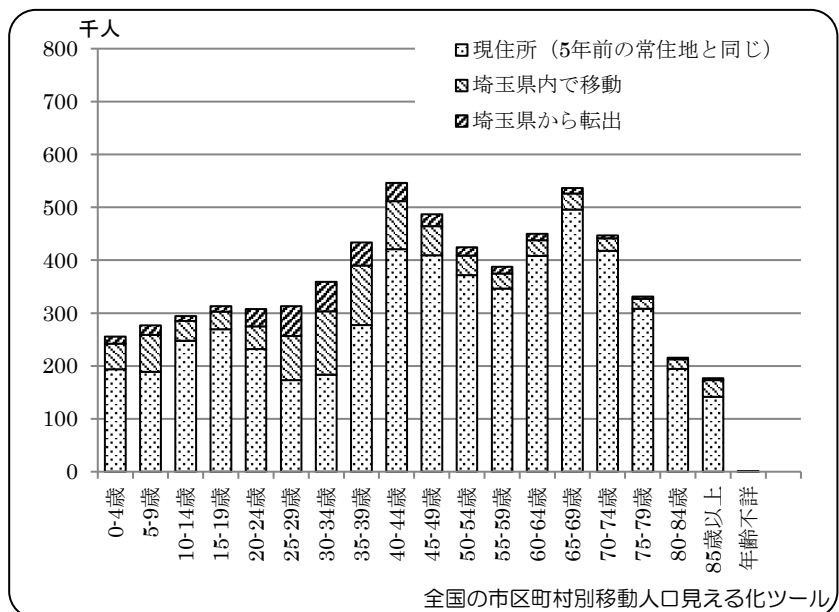


表 5-1 関東地方の 25-39 歳の移動人口マトリックス

単位：人

		現住所						
		茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
5年前 常住地	茨城県	—	4,495	1,123	5,945	9,714	9,456	4,620
	栃木県	3,524	—	3,264	5,528	1,937	4,420	2,560
	群馬県	1,013	3,029	—	6,831	1,460	4,140	2,233
	埼玉県	5,396	5,019	6,577	—	15,324	59,380	16,773
	千葉県	8,922	2,403	1,742	17,190	—	51,567	17,627
	東京都	10,593	6,683	5,722	73,814	50,423	—	92,455
	神奈川県	4,914	3,453	2,810	17,044	16,910	90,308	—

ところで、人口の多い東京都との移動人口は大きくなりますし、人口の少ない県との移動人口は小さくなる傾向にあります。しかし、人口の少ない県においては、わずかな人口の転入（転出）であっても、その県の人口増加（減少）に大きな影響を与えます。

そこで、人口移動の相対的な大きさを表す指標である交流率で、人口移動の状況を分析してみました。

交流率は、表 5-1 の移動人口のほか、7つの都県の人口（この場合は、25-39歳の人口）のデータを必要とします。例えば、栃木県から茨城県への人口の移動の交流率を計算したい場合は、移動人口（3,524人）を栃木県と茨城県の人口を掛けたもので割って、それを7つの都県の人口の合計を掛けて、交流率を計算します。

$$\text{交流率} = \frac{\text{移動人口}}{\text{出発地人口} \times \text{到着地人口}} \times \text{地域の人口}$$

表 5-2 は、関東地方の 25-39 歳の移動交流率を計算したものです。これを見ると、埼玉県は、東京都との移動交流率が高いことがうかがえますが、群馬県との移動交流率（埼玉→群馬：0.12776、群馬→埼玉：0.13269）も高いことが分かります。

埼玉県から東京都への移動交流率

$$0.12942 = \frac{59,380}{1,296,057 \times 2,871,945} \times 8,112,363$$

他県では、群馬県と栃木県の移動交流率が高く（群馬→栃木：0.21797、栃木→群馬：0.23488）なっています。

表 5-2 関東地方の 25-39 歳の移動交流率

		現住所						
		茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
5年前 常住地	茨城県	—	0.21253	0.05765	0.07587	0.14761	0.05446	0.04513
	栃木県	0.16662	—	0.23488	0.09890	0.04126	0.03569	0.03506
	群馬県	0.05200	0.21797	—	0.13269	0.03377	0.03629	0.03320
	埼玉県	0.06887	0.08980	0.12776	—	0.08812	0.12942	0.06200
	千葉県	0.13558	0.05119	0.04029	0.09885	—	0.13382	0.07758
	東京都	0.06101	0.05396	0.05016	0.16087	0.13085	—	0.15423
	神奈川県	0.04800	0.04728	0.04178	0.06300	0.07442	0.15065	—

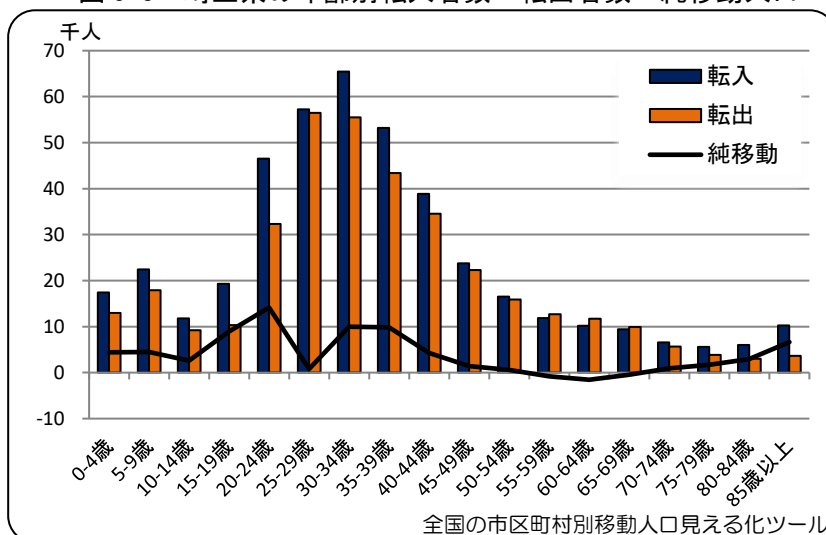
(2) 埼玉県の年齢別の転入者数・転出者数の状況

図 5-3 埼玉県の年齢別転入者数・転出者数・純移動人口

図 5-3 は、図 5-1 から埼玉県への転入者数、図 5-2 から埼玉県からの転出者数を抽出した図です。

転入者数から転出者数を引いた人口を純移動人口といい、プラスなら転入超過、マイナスなら転出超過となります。純移動人口は、折れ線グラフで表しました。

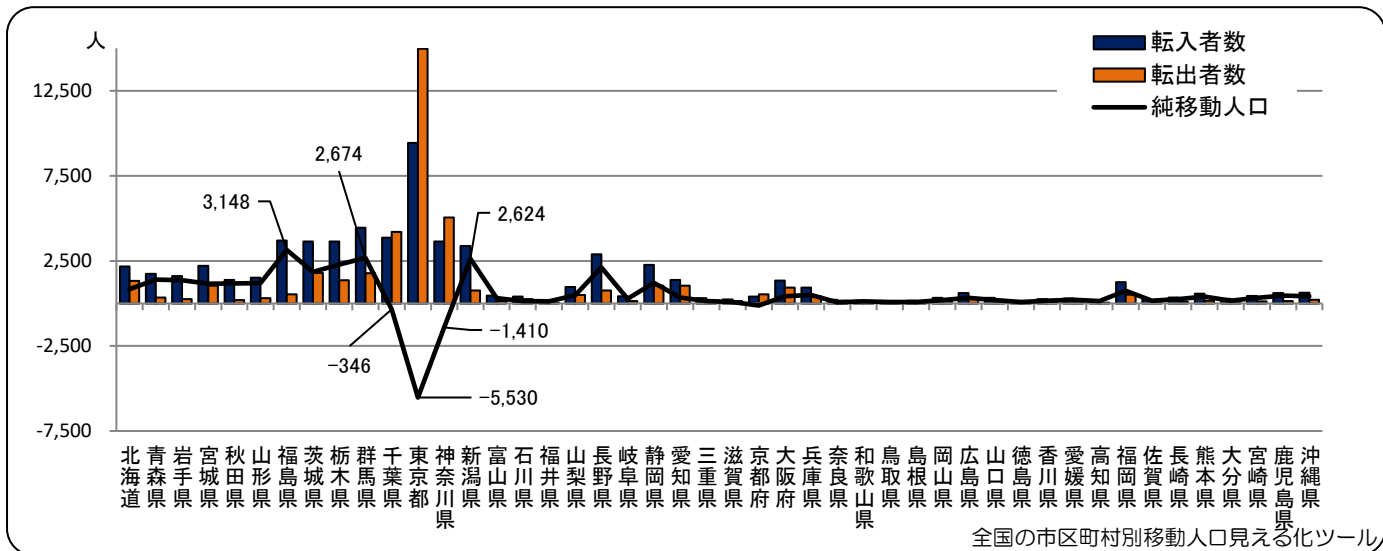
これによると、転出者数よりも転入者数が特に多い（転入超過）年代は、



15-24 歳であることが分かります。埼玉県との社会増（純移動人口）の要因となっている年代です。

そこで、転入超過である 15-24 歳の年代の転入元都道府県、転出先都道府県をグラフ化してみました。それが、図 5-4 となります。純移動人口がマイナス（転出超過）となる都道府県は、東京都（△5,530 人）、神奈川県（△1,410 人）、千葉県（△346 人）、京都府（△127 人）とわずかです。一方、純移動人口がプラス（転入超過）となる県は、福島県（3,148 人）、群馬県（2,674 人）、新潟県（2,624 人）、栃木県（2,283 人）等となっています。

図 5-4 埼玉県との都道府県別・15-24 歳の純移動人口



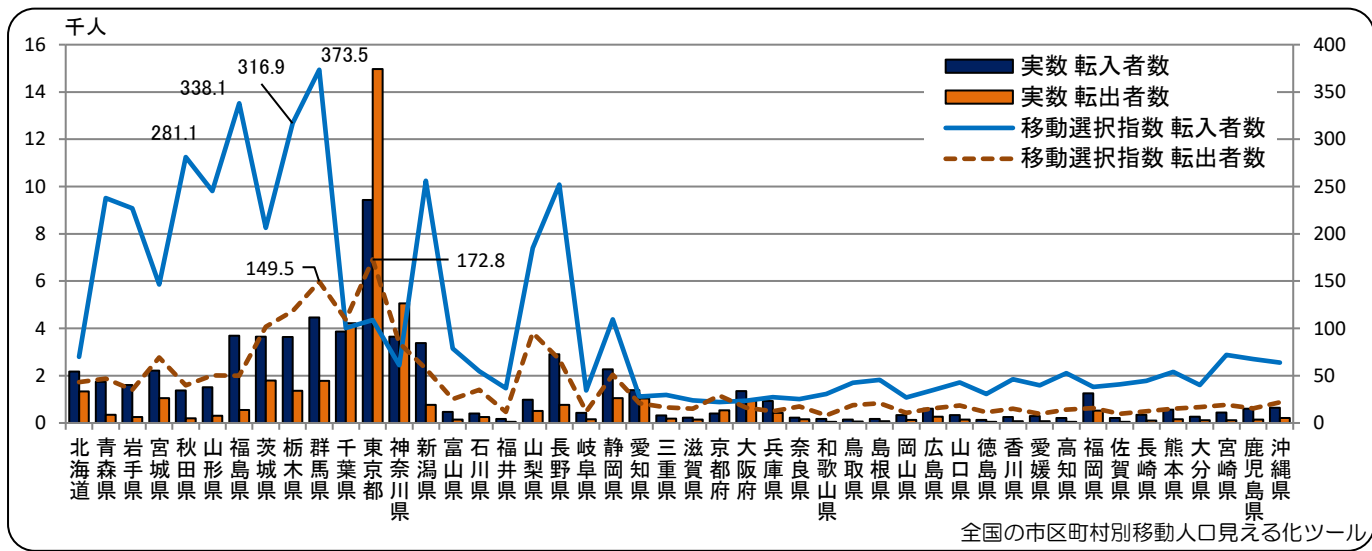
ところで、先に移動交流率について説明しましたが、移動交流率と同じような指標として、移動選択指数というものがあります。これは、特定地域（ここでは埼玉県）と移動の対象となる地域の人口の大きさに応じて発生するとされる移動期待数を計算し、それと実際の移動数との比によって、移動の大きさを測る指数です。移動選択指数を転入者数、転出者数別に計算し、指数が 100 以上だと対象となる都道府県が埼玉県に多くの人口を送り出している（あるいは、受け入れている）ということの意味しています。

$$\text{移動選択指数} = \frac{i \text{ 地域から } j \text{ 地域への移動量}}{\left[ \frac{i \text{ 地域の人口}}{\text{全地域人口}} \times \frac{j \text{ 地域の人口}}{\text{全地域人口} - i \text{ 地域の人口}} \right] \times \text{全地域の移動量}} \times 100$$

これによると、移動選択指数の高い県は、転入で群馬県（373.5）、福島県（338.1）、栃木県（316.9）、秋田県（281.1）です。東京都は、109.0 と標準的であることが分かります。埼玉県への転入は、東北地方からの転入が多いことが分かります。

転出の方は、東京都（172.8）と群馬県（149.5）が高い選択指数を示しています。

図 5-5 埼玉県との都道府県別・15-24 歳の転入者と転出者の移動選択指数



### (3) 純移動人口の矛盾について

ここで、純移動人口の見方について記述します。

表 5-3 は、平成 22 年と平成 27 年の埼玉県の人口を国勢調査から、死亡数は人口動態調査から引用したものです。

例えば、①平成 22 年の 0-4 歳の人口 (301,954 人) は、②5 年後の平成 27 年では 5-9 歳 (306,976 人) になります。5 年間で 5,022 人増加 (③コーホート変化人数) したことになります。

この人口増の要因は、自然増と社会増で成り立っていますが、この年齢の自然増は死亡しか考えられないので「人口増=△死亡数+社会増」となり、「社会増=人口増+死亡数」と計算式を変更できます。

④死亡数は 249 人なので、上記計算式から⑤社会増を計算しますと **5,271 人** となります。

一方、社会増は純移動人口ですので、「転入者数-転出者数」で表すこともできます。

平成 27 年国勢調査から⑦5-9 歳の転入者数 (22,423 人)、⑧5-9 歳の転出者数 (17,926 人) が導き出されているので、そこから⑥純移動人口を計算しますと⑦-⑧より **4,497 人** となり、⑤の純移動人口と近い数値になりました。この手法で、10-14 歳以降の純移動人口を⑤と⑥において比較しますと、大きな差のある年齢は、25-29 歳で、人口増から求めた純移動人口は、⑤**転出超過 (△12,581 人)** であったのに対して、転入・転出から求めた純移動人口は、⑥**転入超過 (784 人)** として計算され、異なった結論が導かれます。

表 5-3 埼玉県の年齢別純移動人口

単位：人

	H22人口	H27人口	コーホート変化 人数	死亡数	純移動人口	純移動人口	転入	転出
	①	②	③=② <sub>t</sub> -① <sub>t-5</sub>	④	⑤=③+④	⑥=⑦-⑧	⑦	⑧
出生	291,041							
0-4歳	301,954	284,873	-6,168	693	-5,475	4,444	17,452	13,008
5-9歳	317,862	306,976	5,022	249	5,271	4,497	22,423	17,926
10-14歳	335,011	321,808	3,946	118	4,064	2,577	11,793	9,216
15-19歳	357,066	354,632	19,621	260	19,881	8,939	19,292	10,353
20-24歳	391,721	377,601	20,535	553	21,088	14,148	46,497	32,349
25-29歳	425,926	378,332	-13,389	808	-12,581	784	57,267	56,483
30-34歳	494,035	430,565	4,639	1,005	5,644	10,011	65,480	55,469
35-39歳	608,845	500,652	6,617	1,511	8,128	9,859	53,239	43,380
40-44歳	541,038	613,314	4,469	2,664	7,133	4,304	38,844	34,540
45-49歳	463,871	540,869	-169	3,786	3,617	1,426	23,743	22,317
50-54歳	420,205	463,738	-133	4,867	4,734	571	16,497	15,926
55-59歳	484,465	414,852	-5,353	7,024	1,671	-838	11,848	12,686
60-64歳	582,296	473,976	-10,489	12,065	1,576	-1,550	10,193	11,743
65-69歳	496,035	562,361	-19,935	22,429	2,494	-491	9,413	9,904
70-74歳	385,037	469,055	-26,980	30,094	3,114	922	6,568	5,646
75-79歳	273,526	349,591	-35,446	37,650	2,204	1,718	5,593	3,875
80-84歳	172,186	230,712	-42,814	47,448	4,634	2,961	6,017	3,056
85歳以上	143,476	192,627	-123,035	126,974	3,939	6,613	10,233	3,620
計	7,194,556	7,266,534			81,135	70,895	432,392	361,497

注) 出生は、H22 年 10 月 1 日から H27 年 9 月 30 日の期間の出生数。①の計は、出生数を除く。

埼玉県の市町村別将来人口推計ツール 全国の市区町村別移動人口見える化ツール

このような違いは、5 年前の住所が確定できず「不詳」として扱われた人口が多いと、生じる可能性があります。25-29 歳の転出者数は、本来ならばもっと多くの人が転出していると推測できます。しかし、調査先の都道府県で、5 年前の常住地を不詳として扱った人が多い場合は、その都道府県における転入の人口がカウントされず、それは、埼玉県から見ると、転出の人口がカウントされないことになりますから、埼玉県の⑧転出者数は少なく見積もられ、結果、⑥の純移動人口が多くなり、⑤の純移動人口とのかい離が生じるということになります。

転入者数と転出者数、そこから導かれた純移動人口は、注意してみなければならぬ統計項目であるといえましょう。しかし、転出先や転入元がどの自治体なのか分かるので、貴重なデータといえます。

## 6. 埼玉県 of 昼間人口・夜間人口

平成 27 年国勢調査には、通勤通学先の市区町村を記入する調査項目があります。

この調査項目から、通勤通学先の人口を集計することによって昼間人口を把握することができます。(通勤通学で増えた昼間の人口を昼間人口、常住している夜の人口を夜間人口といいますが、夜間による通勤通学の場合もあるので、実際の昼間の人口、夜間の人口を表しているわけではありません。)

それによると、埼玉県の昼間人口は、6,456,452 人となり、夜間人口の 7,266,534 人よりも 810,082 人少ない状況です。昼間人口を夜間人口で割った昼夜間人口比率は 88.9%となり、約 1 割の差があります。

表 6-1 埼玉県の昼間人口・夜間人口

単位：人

	計	男	女
昼間人口	6,456,452	3,084,590	3,371,862
夜間人口	7,266,534	3,628,418	3,638,116
昼夜差	-810,082	-543,828	-266,254
比率(昼間人口÷夜間人口)	88.9%	85.0%	92.7%

全国の市区町村別昼間人口夜間人口見える化ツール

埼玉県に常住している人口(夜間人口)のうち通勤通学者数は 4,086,090 人です。

そのうち県内に通勤通学している人は 3,012,520 人で、県外に通勤通学している人は 1,073,570 人となり、通勤通学者の 4 分の 1 の人が県外に流出していることになります。

一方、県外から県内に通勤通学している流入人口は、263,494 人と流出人口の約 4 分の 1 の比率となっています。

表 6-2 埼玉県の流出人口・流入人口

単位：人

		計	男	女	計(%)
埼玉県常住者のうち通勤通学者	計	4,086,090	2,307,388	1,778,702	100.0%
	県内	3,012,520	1,579,926	1,432,594	73.7%
	流出	1,073,570	727,462	346,108	26.3%
県外	流入	263,494	183,637	79,857	—

全国の市区町村別昼間人口夜間人口見える化ツール

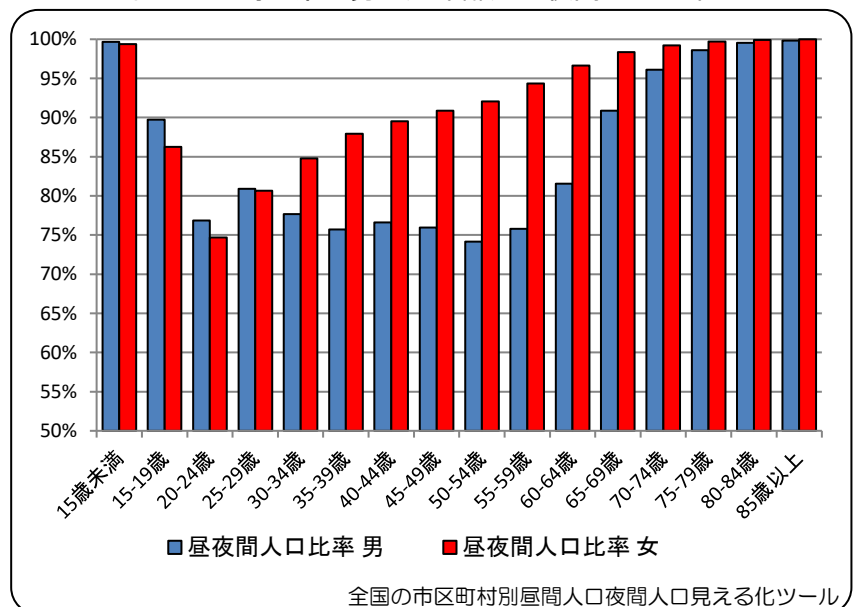
### (1) 男女別年齢別にみた昼夜間人口比率

昼夜間人口比率を年齢別にみてみましょう。

男性についてみると、20-64 歳の昼夜間人口比率は、75%前後で、15-19 歳を除いた生産年齢人口の昼夜間人口比率は、埼玉県の男性(総数)の昼夜間人口比率 85%よりも 10 ポイントも低いことになります。

女性についてみると、20-24 歳の昼夜間人口比率が 74.7%と一番低くなっており、年齢が高くなるにしたがって、昼夜間人口比率が高くなる傾向にあります。

図 6-1 埼玉県の男女別年齢別昼夜間人口比率





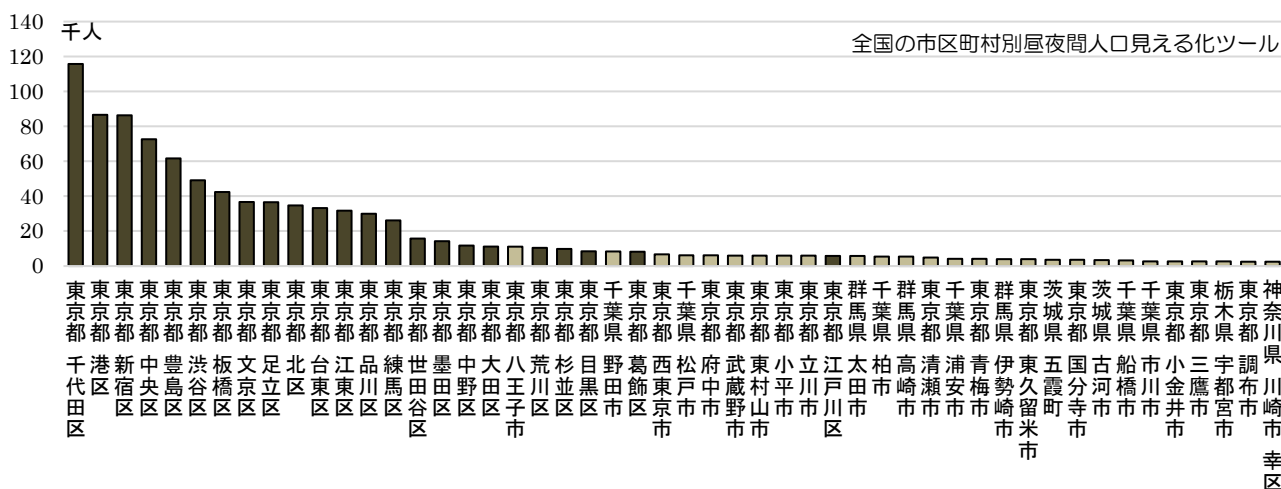
次に、15歳以上の県内常住者の通勤通学先をみてみましょう。

## (2) 15歳以上の県内常住者の通勤通学地について

埼玉県常住者の県外への通勤通学先を市区町村の多い順にグラフ化すると、図6-2のとおりとなります。一番多い市区町村は、千代田区で116千人と全流出人口の10.9%を占めています。次いで、港区の87千人(8.1%)、新宿区の86千人(8.1%)と続き、上位18位は、すべて特別区となっています。また、特別区は上位32位の中にすべて含まれています。特別区への流出人口は、839千人と全流出人口の78.6%を占めていて、埼玉県の多くの通勤通学者が特別区に流出しています。

地域単位で、流出人口をみてみると、特別区以外の東京都に91千人(8.5%)、千葉県に43千人(4.0%)、群馬県に29千人(2.7%)、神奈川県に28千人(2.6%)流出しています。

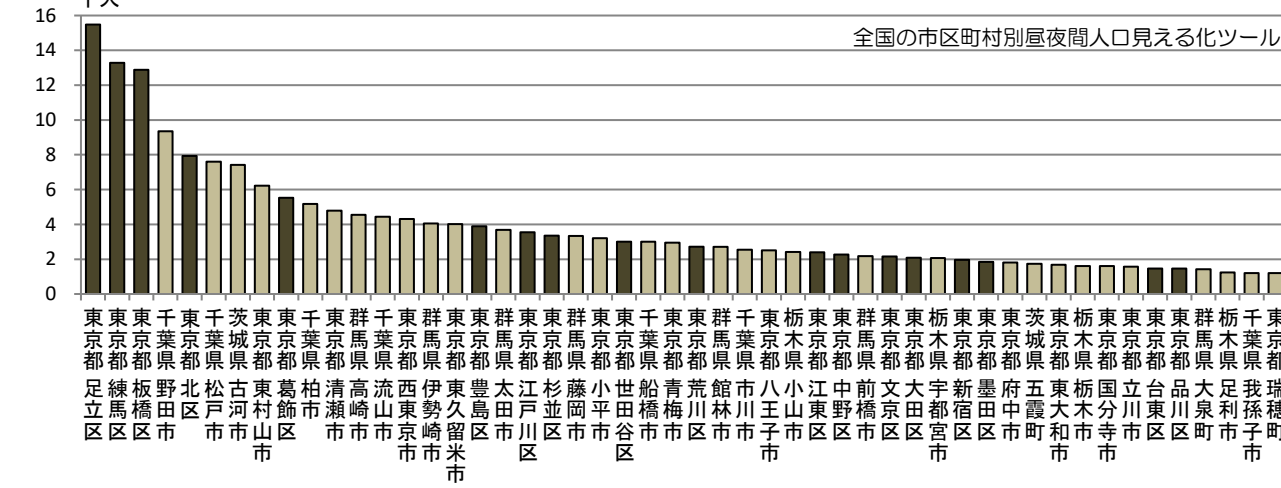
図6-2 埼玉県常住の通勤通学者(15歳以上)の流出市区町村・上位50位



埼玉県への通勤通学者を流入人口の多い順に市区町村別にグラフ化したのが、図6-3となります。一番多い市区町村は、足立区で15千人と全流入人口の5.9%を占めています。次いで、練馬区の13千人(5.1%)、板橋区の13千人(4.9%)、千葉県野田市の9千人(3.6%)となっています。

地域単位で、埼玉県への流入人口をみてみると、特別区から91千人(34.8%)、特別区以外の東京都から49千人(18.6%)、千葉県から41千人(15.8%)、群馬県から28千人(10.6%)、茨城県から18千人(6.8%)、神奈川県から14千人(5.4%)となっています。

図6-3 埼玉県への通勤通学者(15歳以上)の流入市区町村・上位50位



次に、関東地方の都県の15歳以上の通勤通学者の流入・流出人口をひとまとめにした通勤通学マトリックスを表6-3のとおり、作成してみました。

これをみると、東京都への流出人口は神奈川県が一番多く1,059千人、次に埼玉県930千人、千葉県714千人と続きます。茨城県、栃木県、群馬県は、地理的な要因もあり、東京都への流出人口は、埼玉・千葉・神奈川と比べると多くはありません。東京都からの流出人口は、神奈川県、埼玉県、千葉県の順に多いのですが、流入人口に比べるといずれも少なく、通勤通学は、東京都に集中していることがうかがえます。

表 6-3 関東地方の15歳以上の通勤通学マトリックス

単位：人

		通勤通学地						
		茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
常住地	茨城県	—	22,007	1,160	17,714	41,576	67,156	3,742
	栃木県	18,132	—	23,406	11,952	1,196	17,269	1,770
	群馬県	1,071	16,385	—	27,766	893	13,590	1,518
	埼玉県	14,381	9,991	29,065	—	42,850	930,050	28,067
	千葉県	34,707	1,140	790	41,286	—	713,547	25,917
	東京都	7,530	2,762	2,245	139,434	81,139	—	234,344
	神奈川県	2,680	1,428	1,150	13,980	14,853	1,059,202	—

ところで、人口の多い東京都への流入・流出人口は大きくなり、人口の少ない県への流入・流出人口は小さくなる傾向にあります。そこで、人口移動の相対的な大きさを表す指標である交流率で、流入・流出の状況を分析してみました。

これによると、交流率の一番高いところは、埼玉県から東京都への流出(0.46859)となります。次いで、神奈川県から東京都への流出(0.42516)、千葉県から東京都への流出(0.42195)となります。

茨城県、栃木県、群馬県から東京都への流出の交流率は、0.1よりも低くなっています。

埼玉県から群馬県への流出の交流率は、0.10078、群馬県から埼玉県への流出の交流率は、0.09628となっていて、比較的高い率を示しています。

埼玉県以外の地域で交流率の高いところでは、群馬県から栃木県への流出の交流率が0.20893、栃木県から群馬県への流出の交流率が0.29846と高く、群馬県と栃木県の結びつきが高いことをうかがわせています。

表 6-4 関東地方の15歳以上の通勤通学交流率

		通勤通学地						
		茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
常住地	茨城県	—	0.19003	0.01005	0.04159	0.11458	0.08457	0.00700
	栃木県	0.15657	—	0.29846	0.04129	0.00485	0.03200	0.00487
	群馬県	0.00928	0.20893	—	0.09628	0.00363	0.02527	0.00419
	埼玉県	0.03377	0.03452	0.10078	—	0.04725	0.46859	0.02101
	千葉県	0.09565	0.00462	0.00322	0.04552	—	0.42195	0.02277
	東京都	0.00948	0.00512	0.00417	0.07025	0.04798	—	0.09407
	神奈川県	0.00501	0.00393	0.00318	0.01046	0.01305	0.42516	—

## 第2部

### 埼玉県地域別人口分析

# 1. 埼玉県地域別人口

第1部では、埼玉県の人口についてみてきましたが、ここから、埼玉県を以下の12の地域に分けて、比較分析してみましょう。

- 1 南部地域 川口市、蕨市、戸田市
- 2 南西部地域 朝霞市、志木市、和光市、新座市、富士見市、ふじみ野市、三芳町
- 3 東部地域 春日部市、草加市、越谷市、八潮市、三郷市、吉川市、松伏町
- 4 県央地域 鴻巣市、上尾市、桶川市、北本市、伊奈町
- 5 川越地域 川越市、坂戸市、鶴ヶ島市、毛呂山町、越生町
- 6 東松山地域 東松山市、滑川町、嵐山町、小川町、川島町、吉見町、鳩山町、ときがわ町、東秩父村
- 7 西部地域 所沢市、飯能市、狭山市、入間市、日高町
- 8 利根地域 行田市、加須市、羽生市、久喜市、蓮田市、幸手市、白岡市、宮代町、杉戸町
- 9 熊谷地域 熊谷市、深谷市、寄居町
- 10 本庄地域 本庄市、美里町、神川町、上里町
- 11 秩父地域 秩父市、横瀬町、皆野町、長瀨町、小鹿野町
- 12 さいたま市

## (1) 地域別にみた人口

平成27年の埼玉県の人口を地域別にみると、さいたま市が最も多く、1,264千人、次いで、東部地域(1,140千人)、南部地域(787千人)、西部地域(778千人)、南西部地域(709千人)の順となり、東京近郊の地域に人口が集中しています。

上位5地域で、県全体の64.4%と、3分の2の人口が集中しています。

人口の少ない地域は、秩父地域の102千人、本庄地域の133千人、東松山地域の228千人となっています。

人口密度で見ると、南部地域の人口密度が最も高く、9,221人/km<sup>2</sup>となっています。

次に人口密度の高い地域は、南西部地域の6,397人/km<sup>2</sup>、さいたま市の5,814人/km<sup>2</sup>の順となっています。

人口密度の低い地域は、秩父地域の114人/km<sup>2</sup>です。

図7-1 地域別人口 (H27)

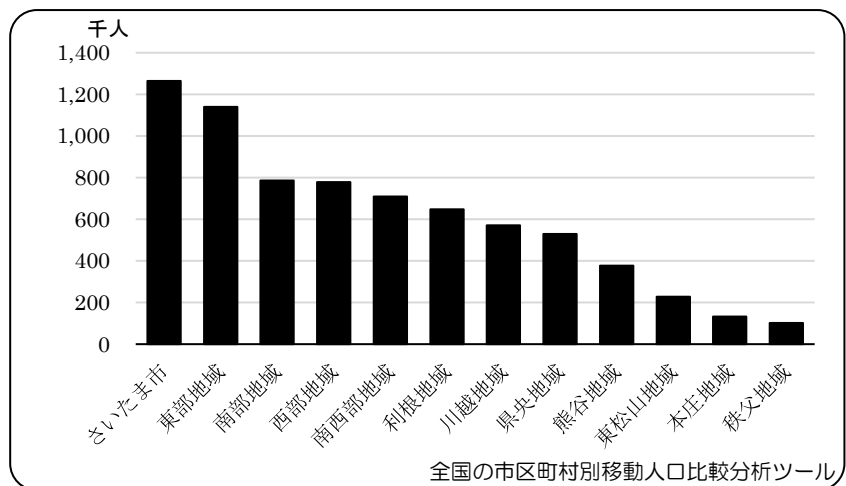
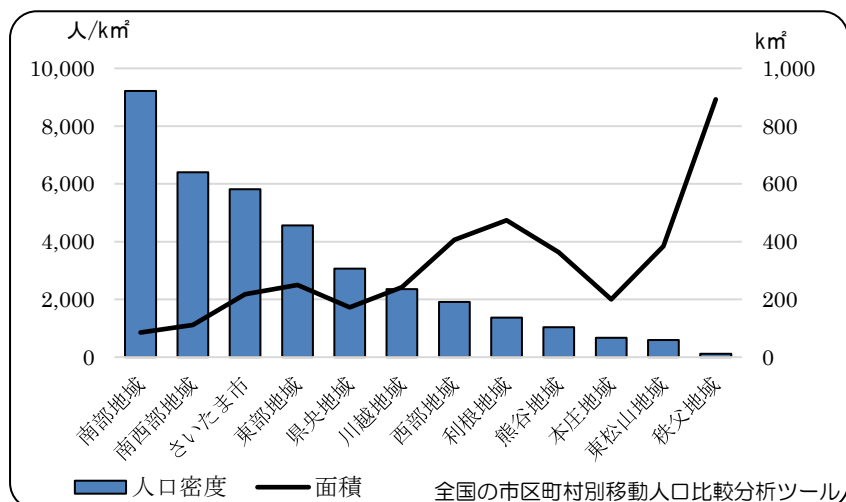


図7-2 地域別人口密度と面積 (H27)



## (2) 地域別にみた人口増減数と増減率

平成 22 年から平成 27 年にかけて人口が増加した地域は、さいたま市（42 千人増）、南部地域（30 千人増）、東部地域（22 千人増）、南西部地域（19 千人増）、川越地域（6 千人増）の 5 地域です。

逆に人口が減少した地域は、県央地域（6 百人減）、東松山比企地域（5 千人減）、北部本庄地域（6 千人減）、秩父地域（7 千人減）、熊谷地域（7 千人減）、西部地域（10 千人減）、利根地域（12 千人減）の 7 地域です。

人口減少率では、秩父地域が△6.1%と他の地域と比べ、高い率となっています。

年少人口が増加している地域は、南西部地域のみですが、増加人数は 279 人増となっています。

減少している地域は、西部地域が最も多く、8 千人減、次いで、東部地域、利根地域の順となっています。秩父地域は、2 千人減と減少数は少ないのですが、減少率で見るとは△13.6%と 12 地域中、最も高い率となっています。

生産年齢人口は、いずれの地域も減少しています。

12 地域中、西部地域の人口の減少が一番多く、47 千人減となっており、減少率も△9.1%と高い率となっています。

減少率が最も高い地域は、秩父地域の△10.4%で、次いで東松山地域の△10.2%、本庄地域の△9.5%、利根地域の△9.1%の順となっています。

逆に南部地域、南西部地域、さいたま市は、他の地域に比べて、低い減少率となっています。

図 7-3 地域別にみた人口増減数と人口増減率（H22→H27）

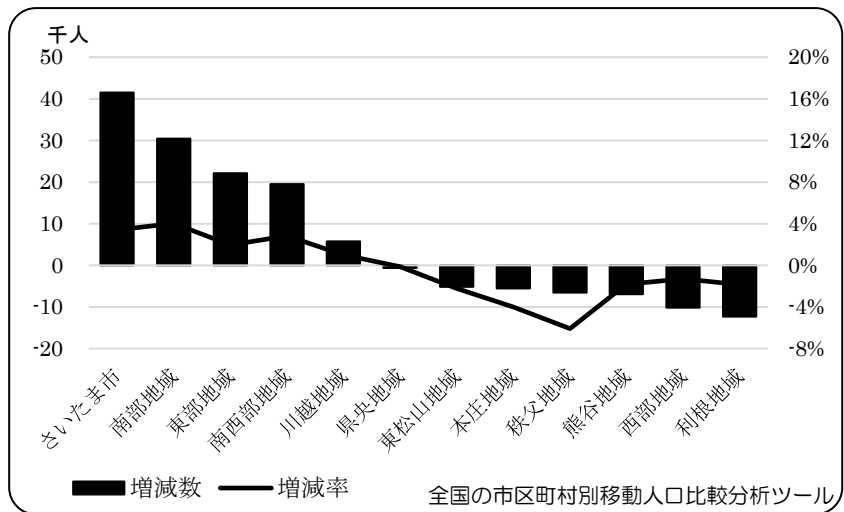


図 7-4 地域別にみた年少人口増減数と人口増減率（H22→H27）

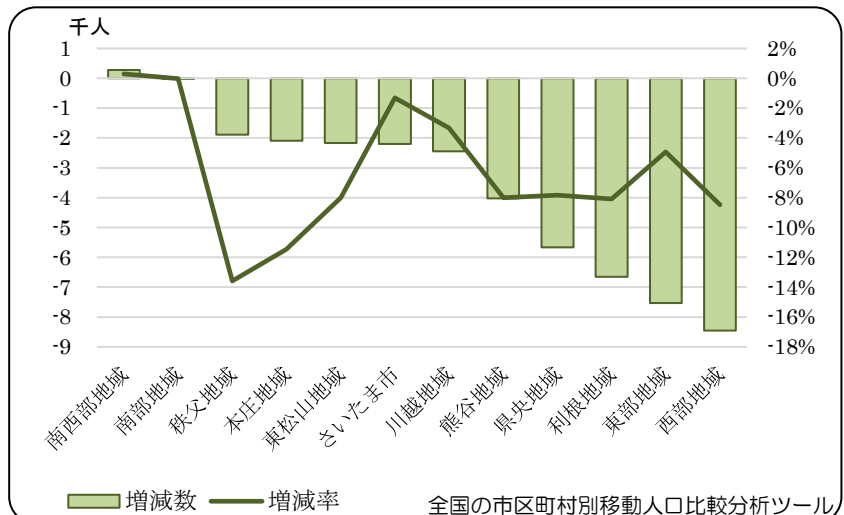
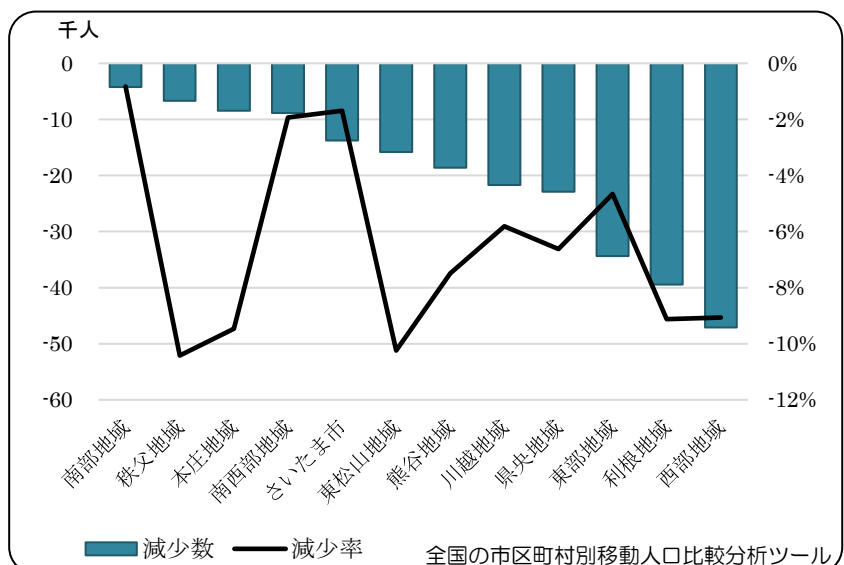


図 7-5 地域別にみた生産年齢人口減少数と人口減少率（H22→H27）



高齢者人口は、すべての地域で増加していますが、東部地域の高齢者人口の増加数が 57 千人増と一番多く、増加率も 26.0%と一番高くなっています。

次いで、さいたま市の 51 千人増、西部地域の 38 千人増、利根地域の 33 千人増の順となっています。

増加数の一番少ない地域は、秩父地域の 2 千人増で、増加率も 6.4%と一番低くなっています。

20 代 30 代女性人口は、すべての地域で減少しています。

減少数の一番少ない地域は秩父地域ですが、減少率は△17.2%と一番高くなっています。

秩父地域に次いで高い減少率の地域は、西部地域で△16.4%、減少数も△16 千人と多くなっています。

減少数が最も多い地域は、東部地域で、18 千人減となっています。

地域別に人口の増減についてみてきましたが、特徴的な地域としては、東部地域、西部地域、南部地域、秩父地域があげられます。

東部地域は、全体の人口は増加していますが、増加の要因は、主に高齢者人口にあり、12 地域中最も高い増加数と増加率を示しています。その半面年少人口と生産年齢人口の減少数が多くなっています。

同じような傾向は、西部地域についてもいえます。西部地域は、東部地域と異なり、全体の人口は減少しています。一方、年少人口と生産年齢人口は、12 地域中最も減少人数が多い地域です。高齢者人口は増加数は 3 番目に多くなっています。

南部地域は、唯一、年少人口が増加している地域です。生産年齢人口は減少しているのですが、他の地域ほど減少率は高くなく、比較的安定して推移している地域といえます。

秩父地域は、人口が少ないため、年少人口や生産年齢人口、高齢者人口の増減数は少ないのですが、率でみると、年少人口と生産年齢人口の減少率が一番高く、人口の減少が急速に進んでいくと予測されます。特に 20 代 30 代女性の人口減少率が 12 地域中最も高いため、出生数は更に減少していくと推測されます。

図 7-6 地域別にみた高齢者人口増加数と人口増加率 (H22→H27)

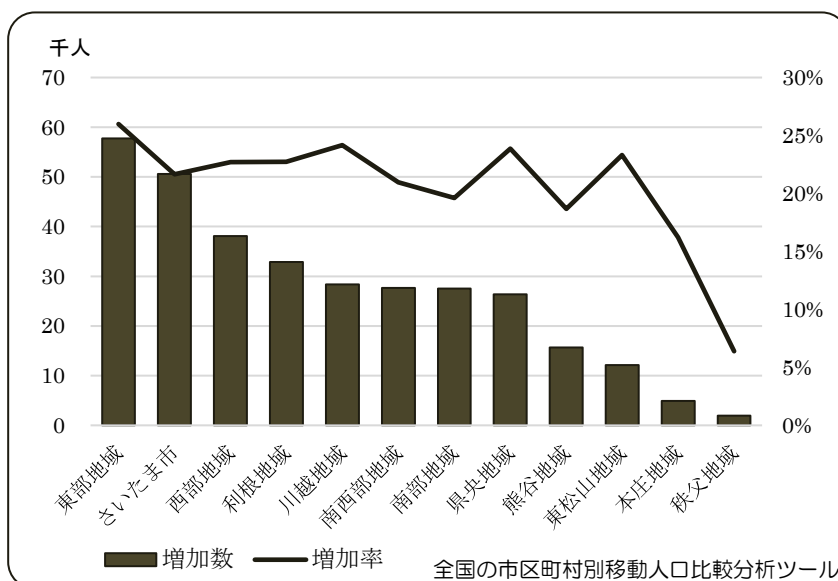
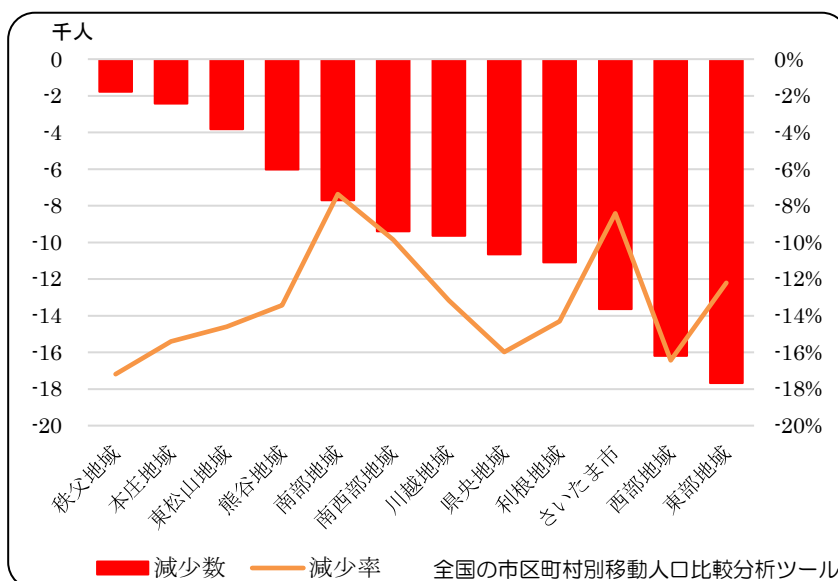


図 7-7 地域別にみた 20 代 30 代女性人口減少数と人口減少率 (H22→H27)



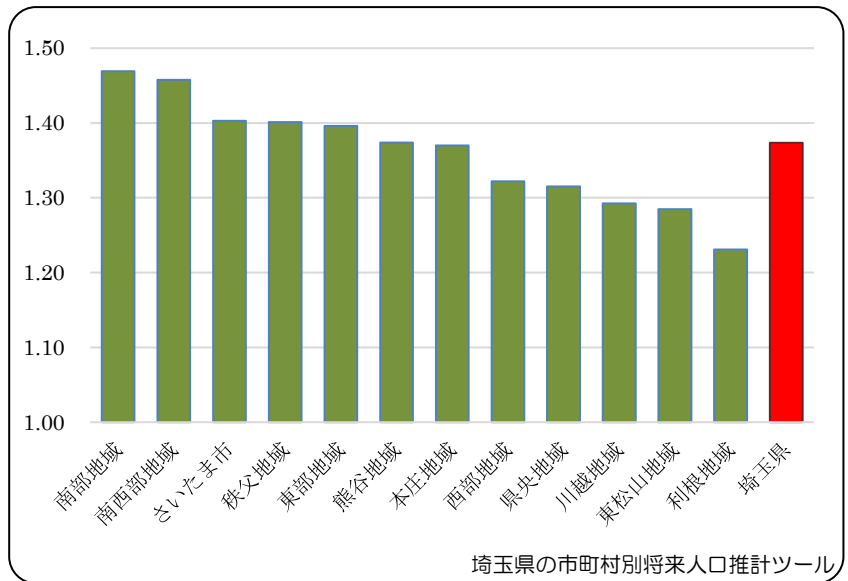
## 2. 地域別にみた出生率

平成 27 年の合計特殊出生率を地域別にみると、南部地域の合計特殊出生率が 1.47 と一番高く、次いで、南西部地域（1.46）、さいたま市（1.40）、秩父地域（1.40）と続いています。合計特殊出生率の高い地域は、東京近郊に位置する地域に多くみられます。

合計特殊出生率の最も低い地域は、利根地域で、1.23 と南部地域と比べて、0.24 ポイントの開きがあります。

また、川越地域、東松山地域も低く、それぞれ、1.29、1.28 となっています。

図 8-1 地域別合計特殊出生率



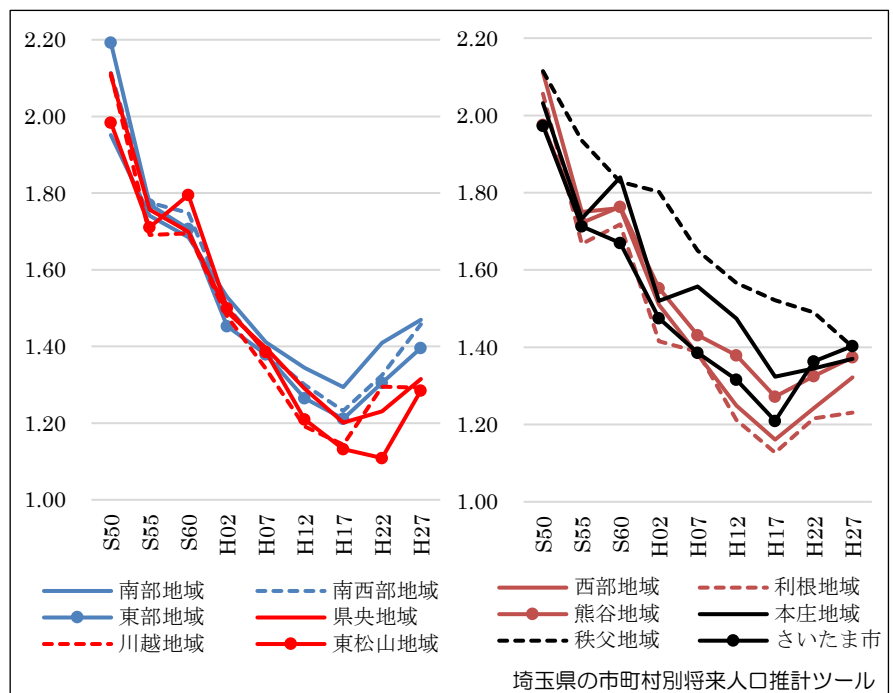
### (1) 地域別にみた合計特殊出生率の推移

図 8-2 は、合計特殊出生率を、昭和 50 年から平成 27 年にかけて 5 年間隔で、地域ごとにグラフ化したものです。合計特殊出生率は、東松山地域と秩父地域を除いて、平成 17 年に最低水準を記録しましたが、平成 22 年から回復しています。

昭和 50 年において合計特殊出生率が一番高かった東部地域（2.19）は、平成 17 年まで年々合計特殊出生率が低下しましたが、平成 27 年は 1.40 と上位から 5 番目となりました。

東松山地域は、平成 22 年に 1.11 と過去最低の合計特殊出生率を示

図 8-2 地域別合計特殊出生率の推移



しました。しかし、平成 27 年には上向きとなり、1.28 と 0.17 ポイント回復しています。

利根地域は、昭和 50 年が、2.10 と県の平均的な出生率でしたが、平成 27 年では、1.23 と、12 地域中 12 番目の出生率となりました。

秩父地域は、昭和 50 年頃から常に上位に位置していますが、一貫して右下がりで推移し、平成 27 年は他の地域とほぼ同じ出生率となっています。

注) 合計特殊出生率及び母の年齢別出生率は、出生数も女性人口も日本国籍の人数で計算するところですが、ここでは、外国国籍も含めた出生数、女性人口で計算しているため、県の保健医療政策課で公表している結果と異なります。

## (2) 母の年齢別にみた出生率の推移

母の年齢別出生率の推移を地域別にみてみましょう。

母の年齢が 20-24 歳の出生率の推

移を表した図が、図 8-3 です。

20-24 歳の出生率は、全地域で低下傾向にあります。埼玉県全体でみると、昭和 50 年は 0.5383 の出生率でしたが、平成 27 年は 0.1236 と昭和 50 年の約 5 分の 1 の出生率にまで低下しています。

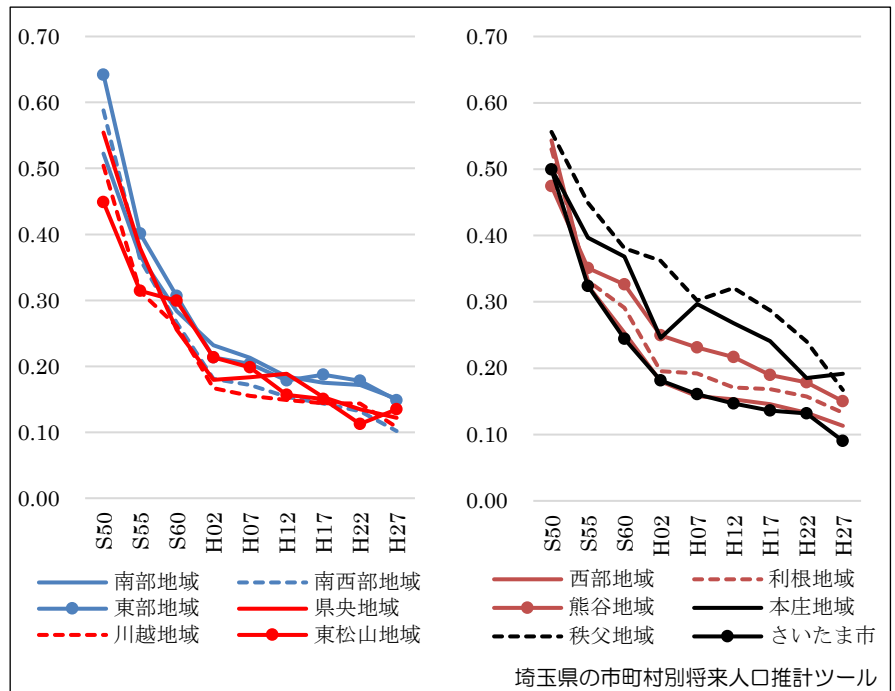
昭和 50 年で、最も高い出生率であった東部地域 (0.6422) は、平成 27 年には、0.1485 と低下しています。

出生率が常に上位に位置している地域は、秩父地域と本庄地域で、秩父地域は昭和 55 年から平成 22 年にかけて常に 1 位の出生率となっていました。

ら出生率が、急激に低下し、平成 27 年は、他の地域とほとんど差がない状況となっています。

一方、さいたま市は、常に下位に位置し、平成 27 年は 0.0903 と 12 地域中 12 番目の出生率にまで低下しました。1 位の本庄地域 (0.1914) の出生率と比較すると 2 分の 1 以下の出生率となっています。

図 8-3 母の年齢が 20-24 歳の出生率の推移



母の年齢が 25-29 歳の出生率の推移をみてみましょう。

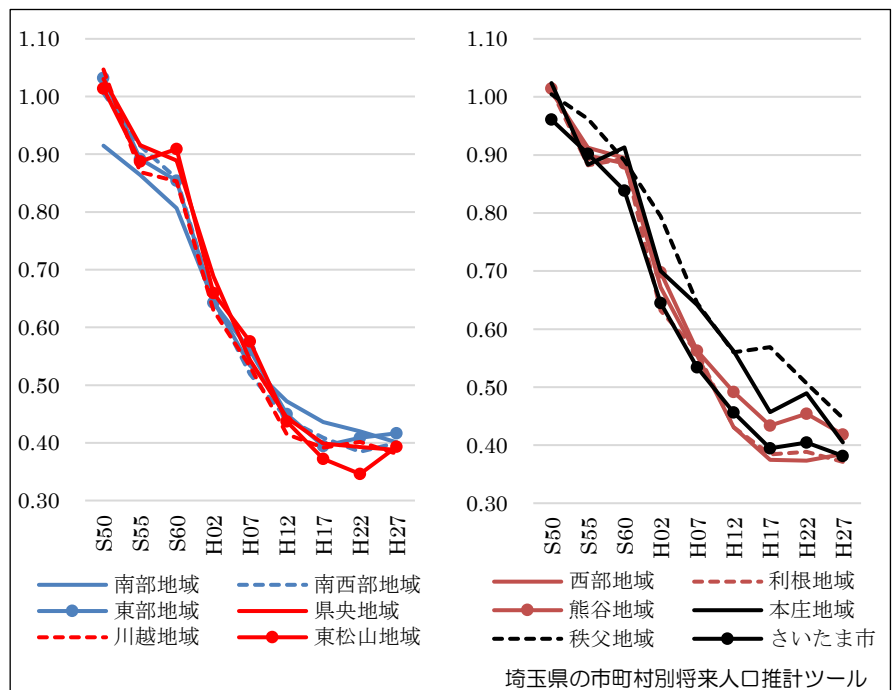
25-29 歳の出生率は、平成 2 年から急激に減少していますが、平成 22 年から下げ止まり傾向にあります。

埼玉県全体でみると昭和 50 年が 0.9981 で平成 27 年が 0.3942 と、40 年間で半分以下に低下しています。

ここでも秩父地域、本庄地域の出生率が上位で推移していますが、平成 27 年になると、他の地域との差があまり見られなくなります。

一方、東松山地域は、平成 22 年の出生率が 0.3461 と最低水準を記録しています。

図 8-4 母の年齢が 25-29 歳の出生率の推移





母の年齢が 30-34 歳の出生率をみてみましょう。

30-34 歳の出生率は、昭和 50 年から昭和 55 年にかけてやや低下しますが、昭和 60 年からどの地域も急上昇しています。しかし、平成 7 年頃から低下し始めます。平成 17 年で下げ止まり、平成 22 年から再び上昇に転じています。

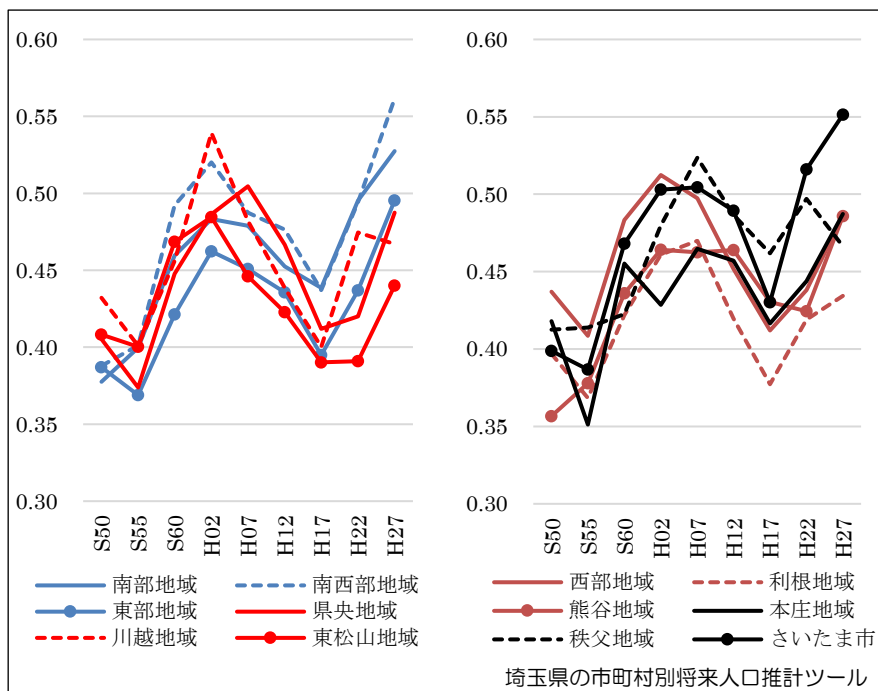
平成 27 年の出生率が高い地域は、南西部地域 (0.5615)、さいたま市 (0.5514)、南部地域 (0.5274) となっており、埼玉県の南に位置する地域に集中しています。

一方、出生率の低い地域は、利根地域 (0.4343)、東松山地域

(0.4400) で、出生率の一番高い南西部地域と比べると、0.12 ポイントの差があります。

秩父地域は、平成 22 年と平成 27 年の出生率を比較すると、0.4970 から 0.4664 と低下しており、他の地域と異なる推移を示しています。

図 8-5 母の年齢が 30-34 歳の出生率の推移



母の年齢が 35-39 歳の出生率をみてみましょう。

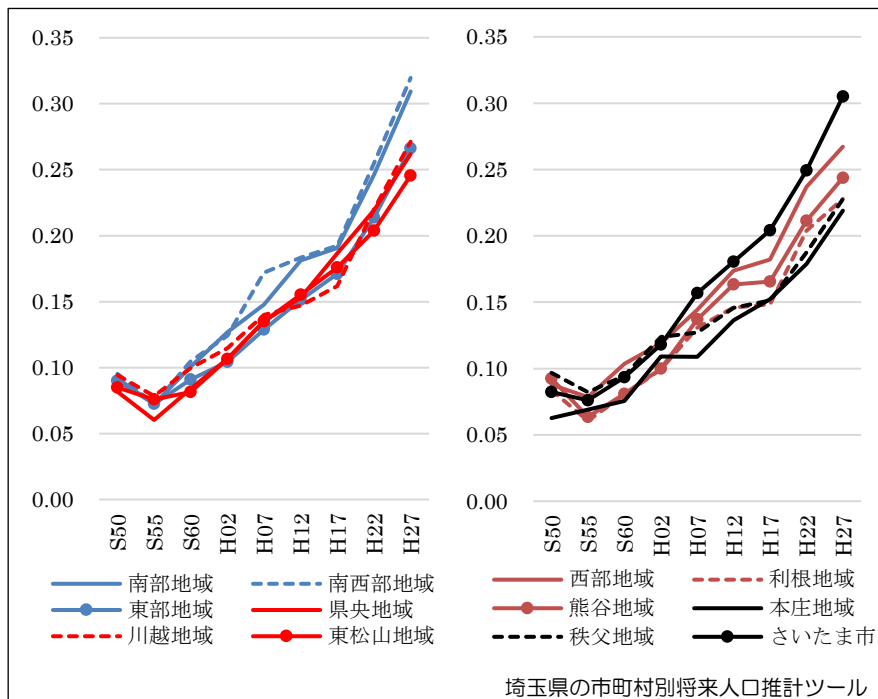
35-39 歳の出生率は、昭和 50 年はどの地域も 0.09 ぐらいの出生率でしたが、昭和 60 年頃から上昇に転じ、近年、その上昇幅は、更に高くなっています。

特に、南西部地域、南部地域、さいたま市の上昇率が高く、平成 27 年の出生率は、南西部地域が 0.3196、南部地域が 0.3093、さいたま市が 0.3050 と他の地域を引き離しています。

20-24 歳、25-29 歳の出生率で上位に位置していた秩父地域、本庄地域は、ここでは、0.2277、0.2190 と下位に位置しています。

今後も晩婚化、晩産化が続くとすると、35-39 歳の出生率の上昇は、更に続くと推測できます。

図 8-6 母の年齢が 35-39 歳の出生率の推移



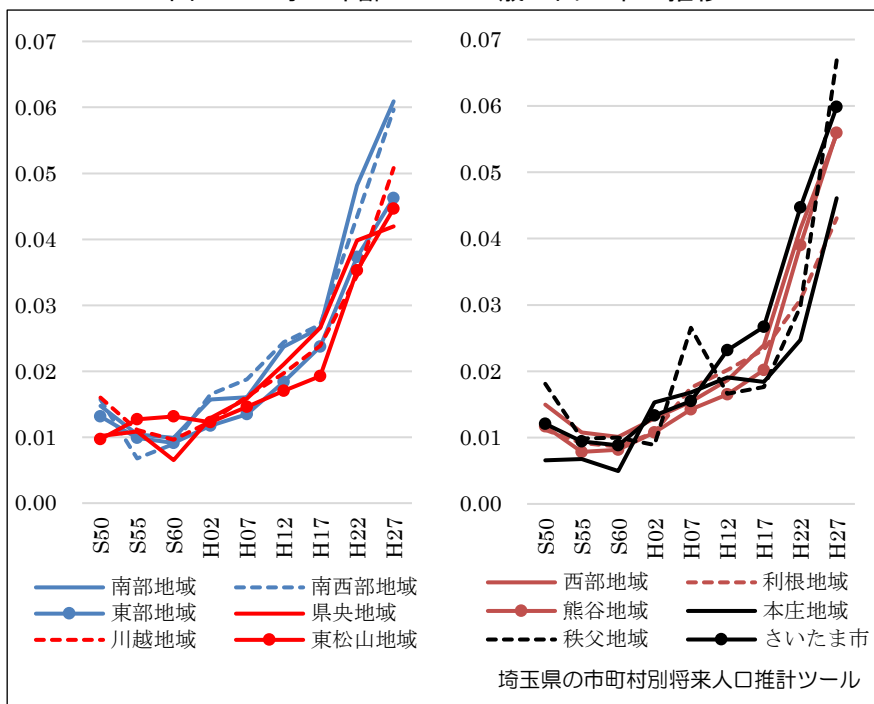
母の年齢が 40-44 歳の出生率を  
みてみましょう。

40-44 歳の出生率は、平成 2 年頃  
から緩やかに上昇しはじめていま  
す。図 8-6 をみると急激に上昇して  
いるようにみえますが、目盛りが  
0.01 単位なので、他の年齢と比べ  
ると緩やかな上昇といえるでしょ  
う。

昭和 55 年の出生率が 0.01 前後だ  
ったのに対して、平成 27 年は 0.04  
から 0.07 の範囲で上昇しており、  
晩産化の傾向がうかがえます。

埼玉県全体の出生率でみると、平  
成 12 年が 0.0205、平成 17 年が  
0.0246 とほぼ横ばいでしたが、平  
成 22 年が 0.0402、平成 27 年が 0.0532 と近年、上昇の幅が大きくなっています。

図 8-6 母の年齢が 40-44 歳の出生率の推移



### (3) 出生率と女性の有配偶率の関係について

ところで、出生率の低下は、有配偶率の低下（あるいは未婚率の上昇）と関係があるのでしょうか。ここでは、平成 27 年のデータから、母の年齢別出生率と女性の有配偶率からその関係を分析してみました。

図 8-7 は、縦軸に 25-29 歳の女性  
の有配偶率を、横軸に母の年齢が 25-  
29 歳の出生率をとり、市町村別に散  
布図を描いたものです。この年代の  
埼玉県の有配偶率は、35.0%で、出生  
率は 0.3942 です。

出生率の一番低い東秩父村は、左  
下に位置し、有配偶率は 10.2%、出  
生率は 0.1020 となっています。次に  
出生率の少ない市町村は吉見町で、  
有配偶率が 23.0%、出生率が 0.1986  
となっています。有配偶率が低い市  
町村は、比企郡・入間郡周辺の町村  
に多くみられます。

一方、有配偶率、出生率ともに率  
が高い町は、滑川町で、有配偶率が  
48.6%、出生率が 0.6527 となってい  
ます。

ときがわ町と横瀬町の有配偶率は、ときがわ町が 15.5%、横瀬町が 45.8%と大きく離れていますが、出生率が 0.40 近くとほぼ等しいところもあります。しかし、総合的にみると有配偶率と出生率には相関がみられます。

図 8-7 母の年齢 25-29 歳の出生率と 25-29 歳女性有配偶率の関係

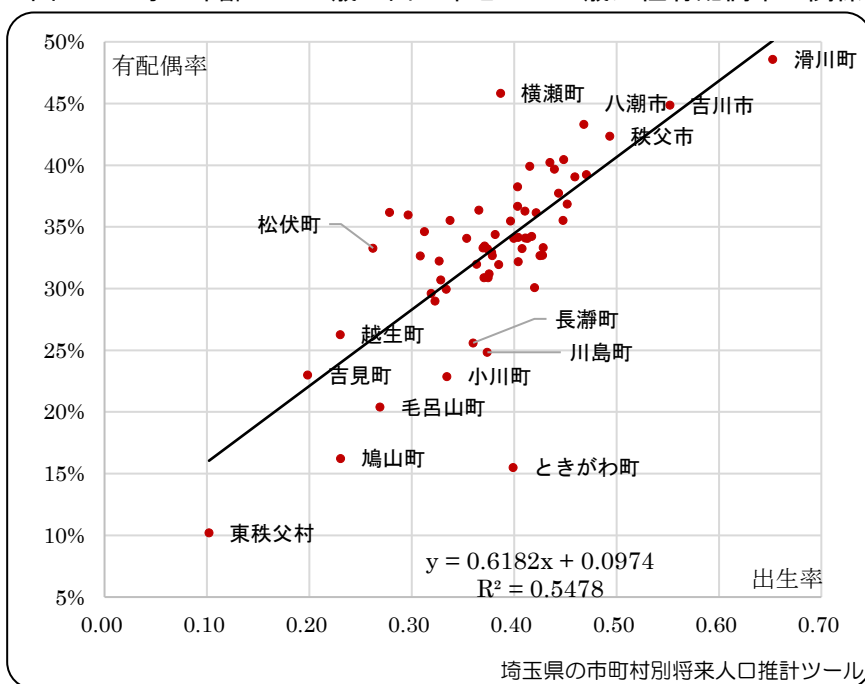


図 8-8 は、30-34 歳の女性の有配偶率と、母の年齢が 30-34 歳の出生率の関係を市町村別に描いた散布図です。この年代の埼玉県の有配偶率は、61.9%で、出生率は 0.5059 です。

有配偶率が一番低い市町村は、鳩山町で 37.1%、次いで東秩父村、ときがわ町の 43.1%と続いています。

出生率からみると、東秩父村が 0.1961 と一番低く、次いで、皆野町 0.2703、鳩山町 0.2823 と続いています。

この年代も比企郡・入間郡周辺の町村の有配偶率が低く、それに比例するように出生率も低くなっています。

一方、有配偶率、出生率ともに高い値を示している市は戸田市（有配偶率 71.3%、出生率 0.6039）となっています。次が朝霞市（有配偶率 69.4%、出生率 0.6023）となっています。有配偶率、出生率ともに高い率を示す地域は、埼玉県南部に集中しているようです。

この年代の有配偶率と出生率は、高い相関がみられます。

図 8-8 母の年齢 30-34 歳の出生率と 30-34 歳女性有配偶率の関係

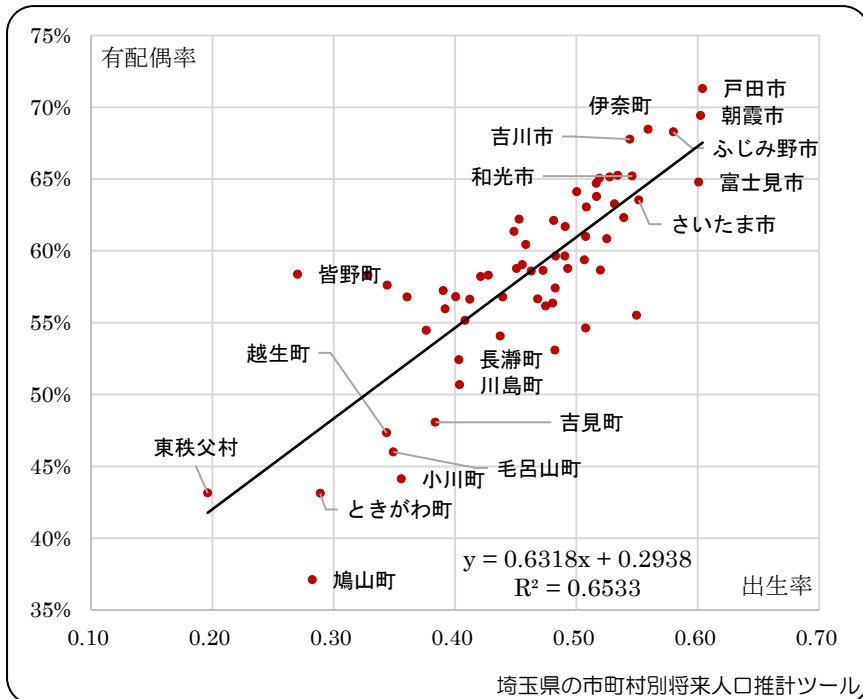


図 8-9 は、35-39 歳の女性の有配偶率と、母の年齢が 35-39 歳の出生率の関係を市町村別に描いた散布図です。この年代の埼玉県の有配偶率は、71.5%で、出生率は 0.2784 です。

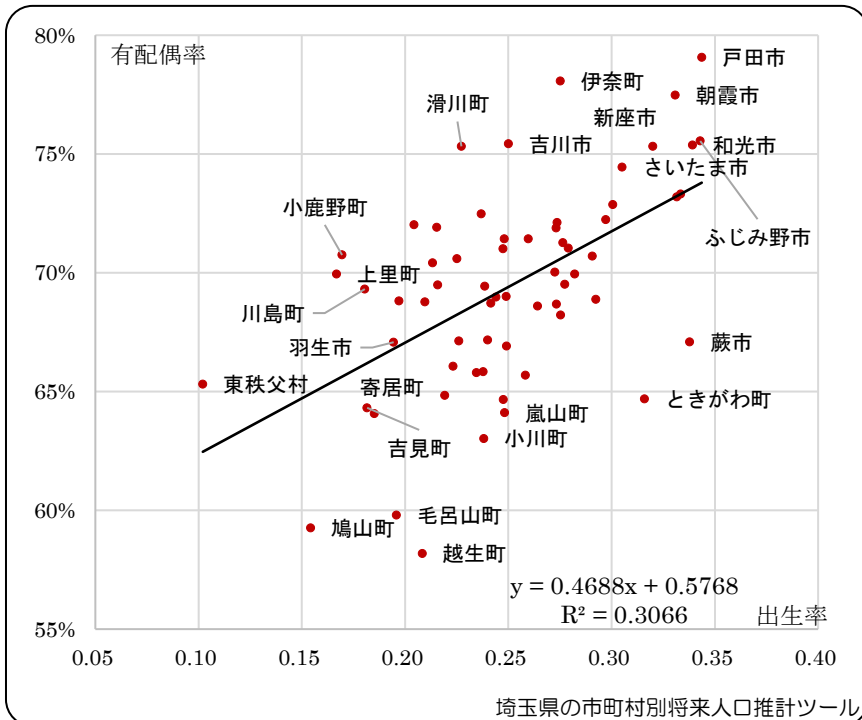
この年代になると、有配偶率と出生率の間には、相関がみられなくなります。

しかし、傾向として、越生町、鳩山町、毛呂山町等にみられるように、比企郡・入間郡の町の有配偶率は、比較的低いように見受けられます。

ときがわ町は 64.7%と、埼玉県の平均以下の有配偶率ですが、出生率は、0.3160 と高い値を示しています。

右上に位置する市町は、戸田市、朝霞市、和光市など、県の南部に位置する市町が、多くみられます。

図 8-9 母の年齢 35-39 歳の出生率と 35-39 歳女性有配偶率の関係



### 3. 地域別にみた出生数と死亡数

#### (1) 地域別出生数の推移

埼玉県の昭和50年の出生数は、96千人でしたが、平成27年の出生数は、57千人となりました。

これを地域別に昭和50年を100として指数化してみると、平成27年は、どの地域の出生数指数も100を下回っています。

出生数指数の高い、南部地域、さいたま市、南西部地域でも、70を下回っており、昭和50年と比べると3割以上の減少率です。

50以下の指数を示している地域は、秩父地域(32.5)、利根地域(47.1)、本庄地域(49.8)の3地域で、南と北とで地域の格差があります。

図9-1は、昭和50年を100として、地域別に出生数を年ごとに指数化したグラフです。

これをみると、秩父地域の出生数指数が大きく低下していることが分かります。

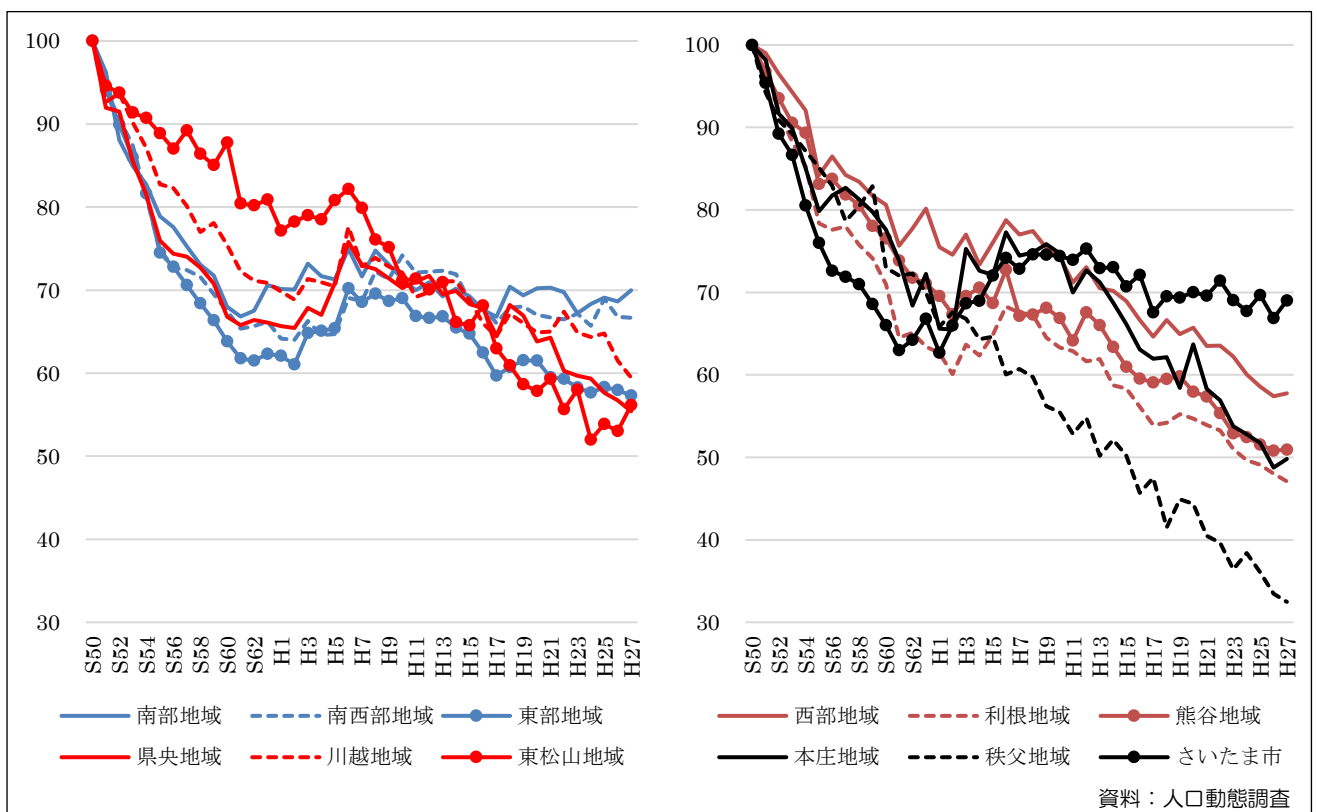
一方、さいたま市、南部地域、南西部地域は、昭和60年まで急激に指数が低下しましたが、昭和60年から平成5年にかけて、60台の指数を維持し、平成6年頃から上昇傾向に入りました。しかし、平成13年頃から緩やかに低下しています。

表9-1 地域別出生数と出生数指数

単位：人 S50=100

	出生数		構成比		指数
	S50	H27	S50	H27	H27
南部地域	10,691	7,482	11.1%	13.1%	70.0
南西部地域	9,751	6,500	10.2%	11.3%	66.7
東部地域	15,859	9,089	16.5%	15.9%	57.3
県央地域	6,820	3,779	7.1%	6.6%	55.4
川越地域	7,005	4,165	7.3%	7.3%	59.5
東松山地域	2,578	1,447	2.7%	2.5%	56.1
西部地域	9,662	5,579	10.1%	9.7%	57.7
利根地域	8,799	4,143	9.2%	7.2%	47.1
熊谷地域	5,323	2,710	5.5%	4.7%	50.9
本庄地域	1,852	922	1.9%	1.6%	49.8
秩父地域	1,897	616	2.0%	1.1%	32.5
さいたま市	15,796	10,899	16.4%	19.0%	69.0
計	96,033	57,331	100.0%	100.0%	59.7

図9-1 地域別出生数指数の推移



資料：人口動態調査

(2) 地域別死亡数の推移

埼玉県の昭和50年の死亡数は、23千人でしたが、平成27年の死亡数は、63千人となりました。

これを地域別に、昭和50年を100として指数化してみると、平成27年は、どの地域も100を上回っています。

死亡数指数が300を上回った地域は、南西部地域(361.2)、東部地域(353.3)、西部地域(314.6)の3地域です。次いで、県央地域、川越地域、南部地域、さいたま市が300近い指数を示しています。

低い指数を示している地域は、秩父地域(137.9)、本庄地域(176.6)、熊谷地域(200)となっています。

図9-2は、昭和50年を100として、地域別死亡数を年ごとに指数化したグラフです。

いずれの地域も死亡数指数は、上昇傾向にあります。南西部地域、東部地域の死亡数指数が高いです。

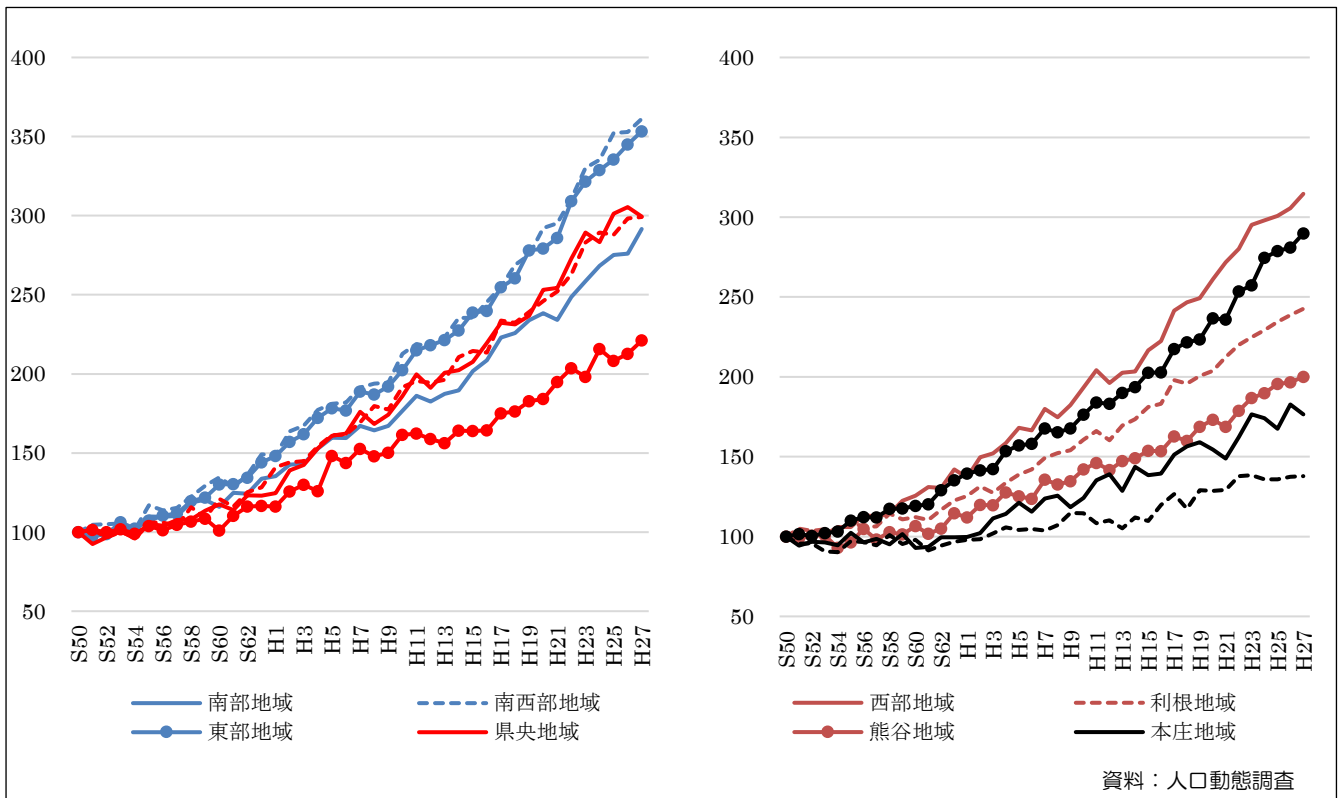
一方、秩父地域は、平成24年頃から横ばいで推移しています。熊谷地域、本庄地域も上昇傾向にあります。伸びが鈍化しています。

表9-2 地域別死亡数と死亡数指数

単位：人 S50=100

	出生数		構成比		指数
	S50	H27	S50	H27	H27
南部地域	2,209	6,441	9.7%	10.3%	291.6
南西部地域	1,464	5,288	6.5%	8.4%	361.2
東部地域	2,597	9,176	11.4%	14.6%	353.3
県央地域	1,456	4,359	6.4%	6.9%	299.4
川越地域	1,637	4,897	7.2%	7.8%	299.1
東松山地域	1,107	2,447	4.9%	3.9%	221.0
西部地域	2,133	6,710	9.4%	10.7%	314.6
利根地域	2,685	6,514	11.8%	10.4%	242.6
熊谷地域	2,021	4,043	8.9%	6.4%	200.0
本庄地域	884	1,561	3.9%	2.5%	176.6
秩父地域	1,070	1,475	4.7%	2.3%	137.9
さいたま市	3,423	9,920	15.1%	15.8%	289.8
計	22,686	62,831	100.0%	100.0%	277.0

図9-2 地域別死亡数指数の推移



#### 4. 地域別にみた移動人口

地域別の移動人口を、転入転出者数の多い15-34歳の年齢層において、5歳階級別に、純移動率という指標で分析してみました。

純移動率の定義は、例えば、平成22年で15-19歳であった人は、平成27年には20-24歳になりますが、この5年間に人口の増減があります。その人口の増減の要因は、死亡数、転入者数、転出者数で説明することができます。人口の増減数から死亡数を除くと純移動人口（転入者数－転出者数）となります。この純移動人口を、平成22年の15-19歳の人口で割った率が純移動率となります。なお、死亡数については、人口動態調査の死亡数を使用しています。平成22年と平成27年の人口は、国勢調査の人口を基としているため、死亡数は、平成22年10月1日から平成27年9月30日までの死亡数となります。

上記の計算過程から導き出した純移動率が、図10-1です。

純移動率の最も高い地域は、南部地域の15-19歳→20-24歳の年代で、5年間のうちに男性が22.0%、女性が21.1%の転入超過となっています。

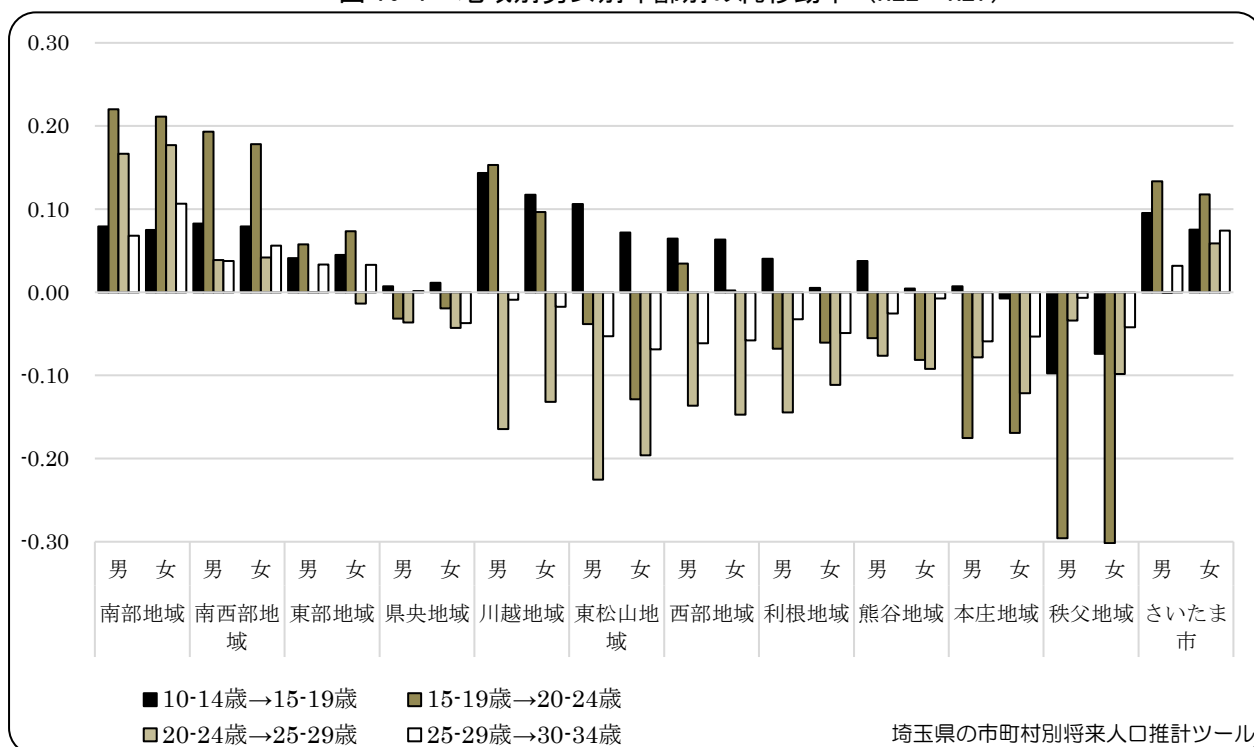
次に純移動率の高い地域は、南西部地域の15-19歳→20-24歳の年代で、男性が19.3%、女性が17.8%の転入超過となっています。南部地域と南西部地域は、その他の年代においても転入超過となっており、若い層の年代が多く集まる地域といえるでしょう。率こそ違え、同じような傾向は、さいたま市についてもいえます。

一方、川越地域は、10-14歳→15-19歳（男性：14.4%、女性：11.7%）、15-19歳→20-24歳（男性：15.3%、女性：9.7%）の年代で、転入超過となっておりますが、20-24歳→25-29歳の年代（男性：△16.4%、女性：△13.2%）が転出超過となっています。この年代は、大学を卒業し、就職する人が多く、就職で域外に転出する人が多いことを示していると考えられます。

東松山地域は、男女とも10-14歳→15-19歳の年代が転入超過なのですが、15-19歳→20-24歳の年代から転出超過となっています。

純移動率がマイナスの地域は秩父地域で、15-34歳すべての年代で転出超過となっています。特に、15-19歳→20-24歳の年代の転出が多く、男女とも、30%前後の転出超過となっています。

図10-1 地域別男女別年齢別の純移動率（H22→H27）



(1) 10-14 歳→15-19 歳の地域別移動人口と 15-19 歳→20-24 歳の地域別移動人口

表 10-1 は、10-14 歳→15-19 歳の埼玉県の地域間における転出者数の上位 10 位を抽出し、表 10-2 は、15-19 歳→20-24 歳の地域間の転出者数の上位 10 位を抽出したものです。

これをみると、さいたま市・南部地域間の移動が多いことが分かります。また、県央地域、東部地域、利根地域からさいたま市へ転出する人口が多く、人口がさいたま市へ多く流入している状況がうかがえます。

表 10-1 10-14 歳→15-19 歳の転出者数 (H22→H27)

順位	5年前常住地	現住所	転出者数
1	南部地域	さいたま市	276
2	さいたま市	南部地域	220
3	さいたま市	県央地域	198
4	県央地域	さいたま市	183
5	東部地域	さいたま市	182
6	利根地域	さいたま市	159
7	西部地域	川越地域	156
8	南西部地域	川越地域	151
9	さいたま市	東部地域	150
10	川越地域	南西部地域	120

表 10-2 15-19 歳→20-24 歳の転出者数 (H22→H27)

順位	5年前常住地	現住所	転出者数
1	さいたま市	南部地域	536
2	南部地域	さいたま市	453
3	県央地域	さいたま市	409
4	利根地域	さいたま市	399
5	東部地域	さいたま市	386
6	西部地域	川越地域	373
7	川越地域	南西部地域	371
8	さいたま市	県央地域	354
9	利根地域	東部地域	353
10	さいたま市	東部地域	331

全国の市区町村別移動人口見える化ツール

(2) 20-24 歳→25-29 歳の地域別移動人口と 25-29 歳→30-34 歳の地域別移動人口

表 10-3 は、20-24 歳→25-29 歳の埼玉県の地域間における転出者数の上位 10 位を抽出し、表 10-4 は、25-29 歳→30-34 歳の地域間の転出者数の上位 10 位を抽出したものです

この年代もさいたま市と南部地域間との移動人口が多くなっています。また、年代が高くなるにつれて、転出者数も多くなる傾向にあるようです。

表 10-3 20-24 歳→25-29 歳の転出者数 (H22→H27)

順位	5年前常住地	現住所	転出者数
1	さいたま市	南部地域	1,395
2	南部地域	さいたま市	1,305
3	県央地域	さいたま市	1,059
4	東部地域	さいたま市	1,007
5	さいたま市	東部地域	958
6	利根地域	さいたま市	934
7	さいたま市	県央地域	933
8	川越地域	南西部地域	872
9	西部地域	川越地域	794
10	利根地域	東部地域	784

表 10-4 25-29 歳→30-34 歳の転出者数 (H22→H27)

順位	5年前常住地	現住所	転出者数
1	南部地域	さいたま市	1,938
2	さいたま市	南部地域	1,901
3	さいたま市	県央地域	1,485
4	県央地域	さいたま市	1,477
5	さいたま市	東部地域	1,249
6	東部地域	さいたま市	1,135
7	川越地域	南西部地域	1,069
8	南西部地域	川越地域	1,003
9	南部地域	東部地域	1,000
10	西部地域	川越地域	940

全国の市区町村別移動人口見える化ツール

表 10-5 は、平成 22 年に 10-14 歳であった人が、5 年後の平成 27 年にどこの地域に移動したか、その移動先を地域別にマトリックス形式であらわした表です。表の左側に、平成 22 年の常住地が表示してあり、横にみるにつれて、どの地域にどれくらいの人が移動したのかを知ることができます。

表 10-6 は、平成 22 年に 15-19 歳の年代の移動先をマトリックス形式であらわし、表 10-7 は、平成 22 年に 20-24 歳の年代の移動先を、表 10-8 は、平成 22 年に 25-29 歳の年代の移動先をあらわした表となっています。

表 10-5 10-14 歳→15-19 歳の地域別移動人口マトリックス (H22→H27)

単位：人

		現住所																						
		北海道・東北	茨城県	栃木県	群馬県	南部地域	南西部地域	東部地域	県央地域	川越地域	東松山地域	西部地域	利根地域	熊谷地域	本庄地域	秩父地域	さいたま市	千葉県	東京都	神奈川県	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
5 年前 常住 地	北海道・東北	-	1,571	1,441	894	353	513	525	139	624	179	446	319	213	52	5	903	3,578	9,336	4,844	4,579	2,224	606	802
	茨城県	936	-	562	256	51	120	146	24	184	66	106	149	71	6	1	179	1,473	2,575	1,189	630	381	205	243
	栃木県	881	474	-	427	74	102	126	58	202	59	80	85	45	3	1	255	599	1,934	835	597	270	99	131
	群馬県	514	222	313	-	94	109	153	64	238	92	125	93	96	48	1	206	465	2,160	873	823	276	68	74
	南部地域	107	42	32	17	-	27	118	30	30	6	28	19	17	3	1	276	94	348	90	128	83	50	40
	南西部地域	103	34	20	23	29	-	20	10	151	25	76	19	10	8	2	82	73	441	92	131	74	41	79
	東部地域	132	108	46	36	99	29	-	22	46	8	36	115	24	9	2	182	257	431	123	162	91	42	57
	県央地域	80	35	33	37	35	18	25	-	47	27	19	103	35	3	6	183	55	148	70	76	49	20	30
	川越地域	74	33	33	25	8	120	14	21	-	72	107	15	25	5	3	58	59	188	76	95	29	21	29
	東松山地域	29	17	9	13	6	32	6	28	103	-	19	16	36	1	2	23	14	82	25	29	18	4	12
	西部地域	105	43	15	26	11	69	24	11	156	12	-	9	14	5	9	43	80	411	94	121	69	25	81
	利根地域	99	53	55	43	25	19	101	106	31	9	16	-	68	6	3	159	69	206	116	103	49	19	27
	熊谷地域	63	18	36	64	11	16	19	51	45	44	21	53	-	35	10	88	63	199	99	74	34	15	14
	本庄地域	16	9	4	47	3	5	9	11	11	4	12	9	40	-	0	14	17	85	32	33	8	4	5
	秩父地域	27	14	6	30	3	14	3	5	24	8	52	9	33	7	-	20	15	111	24	29	6	2	11
	さいたま市	285	85	60	69	220	53	150	198	80	16	42	119	29	4	6	-	156	529	214	260	209	71	118
	千葉県	1,092	784	176	142	73	115	230	32	141	77	112	77	37	13	8	186	-	3,660	1,546	1,082	1,037	368	566
	東京都	1,758	640	289	236	291	397	380	73	258	39	376	161	70	49	13	310	1,970	-	2,885	2,374	1,633	688	1,207
神奈川県	1,376	456	190	202	75	108	89	39	118	26	123	76	36	38	4	183	1,086	4,026	-	2,108	1,399	539	900	
中部	3,574	915	501	1,288	324	499	468	117	709	286	490	189	172	33	8	734	3,240	13,840	7,671	-	11,614	2,058	1,785	
近畿	1,643	390	154	135	89	137	101	39	94	23	170	43	27	12	1	273	1,160	4,504	2,165	7,829	-	8,337	2,840	
中国・四国	605	258	99	95	68	101	70	27	81	31	95	24	42	6	0	195	717	3,652	1,570	2,393	14,535	-	5,154	
九州・沖縄	761	421	164	212	126	202	138	36	134	58	227	67	64	5	1	240	1,596	5,402	3,229	4,554	6,964	5,619	-	

表 10-6 15-19 歳→20-24 歳の地域別移動人口マトリックス (H22→H27)

単位：人

		現住所																						
		北海道・東北	茨城県	栃木県	群馬県	南部地域	南西部地域	東部地域	県央地域	川越地域	東松山地域	西部地域	利根地域	熊谷地域	本庄地域	秩父地域	さいたま市	千葉県	東京都	神奈川県	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
5 年前 常住 地	北海道・東北	-	3,522	3,207	2,228	1,116	1,259	1,281	419	1,317	252	1,018	693	440	106	33	2,090	8,890	24,614	13,484	10,794	4,464	1,106	1,281
	茨城県	2,072	-	1,365	548	219	306	421	95	374	77	190	272	130	13	2	446	3,801	7,008	2,753	1,538	773	278	409
	栃木県	1,984	1,016	-	1,032	206	239	467	120	304	96	174	221	103	11	3	609	1,238	4,573	1,973	1,400	495	180	174
	群馬県	1,192	506	769	-	244	304	375	191	488	126	221	251	247	113	11	570	1,167	4,914	2,008	2,024	575	146	152
	南部地域	245	120	78	67	-	93	264	58	72	12	42	65	25	3	4	453	276	941	327	300	136	59	93
	南西部地域	273	100	71	67	82	-	80	50	318	43	181	38	24	6	1	154	242	1,305	358	352	186	60	97
	東部地域	360	193	155	108	279	114	-	79	109	26	82	239	43	12	6	386	668	1,456	529	434	202	78	110
	県央地域	201	83	70	118	110	59	108	-	95	20	49	161	60	5	10	409	191	698	288	222	109	43	46
	川越地域	275	114	95	116	78	371	81	72	-	155	271	56	63	8	3	211	287	931	324	322	117	57	73
	東松山地域	95	34	30	51	33	140	41	62	307	-	56	37	69	9	4	85	105	467	157	141	56	28	29
	西部地域	300	108	78	79	83	215	85	34	373	38	-	48	39	8	15	141	304	1,699	475	401	197	84	131
	利根地域	238	178	142	159	146	71	353	238	91	22	62	-	129	15	4	399	332	1,009	368	297	140	50	60
	熊谷地域	170	88	76	196	84	92	75	159	118	78	51	124	-	73	20	207	184	753	272	234	76	44	63
	本庄地域	58	18	21	141	27	34	27	30	37	12	20	24	122	-	8	78	65	304	104	63	23	4	10
	秩父地域	39	14	19	71	17	39	26	29	92	20	136	25	91	14	-	48	71	351	88	67	21	7	5
	さいたま市	644	258	176	183	536	197	331	354	164	34	140	242	54	23	4	-	536	1,871	713	666	428	114	192
	千葉県	2,179	1,855	513	399	282	333	608	84	324	87	243	160	124	20	6	495	-	10,811	4,526	2,967	1,636	628	877
	東京都	5,211	1,784	926	979	1,094	1,280	1,100	269	605	109	967	273	201	39	29	1,051	6,097	-	9,390	7,339	3,852	1,671	2,536
神奈川県	3,366	1,115	602	553	326	395	328	137	325	81	334	151	106	29	11	510	3,410	14,469	-	5,381	2,656	1,202	1,695	
中部	7,472	1,940	1,191	2,609	853	1,264	1,057	289	1,338	346	929	387	382	36	14	1,459	7,252	33,026	16,838	-	24,293	3,999	3,250	
近畿	3,425	910	438	361	383	410	323	89	210	34	399	99	90	8	6	562	3,247	14,907	5,796	20,982	-	15,705	5,769	
中国・四国	1,503	655	333	230	231	268	163	61	221	45	264	54	59	12	1	334	1,994	9,827	4,002	6,656	31,057	-	10,584	
九州・沖縄	1,801	1,083	552	490	406	529	300	130	288	91	538	124	104	14	1	513	4,055	15,291	8,142	12,117	17,848	13,218	-	



表 10-7 20-24 歳→25-29 歳の地域別移動人口マトリックス (H22→H27)

単位：人

		現住所																						
		北海道・東北	茨城県	栃木県	群馬県	南部地域	南西部地域	東部地域	県央地域	川越地域	東松山地域	西部地域	利根地域	熊谷地域	本庄地域	秩父地域	さいたま市	千葉県	東京都	神奈川県	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
5 年前 常住 地	北海道・東北	-	2,648	2,118	1,211	789	691	741	351	407	89	460	374	255	48	26	1,175	5,050	12,866	7,596	8,407	4,322	1,630	1,960
	茨城県	1,676	-	1,647	445	248	188	467	119	123	41	127	344	87	18	14	429	3,624	4,477	1,997	1,932	1,021	495	576
	栃木県	1,280	1,233	-	1,078	217	152	364	158	119	25	90	323	88	37	11	506	786	1,853	999	1,124	470	232	329
	群馬県	776	397	1,045	-	203	170	233	226	176	75	121	301	397	260	20	396	605	1,903	910	1,559	409	193	186
	南部地域	500	170	137	150	-	262	649	224	127	27	109	143	59	11	12	1,305	556	2,433	692	604	371	168	268
	南西部地域	473	172	156	159	274	-	210	102	679	101	326	92	50	10	16	488	501	3,004	667	696	339	147	262
	東部地域	572	327	254	175	674	232	-	200	142	40	130	596	75	23	15	1,007	1,355	2,989	867	775	378	154	228
	県央地域	216	113	117	160	311	129	232	-	168	107	68	457	171	20	13	1,059	302	1,205	425	371	200	65	125
	川越地域	461	162	184	164	174	872	148	198	-	363	603	86	111	19	26	491	420	1,723	567	617	221	106	176
	東松山地域	100	41	52	75	56	248	65	187	591	-	101	59	184	15	15	165	118	563	177	195	76	38	43
	西部地域	549	155	183	147	201	517	181	86	794	115	-	85	88	13	44	385	467	3,553	749	677	372	158	301
	利根地域	314	303	277	242	339	142	784	627	120	58	93	-	218	26	14	934	430	1,379	482	418	201	82	97
	熊谷地域	172	74	115	354	119	121	96	363	135	196	104	291	-	161	33	358	186	676	231	271	115	48	72
	本庄地域	57	24	25	329	28	25	28	65	29	17	23	30	268	-	7	83	48	175	93	86	22	14	23
	秩父地域	14	6	8	38	13	23	16	18	45	22	101	11	161	30	-	37	34	130	46	36	10	3	12
	さいたま市	943	373	379	312	1,395	473	958	933	356	60	225	612	127	52	33	-	1,026	4,057	1,335	1,295	674	306	423
	千葉県	3,628	2,945	954	701	738	569	1,532	269	279	71	339	305	160	53	25	1,026	-	17,854	6,267	5,446	3,083	1,358	2,108
	東京都	11,651	3,856	2,657	2,244	3,876	3,768	3,195	796	1,161	237	2,497	680	487	119	111	3,651	15,522	-	27,091	18,784	10,291	5,399	8,070
神奈川県	5,842	2,003	1,416	1,135	900	841	786	302	362	93	579	309	172	60	41	1,238	6,034	30,409	-	11,008	5,277	2,687	4,365	
中部	5,530	1,580	1,280	1,456	726	789	605	301	454	81	505	237	231	65	25	1,151	4,586	15,696	9,391	-	15,989	3,708	5,110	
近畿	4,030	1,351	946	672	705	762	571	205	242	54	351	151	129	33	18	1,002	5,281	19,430	9,052	26,156	-	17,149	10,235	
中国・四国	1,282	528	307	236	255	274	174	83	88	16	167	67	56	16	9	325	1,771	5,480	3,079	5,322	14,846	-	8,103	
九州・沖縄	1,823	834	544	368	387	438	293	171	131	35	318	101	94	18	7	445	3,014	9,231	5,184	8,021	9,614	8,061	-	

表 10-8 25-29 歳→30-34 歳の地域別移動人口マトリックス (H22→H27)

単位：人

		現住所																						
		北海道・東北	茨城県	栃木県	群馬県	南部地域	南西部地域	東部地域	県央地域	川越地域	東松山地域	西部地域	利根地域	熊谷地域	本庄地域	秩父地域	さいたま市	千葉県	東京都	神奈川県	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄
5 年前 常住 地	北海道・東北	-	2,104	1,612	849	582	551	579	279	265	59	393	296	163	53	15	1,066	3,623	8,504	4,829	6,636	3,482	1,416	2,485
	茨城県	1,541	-	1,619	362	207	162	546	100	105	26	129	383	68	19	8	374	3,481	2,979	1,471	1,430	1,028	454	678
	栃木県	1,183	1,220	-	1,246	214	122	262	128	78	22	89	328	83	31	6	577	608	1,481	861	1,018	692	231	359
	群馬県	569	331	1,108	-	172	108	163	225	125	49	108	251	464	362	9	363	479	1,295	689	1,217	437	169	267
	南部地域	592	217	190	163	-	345	1,000	303	151	30	166	251	68	19	10	1,938	751	3,155	920	670	470	197	384
	南西部地域	463	159	141	150	331	-	291	163	1,003	144	481	111	61	22	14	660	542	3,508	751	667	422	186	414
	東部地域	519	381	224	211	861	256	-	246	136	36	139	763	86	27	12	1,135	1,684	3,198	828	646	415	205	285
	県央地域	229	111	138	172	368	160	249	-	230	157	89	753	297	31	15	1,477	273	960	351	355	153	59	132
	川越地域	273	113	133	122	181	1,069	147	247	-	579	778	99	118	28	12	511	309	1,266	397	382	197	97	129
	東松山地域	43	36	28	63	42	231	52	159	611	-	99	62	214	19	12	124	79	330	90	100	48	13	36
	西部地域	415	160	135	129	179	534	182	127	940	128	-	111	93	14	40	430	384	3,405	616	605	292	174	413
	利根地域	229	312	288	232	286	125	723	807	140	72	85	-	358	22	6	938	351	1,013	321	303	171	75	97
	熊谷地域	142	65	75	401	89	87	69	378	139	230	72	295	-	271	62	303	121	483	184	259	104	40	88
	本庄地域	39	30	32	378	18	10	20	58	24	19	12	36	271	-	25	55	53	108	69	69	22	18	23
	秩父地域	12	7	5	24	8	8	14	18	22	20	86	12	149	20	-	28	14	66	34	33	8	2	9
	さいたま市	907	347	384	363	1,901	643	1,249	1,485	487	109	308	880	208	46	32	-	1,054	4,118	1,411	1,168	775	337	543
	千葉県	3,547	3,291	845	575	944	647	2,234	266	272	73	382	332	132	33	15	1,275	-	19,435	6,430	4,513	3,620	1,642	2,576
	東京都	11,506	3,824	2,322	1,940	5,725	5,898	4,813	983	1,339	267	3,468	921	435	131	99	5,544	19,538	-	36,365	16,994	12,023	5,918	9,578
神奈川県	5,443	1,574	1,137	909	987	911	894	394	353	85	574	328	196	50	23	1,461	5,963	33,584	-	9,294	5,913	2,780	4,826	
中部	5,588	1,211	1,261	1,291	644	675	607	315	334	74	480	255	205	65	26	1,172	4,000	12,959	8,686	-	15,706	3,818	5,726	
近畿	3,620	1,097	785	505	647	646	517	180	182	43	309	159	145	18	13	1,006	4,516	14,733	7,601	19,811	-	13,287	9,692	
中国・四国	1,291	443	249	199	216	234	171	58	65	16	112	51	55	12	6	332	1,534	4,479	2,390	3,854	10,328	-	6,609	
九州・沖縄	2,003	631	382	274	289	384	284	107	105	35	290	81	81	15	6	507	2,500	6,806	3,802	6,175	7,597	6,606	-	

全国の市区町村別移動人口見える化ツール

## 5. 地域別にみた昼間人口夜間人口

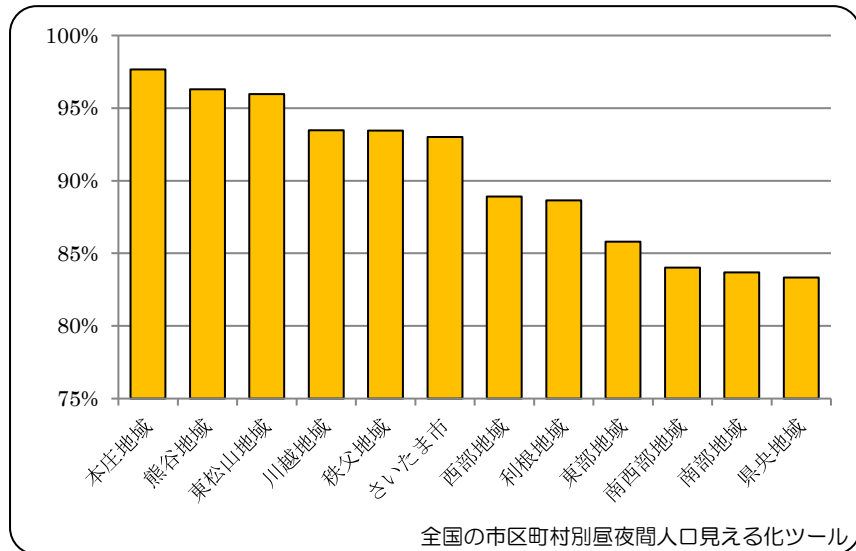
### (1) 地域別にみた昼夜間人口比率

昼間人口を夜間人口で割った昼夜間人口比率を地域別にみると、昼夜間人口比率の最も低い地域は、県央地域の 83.3% でした。次いで、南部地域、南西部地域の順で、それぞれ、83.7%、84.0%となっています。

昼夜間人口比率の高い地域は、本庄地域の 97.7% で、次いで熊谷地域の 96.3% となっています。東松山地域、川越地域、秩父地域も高く、県の北及び西側に位置する地域において、昼夜間人口比率が高い傾向にあります。

さいたま市は、93.0% と東京に近い地域にもかかわらず、比較的高い比率を示しています。

図 11-1 地域別昼夜間人口比率



次に、地域に常住している通勤通学者のうち地域外に流出している人の割合を「流出割合」として、図 11-2 のグラフで表してみました。

流出割合の小さい地域は秩父地域で 16.3% となっています。これは、通勤通学者の 83.7% の人が同一地域内で通勤通学していることを意味しています。

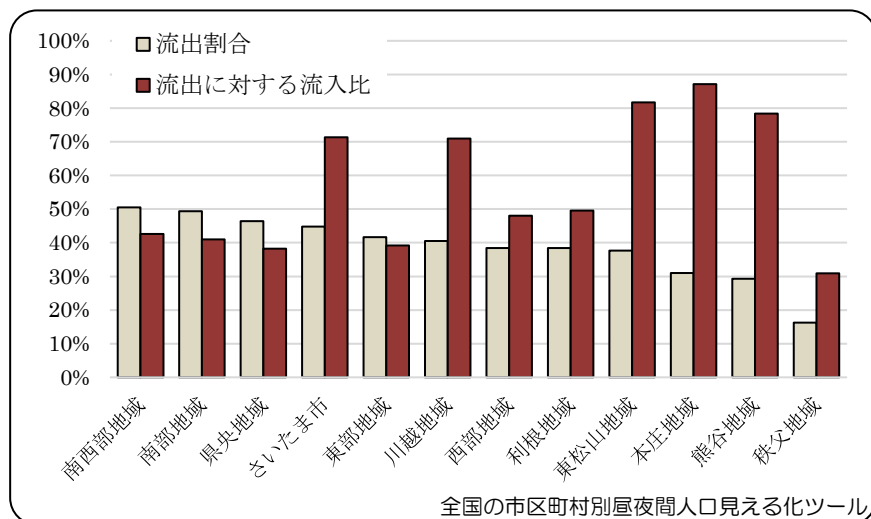
熊谷地域と本庄地域も流出割合が小さく、それぞれ 29.3%、31.0% となっています。

流出割合の大きい地域は、南西部地域 (50.5%) と、南部地域 (49.4%) で、通勤通学者の約半数が地域外に流出しています。さいたま市も、44.8% と、高い流出割合を示していますが、さいたま市の流出に対する流入比率 (この比率が 100% だと流出人口と流入人口が等しい) をみてみると、71.4% と比較的高い比率を示しています。さいたま市は、市外に流出する人も多いのですが、市外から市内に流入する人も多いことを示しています。このことから、さいたま市の昼夜間人口比率は、東京近郊に位置する他の地域よりも高い昼夜間人口比率となっています。

一方、南部地域や南西部地域は、流出割合が高い反面、流出に対する流入比率が低いため、昼夜間人口比率が低くなっています。

流出に対する流入比率が一番低い地域は秩父地域で、30.9% となっています。

図 11-2 地域別流出割合と流出に対する流入比率



## (2) 東京都への流出割合

流出人口のうち東京都への流出割合を地域別にみてみましょう。

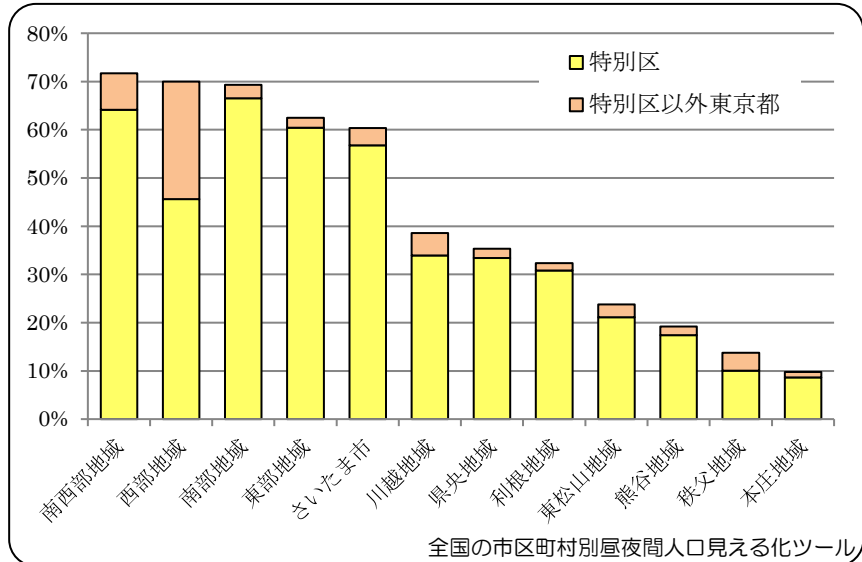
東京都への流出割合が一番大きい地域は、南西部地域の71.7%で、次いで、西部地域の70.0%となっています。

西部地域は、特別区に45.6%、特別区以外の東京都に24.4%の流出割合となっており、特別区以外の流出も多い結果となりました。

さいたま市は60.4%と、流出者の6割の人が東京都に通勤通学しています。

東京都への流出割合の低い地域は、本庄地域の9.7%、次いで秩父地域の13.7%、熊谷地域の19.2%となっています。

図 11-3 地域別東京都への流出割合



次は、15歳以上の通勤通学者

に絞って、関東地方の流入流出状況を地域別にマトリックスにして、まとめてみました。

## (3) 地域間の通勤通学状況

表 11-1 は、埼玉県内の地域における通勤通学先の多い上位 10 位を抽出した表です。

これによると、県央地域からさいたま市へ 41 千人と一番多く流出しており、3 位に南部地域からさいたま市、4 位に東部地域からさいたま市、5 位に利根地域からさいたま市に流出しています。さいたま市に、各地域からの人口の流入が集中していることがわかります。

表 11-2 は、15 歳以上の通勤通学者がどの地域に通勤通学しているか、マトリックス形式であらわした表です。

表 11-3 では、15 歳以上の通勤者のみの通勤先をマトリックス形式であらわしたので、参考にしてください。

表 11-2 から、常住地の南部地域を横にみると、通勤通学先の流出人口を地域別にみることができます。これによると、南部地域は、特別区へ 143 千人流出しています。県内ではさいたま市へ 30 千人、東部地域へ 12 千人流出しています。このことから、南部地域の通勤通学先は、特別区に集中していることがわかります。

通勤通学地の南部地域を縦にみると、流入状況を確認することができます。南部地域は、さいたま市から 32 千人流入し、特別区からは、16 千人流入し、次いで、東部地域から 14 千人流入しています。流入は、東京都よりも埼玉県からの流入が多いようです。

表 11-1 通勤通学先上位 10 位

順位	常住地	通勤通学先	流出人口
1	県央地域	さいたま市	41,361
2	さいたま市	南部地域	32,450
3	南部地域	さいたま市	30,213
4	東部地域	さいたま市	29,967
5	利根地域	さいたま市	27,361
6	川越地域	西部地域	22,478
7	西部地域	川越地域	20,662
8	川越地域	南西部地域	18,831
9	利根地域	東部地域	16,590
10	さいたま市	東部地域	16,252

表 11-2 15 歳以上の地域別通勤通学マトリックス

単位：人

		通勤通学地																		
		茨城県	栃木県	群馬県	南部地域	南西部地域	東部地域	県央地域	川越地域	東松山地域	西部地域	利根地域	熊谷地域	本庄地域	秩父地域	さいたま市	千葉県	特別区	特別区以外東京都	神奈川県
常住地	茨城県	-	22,007	1,160	710	589	4,020	505	557	207	308	6,864	262	38	9	3,645	41,576	64,192	2,964	3,742
	栃木県	18,132	-	23,406	404	361	1,520	426	538	220	234	3,035	588	95	8	4,523	1,196	15,924	1,345	1,770
	群馬県	1,071	16,385	-	357	290	1,107	930	972	764	413	4,258	7,437	7,920	128	3,190	893	11,831	1,759	1,518
	南部地域	691	424	321	-	3,928	12,171	1,969	1,845	418	1,263	1,719	386	69	14	30,213	4,427	143,284	5,912	4,598
	南西部地域	352	286	256	4,282	-	2,051	1,147	16,068	2,273	9,984	617	386	68	28	10,649	2,120	125,831	14,657	3,555
	東部地域	3,497	1,088	701	14,351	2,673	-	2,161	1,692	461	949	13,436	375	73	14	29,967	22,108	159,951	5,428	3,765
	県央地域	428	689	1,717	4,645	1,835	2,745	-	5,150	4,840	1,163	15,326	6,802	747	54	41,361	1,490	47,492	2,737	1,827
	川越地域	241	347	445	1,582	18,831	1,022	2,576	-	14,610	22,478	940	1,779	201	92	10,187	879	43,382	5,986	1,427
	東松山地域	93	147	682	286	3,023	273	2,955	15,789	-	2,932	1,100	6,791	463	194	2,686	221	10,639	1,304	376
	西部地域	297	302	285	1,394	10,304	991	742	20,662	1,887	-	403	828	92	408	5,447	1,154	75,455	40,093	3,074
	利根地域	6,973	3,538	4,722	3,324	1,210	16,590	14,881	2,116	1,562	605	-	8,419	504	81	27,361	3,440	44,670	2,250	1,516
	熊谷地域	161	416	9,079	543	538	441	5,123	2,398	8,063	625	6,991	-	8,200	1,299	6,228	393	11,179	1,149	666
	本庄地域	55	93	9,090	92	96	71	525	348	493	116	369	8,589	-	369	1,089	105	2,097	261	152
	秩父地域	17	16	305	18	70	31	87	406	453	1,415	135	3,580	1,330	-	223	32	962	356	73
	さいたま市	1,576	2,645	1,462	32,450	8,722	16,252	16,147	8,747	1,586	3,146	9,658	2,003	328	36	-	6,481	174,087	10,888	7,038
	千葉県	34,707	1,140	790	3,432	2,615	20,232	703	1,235	374	1,105	2,329	348	114	22	8,777	-	696,447	17,100	25,917
特別区	6,156	2,067	1,494	16,366	16,167	19,786	1,954	5,603	1,345	7,168	2,658	761	246	66	18,792	74,256	-	98,913	120,635	
特別区以外東京都	1,374	695	751	2,339	9,353	1,763	596	4,016	673	22,530	558	314	121	65	6,194	6,883	551,791	-	113,709	
神奈川県	2,680	1,428	1,150	1,585	2,242	1,334	488	931	343	1,635	557	295	226	37	4,307	14,853	912,768	146,434	-	

46

表 11-3 15 歳以上の地域別通勤マトリックス

単位：人

		通勤地																		
		茨城県	栃木県	群馬県	南部地域	南西部地域	東部地域	県央地域	川越地域	東松山地域	西部地域	利根地域	熊谷地域	本庄地域	秩父地域	さいたま市	千葉県	特別区	特別区以外東京都	神奈川県
常住地	茨城県	-	19,911	915	655	347	3,364	398	220	80	194	6,108	181	35	9	2,919	34,732	54,796	1,451	2,794
	栃木県	17,073	-	21,679	369	266	1,098	324	210	139	161	2,609	473	88	7	3,511	789	12,657	572	1,272
	群馬県	931	14,046	-	313	183	668	805	413	540	256	3,744	6,620	7,270	127	2,459	540	8,883	796	952
	南部地域	606	396	280	-	3,225	10,485	1,465	1,135	232	1,039	1,460	314	32	14	24,940	3,626	132,109	4,232	3,911
	南西部地域	312	271	239	3,861	-	1,654	899	11,819	1,485	8,455	512	308	43	27	8,751	1,796	115,957	12,315	2,952
	東部地域	3,243	882	594	13,379	2,119	-	1,724	1,035	245	758	10,086	278	43	14	25,003	19,023	148,929	3,680	3,233
	県央地域	395	621	1,570	4,401	1,531	2,274	-	4,009	4,132	988	14,455	5,214	357	52	36,932	1,139	42,408	1,715	1,435
	川越地域	219	333	408	1,513	17,406	861	2,207	-	12,423	20,514	828	1,636	172	86	8,879	713	37,968	4,607	1,130
	東松山地域	81	143	635	266	2,756	200	2,616	13,152	-	2,596	1,030	6,253	373	192	2,299	164	8,712	894	287
	西部地域	275	296	266	1,317	9,189	794	599	16,484	1,554	-	334	765	71	383	4,600	947	67,804	35,653	2,567
	利根地域	6,845	2,647	4,375	3,166	898	14,182	13,409	1,461	1,263	483	-	7,496	274	78	24,120	2,756	39,179	1,285	1,189
	熊谷地域	145	351	8,322	520	380	302	4,573	1,652	7,261	530	6,467	-	6,731	1,229	5,282	280	8,769	682	505
	本庄地域	52	85	8,387	87	61	43	442	200	413	78	315	7,215	-	356	894	74	1,532	150	111
	秩父地域	14	12	272	17	42	16	68	252	349	1,089	90	3,049	1,105	-	166	13	543	205	38
	さいたま市	1,441	2,452	1,326	30,125	7,375	13,500	13,181	6,207	1,075	2,658	8,383	1,662	205	34	-	5,179	158,473	7,436	5,781
	千葉県	31,224	1,041	692	3,338	1,795	18,529	596	709	168	744	1,934	261	62	20	7,661	-	643,834	10,704	21,684
特別区	5,482	1,960	1,353	16,191	14,004	18,467	1,673	3,841	779	5,565	2,079	637	126	63	17,078	63,146	-	73,550	103,708	
特別区以外東京都	1,225	650	701	2,260	8,325	1,500	481	2,905	477	19,452	409	277	81	60	5,634	5,744	492,774	-	102,365	
神奈川県	2,448	1,355	1,071	1,571	1,596	1,144	420	652	253	1,154	409	252	180	36	3,867	12,698	830,444	111,997	-	

## 第3部

### 市町村別人口統計

順位	H27 人口		H22→H27 人口増加率		H27 平均年齢		H27 年少人口		H22→H27 年少人口増加率	
	市町村	人口	市町村	増加率	市町村	年齢	市町村	人口	市町村	増加率
1	さいたま市	1,263,979	戸田市	10.6%	鳩山町	53.40	さいたま市	164,722	滑川町	8.8%
2	川口市	578,112	吉川市	6.8%	東秩父村	53.33	川口市	74,476	戸田市	6.5%
3	川越市	350,745	滑川町	5.1%	長瀬町	51.36	越谷市	44,429	朝霞市	3.5%
4	所沢市	340,386	朝霞市	5.1%	ときがわ町	51.27	川越市	44,231	ふじみ野市	2.7%
5	越谷市	337,498	ふじみ野市	5.0%	小鹿野町	51.24	所沢市	39,480	志木市	2.0%
6	草加市	247,034	伊奈町	4.6%	皆野町	50.95	草加市	30,223	吉川市	1.9%
7	春日部市	232,709	八潮市	4.5%	小川町	50.80	上尾市	28,557	三郷市	1.7%
8	上尾市	225,196	志木市	4.4%	越生町	49.69	春日部市	26,611	新座市	1.3%
9	熊谷市	198,742	三郷市	3.9%	横瀬町	49.03	熊谷市	23,986	川越市	-0.6%
10	新座市	162,122	越谷市	3.4%	秩父市	48.99	新座市	21,855	東松山市	-0.9%
11	狭山市	152,405	さいたま市	3.4%	美里町	48.95	戸田市	19,758	蕨市	-1.1%
12	久喜市	152,311	川口市	3.0%	川島町	48.80	朝霞市	18,751	越谷市	-1.2%
13	入間市	148,390	白岡市	2.5%	吉見町	48.69	入間市	18,610	さいたま市	-1.3%
14	深谷市	143,811	川越市	2.4%	寄居町	48.57	深谷市	18,574	川口市	-1.5%
15	三郷市	136,521	新座市	2.1%	嵐山町	48.55	久喜市	17,818	和光市	-1.9%
16	朝霞市	136,299	東松山市	1.5%	幸手市	48.52	三郷市	17,491	八潮市	-2.0%
17	戸田市	136,150	草加市	1.3%	飯能市	47.89	狭山市	17,132	伊奈町	-2.8%
18	鴻巣市	118,072	富士見市	1.3%	神川町	47.88	ふじみ野市	15,152	宮代町	-2.9%
19	加須市	112,229	蕨市	1.1%	宮代町	47.77	鴻巣市	14,096	坂戸市	-3.5%
20	ふじみ野市	110,970	上尾市	0.6%	蓮田市	47.55	富士見市	13,984	白岡市	-3.9%
21	富士見市	108,102	鶴ヶ島市	0.4%	行田市	47.45	加須市	13,510	富士見市	-4.3%
22	坂戸市	101,679	宮代町	0.2%	北本市	47.42	坂戸市	12,931	日高市	-4.5%
23	東松山市	91,437	和光市	0.1%	毛呂山町	47.39	八潮市	11,422	久喜市	-6.3%
24	八潮市	86,717	坂戸市	0.0%	狭山市	47.33	和光市	11,260	美里町	-6.5%
25	行田市	82,113	所沢市	-0.4%	杉戸町	47.33	東松山市	10,787	三芳町	-6.7%
26	和光市	80,826	深谷市	-0.6%	羽生市	47.29	吉川市	10,721	幸手市	-6.7%
27	飯能市	80,715	三芳町	-0.6%	本庄市	47.15	志木市	9,518	深谷市	-6.8%
28	本庄市	77,881	入間市	-1.0%	日高市	47.04	行田市	9,475	桶川市	-7.0%
29	桶川市	73,936	桶川市	-1.0%	春日部市	46.99	本庄市	9,103	蓮田市	-7.3%
30	志木市	72,676	久喜市	-1.3%	久喜市	46.79	桶川市	9,094	入間市	-7.4%
31	蕨市	72,260	鴻巣市	-1.3%	加須市	46.74	鶴ヶ島市	8,802	鴻巣市	-7.6%
32	鶴ヶ島市	70,255	上里町	-1.4%	桶川市	46.63	飯能市	8,693	熊谷市	-7.7%
33	吉川市	69,738	蓮田市	-1.5%	三芳町	46.57	蕨市	7,804	狭山市	-8.0%
34	北本市	67,409	日高市	-1.7%	鴻巣市	46.55	北本市	7,690	加須市	-8.1%
35	秩父市	63,555	春日部市	-1.9%	熊谷市	46.51	秩父市	7,683	上尾市	-8.2%
36	蓮田市	62,380	狭山市	-2.1%	深谷市	46.18	日高市	7,342	鶴ヶ島市	-9.1%
37	日高市	56,520	北本市	-2.1%	入間市	45.96	伊奈町	7,299	所沢市	-9.3%
38	羽生市	54,874	熊谷市	-2.2%	所沢市	45.92	蓮田市	7,265	草加市	-9.5%
39	幸手市	52,524	羽生市	-2.4%	白岡市	45.90	白岡市	6,477	上里町	-10.3%
40	白岡市	51,535	加須市	-2.4%	東松山市	45.83	羽生市	6,338	春日部市	-11.0%
41	杉戸町	45,495	幸手市	-2.8%	松伏町	45.74	幸手市	5,695	飯能市	-11.1%
42	伊奈町	44,442	嵐山町	-2.9%	上尾市	45.54	杉戸町	5,341	本庄市	-11.6%
43	三芳町	38,456	杉戸町	-3.0%	坂戸市	45.47	三芳町	5,123	秩父市	-12.0%
44	毛呂山町	37,275	飯能市	-3.4%	三郷市	45.20	上里町	4,242	行田市	-12.1%
45	寄居町	34,081	美里町	-3.4%	川越市	45.08	松伏町	3,883	北本市	-12.3%
46	宮代町	33,705	松伏町	-3.5%	鶴ヶ島市	45.06	寄居町	3,680	羽生市	-12.4%
47	小川町	31,178	行田市	-4.3%	上里町	45.00	毛呂山町	3,677	羽生市	-12.4%
48	上里町	30,565	毛呂山町	-4.6%	蕨市	44.94	宮代町	3,581	毛呂山町	-13.0%
49	松伏町	30,061	寄居町	-4.7%	草加市	44.88	滑川町	2,899	嵐山町	-13.4%
50	川島町	20,788	本庄市	-4.9%	ふじみ野市	44.70	小川町	2,817	皆野町	-13.4%
51	吉見町	19,631	秩父市	-5.1%	新座市	44.69	川島町	2,223	小川町	-14.7%
52	嵐山町	18,341	神川町	-5.1%	富士見市	44.54	嵐山町	1,894	寄居町	-15.2%
53	滑川町	18,212	小川町	-5.3%	志木市	44.51	吉見町	1,863	川島町	-15.8%
54	鳩山町	14,338	横瀬町	-5.8%	越谷市	44.50	神川町	1,575	横瀬町	-16.2%
55	神川町	13,730	川島町	-6.1%	さいたま市	44.31	小鹿野町	1,367	松伏町	-16.2%
56	小鹿野町	12,117	鳩山町	-6.3%	川口市	44.20	美里町	1,279	鳩山町	-16.7%
57	越生町	11,716	越生町	-6.5%	八潮市	43.93	越生町	1,169	小鹿野町	-16.8%
58	ときがわ町	11,492	吉見町	-6.9%	滑川町	43.37	鳩山町	1,153	神川町	-17.5%
59	美里町	11,207	皆野町	-6.9%	吉川市	42.74	皆野町	1,144	ときがわ町	-18.6%
60	皆野町	10,133	長瀬町	-7.4%	伊奈町	42.56	横瀬町	1,031	長瀬町	-19.2%
61	横瀬町	8,519	ときがわ町	-7.5%	朝霞市	42.05	ときがわ町	1,017	越生町	-19.2%
62	長瀬町	7,324	小鹿野町	-9.8%	和光市	40.79	長瀬町	775	吉見町	-22.8%
63	東秩父村	2,915	東秩父村	-12.9%	戸田市	40.71	東秩父村	227	東秩父村	-29.9%

順位	H27年少人口割合		H27生産年齢人口		H22→H27 生産年齢人口増加率		H27生産年齢 人口割合		H27高齢者人口	
	順位	割合	市町村	人口	市町村	増加率	市町村	割合	市町村	人口
1	伊奈町	16.5%	さいたま市	799,279	戸田市	4.6%	和光市	69.2%	さいたま市	284,138
2	滑川町	16.0%	川口市	369,270	朝霞市	2.6%	戸田市	68.4%	川口市	129,410
3	吉川市	15.4%	川越市	216,977	吉川市	0.9%	朝霞市	67.2%	川越市	87,358
4	戸田市	15.1%	越谷市	211,577	ふじみ野市	0.8%	蕨市	66.2%	所沢市	85,215
5	和光市	13.9%	所沢市	207,941	八潮市	0.2%	川口市	64.4%	越谷市	80,330
6	朝霞市	13.9%	草加市	150,966	滑川町	-0.8%	さいたま市	64.0%	春日部市	64,924
7	上里町	13.9%	春日部市	139,656	伊奈町	-1.6%	八潮市	63.8%	草加市	57,807
8	ふじみ野市	13.7%	上尾市	137,664	さいたま市	-1.7%	草加市	63.2%	上尾市	57,052
9	新座市	13.5%	熊谷市	122,319	蕨市	-1.9%	志木市	63.0%	熊谷市	52,007
10	三芳町	13.3%	新座市	100,397	川口市	-1.9%	吉川市	62.9%	狭山市	43,489
11	八潮市	13.2%	久喜市	93,672	越谷市	-2.0%	越谷市	62.9%	久喜市	40,589
12	越谷市	13.2%	入間市	91,488	志木市	-2.5%	東松山市	62.8%	新座市	39,311
13	さいたま市	13.2%	狭山市	91,010	和光市	-2.8%	富士見市	62.7%	入間市	38,075
14	志木市	13.2%	朝霞市	90,480	白岡市	-3.4%	吉見町	62.6%	深谷市	37,423
15	富士見市	13.1%	戸田市	89,730	川越市	-3.6%	鶴ヶ島市	62.5%	三郷市	34,357
16	日高市	13.0%	深谷市	87,536	新座市	-3.7%	所沢市	62.5%	鴻巣市	30,968
17	川口市	13.0%	三郷市	84,593	三郷市	-4.4%	滑川町	62.4%	加須市	28,991
18	松伏町	12.9%	鴻巣市	72,869	富士見市	-4.5%	上里町	62.3%	ふじみ野市	27,211
19	深谷市	12.9%	加須市	69,647	上尾市	-5.5%	川越市	62.2%	坂戸市	26,642
20	三郷市	12.8%	ふじみ野市	68,532	草加市	-5.9%	新座市	62.1%	富士見市	25,897
21	上尾市	12.8%	富士見市	67,166	東松山市	-6.2%	加須市	62.1%	朝霞市	25,398
22	坂戸市	12.8%	坂戸市	61,664	深谷市	-6.5%	三郷市	62.0%	東松山市	23,067
23	川越市	12.7%	東松山市	57,064	上里町	-6.8%	白岡市	61.9%	飯能市	22,896
24	草加市	12.6%	和光市	55,944	桶川市	-7.3%	ふじみ野市	61.8%	行田市	22,874
25	鶴ヶ島市	12.6%	八潮市	55,106	熊谷市	-7.6%	鴻巣市	61.8%	戸田市	21,764
26	白岡市	12.6%	行田市	49,541	三芳町	-7.7%	入間市	61.7%	本庄市	20,965
27	入間市	12.6%	飯能市	48,820	坂戸市	-8.1%	熊谷市	61.7%	桶川市	20,082
28	桶川市	12.3%	蕨市	47,699	入間市	-8.1%	上尾市	61.7%	八潮市	19,811
29	横瀬町	12.1%	本庄市	47,028	宮代町	-8.1%	久喜市	61.6%	秩父市	19,493
30	秩父市	12.1%	志木市	45,526	羽生市	-8.1%	伊奈町	61.6%	北本市	19,028
31	熊谷市	12.1%	桶川市	44,710	鴻巣市	-8.2%	松伏町	61.3%	蓮田市	18,290
32	加須市	12.0%	吉川市	43,839	鶴ヶ島市	-8.2%	毛呂山町	61.2%	鶴ヶ島市	17,352
33	鴻巣市	12.0%	鶴ヶ島市	43,641	所沢市	-8.3%	羽生市	61.2%	志木市	17,191
34	所沢市	11.9%	北本市	40,610	加須市	-8.7%	本庄市	61.0%	蕨市	16,560
35	東松山市	11.9%	蓮田市	36,750	秩父市	-8.9%	深谷市	61.0%	日高市	16,287
36	本庄市	11.8%	秩父市	36,321	久喜市	-9.0%	坂戸市	60.9%	幸手市	15,874
37	杉戸町	11.8%	羽生市	33,261	蓮田市	-9.3%	飯能市	60.7%	吉川市	15,097
38	久喜市	11.7%	日高市	32,816	松伏町	-9.4%	神川町	60.5%	羽生市	14,788
39	蓮田市	11.7%	白岡市	31,790	春日部市	-9.8%	桶川市	60.5%	和光市	13,602
40	羽生市	11.7%	幸手市	30,872	本庄市	-9.9%	行田市	60.5%	白岡市	13,125
41	行田市	11.6%	伊奈町	27,303	北本市	-9.9%	春日部市	60.4%	杉戸町	12,993
42	神川町	11.6%	杉戸町	27,097	飯能市	-10.1%	北本市	60.3%	三芳町	10,847
43	春日部市	11.5%	毛呂山町	22,713	横瀬町	-10.1%	狭山市	60.0%	毛呂山町	10,694
44	北本市	11.4%	三芳町	22,432	狭山市	-10.5%	嵐山町	59.9%	宮代町	10,096
45	美里町	11.4%	寄居町	20,339	美里町	-10.6%	寄居町	59.8%	寄居町	9,996
46	皆野町	11.3%	宮代町	19,920	寄居町	-10.7%	杉戸町	59.6%	小川町	9,908
47	狭山市	11.3%	上里町	19,034	日高市	-11.0%	川島町	59.6%	伊奈町	9,727
48	小鹿野町	11.3%	松伏町	18,400	嵐山町	-11.1%	宮代町	59.3%	松伏町	7,716
49	幸手市	10.9%	小川町	18,392	行田市	-11.1%	小川町	59.1%	上里町	7,270
50	蕨市	10.8%	川島町	12,387	杉戸町	-11.2%	越生町	59.0%	川島町	6,169
51	寄居町	10.8%	吉見町	12,275	神川町	-11.9%	蓮田市	59.0%	鳩山町	5,583
52	飯能市	10.8%	滑川町	11,338	毛呂山町	-12.3%	幸手市	58.9%	吉見町	5,471
53	川島町	10.7%	嵐山町	10,921	幸手市	-12.4%	美里町	58.8%	嵐山町	5,405
54	宮代町	10.7%	神川町	8,253	長瀨町	-13.0%	ときがわ町	58.7%	小鹿野町	4,037
55	長瀨町	10.6%	鳩山町	7,599	皆野町	-13.3%	三芳町	58.4%	滑川町	3,929
56	嵐山町	10.4%	越生町	6,906	吉見町	-13.4%	日高市	58.1%	神川町	3,808
57	越生町	10.0%	ときがわ町	6,739	越生町	-13.6%	横瀬町	57.4%	ときがわ町	3,734
58	毛呂山町	9.9%	小鹿野町	6,712	小川町	-14.0%	秩父市	57.2%	越生町	3,633
59	吉見町	9.5%	美里町	6,592	小鹿野町	-14.5%	東秩父村	56.4%	皆野町	3,442
60	小川町	9.1%	皆野町	5,538	川島町	-14.7%	小鹿野町	55.4%	美里町	3,336
61	ときがわ町	8.9%	横瀬町	4,886	ときがわ町	-15.7%	皆野町	54.7%	横瀬町	2,595
62	鳩山町	8.0%	長瀨町	3,984	東秩父村	-16.3%	長瀨町	54.4%	長瀨町	2,564
63	東秩父村	7.8%	東秩父村	1,643	鳩山町	-20.9%	鳩山町	53.0%	東秩父村	1,044

順位	H22→H27 高齢者人口増加率		H27 高齢者人口 割合		H27 20代30代 女性人口		H22→H27 20代30代 女性人口増加率		H27 出生数	
1	鶴ヶ島市	37.0%	鳩山町	38.9%	さいたま市	148,337	戸田市	-3.0%	さいたま市	10,899
2	伊奈町	34.5%	東秩父村	35.8%	川口市	69,267	蕨市	-5.0%	川口市	5,302
3	三郷市	34.1%	長瀬町	35.0%	川越市	39,668	八潮市	-5.1%	越谷市	2,754
4	吉川市	33.6%	皆野町	34.0%	越谷市	39,567	朝霞市	-5.3%	川越市	2,726
5	鳩山町	29.3%	小鹿野町	33.3%	所沢市	37,868	三郷市	-5.7%	所沢市	2,723
6	志木市	27.1%	ときがわ町	32.5%	草加市	26,133	吉川市	-6.0%	草加市	1,906
7	坂戸市	27.1%	小川町	31.8%	春日部市	23,949	ふじみ野市	-8.0%	上尾市	1,719
8	日高市	27.0%	越生町	31.0%	上尾市	23,890	白岡市	-8.3%	戸田市	1,558
9	久喜市	26.6%	秩父市	30.7%	熊谷市	20,717	さいたま市	-8.4%	春日部市	1,557
10	北本市	26.5%	横瀬町	30.5%	新座市	18,589	川口市	-8.8%	熊谷市	1,479
11	入間市	26.2%	幸手市	30.3%	戸田市	18,300	東松山市	-8.8%	朝霞市	1,397
12	東松山市	26.0%	宮代町	30.1%	朝霞市	17,639	志木市	-9.4%	新座市	1,345
13	杉戸町	25.8%	美里町	29.8%	久喜市	16,030	越谷市	-9.5%	三郷市	1,218
14	幸手市	25.3%	川島町	29.7%	三郷市	15,869	川越市	-9.6%	深谷市	1,038
15	上里町	25.1%	嵐山町	29.7%	入間市	15,708	和光市	-9.9%	入間市	1,023
16	春日部市	24.7%	寄居町	29.4%	狭山市	15,335	新座市	-10.6%	富士見市	994
17	松伏町	24.6%	蓮田市	29.4%	深谷市	14,960	美里町	-11.1%	久喜市	984
18	越谷市	24.5%	日高市	28.9%	富士見市	12,855	羽生市	-11.6%	ふじみ野市	976
19	草加市	24.3%	毛呂山町	28.8%	鴻巣市	12,620	宮代町	-12.4%	狭山市	968
20	鴻巣市	24.1%	狭山市	28.7%	ふじみ野市	12,487	深谷市	-12.6%	和光市	876
21	狭山市	24.1%	杉戸町	28.6%	和光市	11,909	加須市	-12.7%	八潮市	826
22	白岡市	23.8%	飯能市	28.5%	加須市	11,642	富士見市	-12.8%	鴻巣市	797
23	戸田市	23.7%	北本市	28.3%	坂戸市	10,866	久喜市	-13.3%	東松山市	705
24	川島町	23.7%	三芳町	28.2%	八潮市	10,460	熊谷市	-13.5%	坂戸市	696
25	八潮市	23.2%	春日部市	28.1%	東松山市	9,812	秩父市	-13.6%	加須市	682
26	滑川町	23.1%	行田市	27.9%	蕨市	9,278	鴻巣市	-13.7%	吉川市	674
27	宮代町	22.9%	神川町	27.9%	志木市	8,692	滑川町	-14.2%	志木市	672
28	嵐山町	22.5%	吉見町	27.9%	吉川市	8,284	飯能市	-14.8%	蕨市	622
29	上尾市	22.3%	本庄市	27.2%	行田市	8,262	上里町	-15.0%	本庄市	558
30	蓮田市	22.2%	羽生市	27.2%	鶴ヶ島市	7,886	入間市	-15.1%	入間市	546
31	吉見町	22.1%	桶川市	27.2%	飯能市	7,854	本庄市	-15.4%	鶴ヶ島市	509
32	新座市	21.8%	久喜市	26.7%	本庄市	7,775	桶川市	-15.8%	飯能市	508
33	川越市	21.8%	坂戸市	26.3%	桶川市	7,636	上尾市	-16.0%	桶川市	483
34	三芳町	21.7%	鴻巣市	26.3%	北本市	6,797	所沢市	-16.2%	秩父市	435
35	さいたま市	21.7%	熊谷市	26.2%	蓮田市	6,544	小川町	-16.4%	蓮田市	424
36	所沢市	21.0%	深谷市	26.1%	秩父市	5,626	行田市	-16.5%	伊奈町	394
37	深谷市	21.0%	加須市	25.9%	日高市	5,622	寄居町	-16.8%	北本市	386
38	加須市	20.9%	松伏町	25.7%	白岡市	5,600	春日部市	-16.9%	白岡市	385
39	桶川市	20.9%	入間市	25.7%	羽生市	5,540	伊奈町	-17.2%	日高市	357
40	小川町	20.5%	所沢市	25.6%	幸手市	5,133	狭山市	-17.3%	羽生市	351
41	毛呂山町	20.4%	上尾市	25.6%	伊奈町	5,077	蓮田市	-17.3%	幸手市	307
42	富士見市	20.0%	白岡市	25.5%	杉戸町	4,420	吉見町	-17.3%	杉戸町	242
43	神川町	19.9%	東松山市	25.4%	毛呂山町	4,128	坂戸市	-17.8%	三芳町	240
44	川口市	19.8%	三郷市	25.2%	三芳町	3,718	嵐山町	-18.0%	宮代町	222
45	和光市	19.8%	川越市	25.1%	宮代町	3,268	草加市	-18.2%	上里町	213
46	ふじみ野市	19.1%	鶴ヶ島市	24.9%	上里町	3,248	幸手市	-18.3%	寄居町	193
47	行田市	19.1%	ふじみ野市	24.5%	寄居町	3,150	鶴ヶ島市	-18.3%	毛呂山町	186
48	朝霞市	19.1%	新座市	24.3%	松伏町	2,861	横瀬町	-18.6%	滑川町	177
49	飯能市	18.0%	富士見市	24.2%	小川町	2,714	北本市	-19.3%	松伏町	154
50	熊谷市	17.7%	草加市	24.2%	滑川町	2,031	神川町	-19.3%	小川町	152
51	ときがわ町	17.6%	越谷市	23.9%	川島町	1,897	東秩父村	-19.7%	嵐山町	119
52	越生町	17.3%	上里町	23.8%	吉見町	1,825	杉戸町	-19.9%	川島町	102
53	美里町	16.4%	志木市	23.8%	嵐山町	1,812	毛呂山町	-20.2%	吉見町	79
54	羽生市	16.3%	蕨市	23.0%	神川町	1,284	越生町	-20.7%	神川町	77
55	寄居町	15.3%	八潮市	22.9%	鳩山町	1,092	川島町	-21.1%	美里町	74
56	蕨市	13.0%	さいたま市	22.8%	美里町	1,054	三芳町	-21.1%	ときがわ町	57
57	本庄市	12.8%	川口市	22.6%	越生町	1,039	日高市	-21.3%	皆野町	53
58	横瀬町	9.2%	伊奈町	21.9%	小鹿野町	931	松伏町	-21.5%	越生町	48
59	皆野町	8.3%	吉川市	21.7%	ときがわ町	927	ときがわ町	-21.8%	横瀬町	48
60	長瀬町	8.1%	滑川町	21.6%	皆野町	780	小鹿野町	-22.9%	鳩山町	47
61	秩父市	6.4%	朝霞市	18.9%	横瀬町	706	皆野町	-23.8%	小鹿野町	46
62	小鹿野町	2.4%	和光市	16.8%	長瀬町	522	鳩山町	-27.2%	長瀬町	34
63	東秩父村	-1.6%	戸田市	16.6%	東秩父村	224	長瀬町	-29.0%	東秩父村	9



順位	H27 死亡数		H27 合計特殊出生率		H27 母年齢 20-24歳の出生率		H27 母年齢 25-29歳の出生率		H27 母年齢 30-34歳の出生率	
1	さいたま市	9,920	滑川町	1.76	滑川町	0.2769	滑川町	0.6527	戸田市	0.6039
2	川口市	4,905	吉川市	1.62	美里町	0.2743	吉川市	0.5522	朝霞市	0.6023
3	川越市	3,062	戸田市	1.59	上里町	0.2266	秩父市	0.4936	富士見市	0.6008
4	所沢市	2,682	八潮市	1.55	長瀬町	0.2101	伊奈町	0.4708	ふじみ野市	0.5797
5	越谷市	2,652	朝霞市	1.53	吉川市	0.2092	八潮市	0.4681	伊奈町	0.5591
6	熊谷市	2,130	伊奈町	1.52	東秩父村	0.2000	志木市	0.4595	さいたま市	0.5514
7	春日部市	2,045	秩父市	1.52	松伏町	0.1964	白岡市	0.4520	美里町	0.5495
8	草加市	1,990	志木市	1.50	深谷市	0.1930	戸田市	0.4486	和光市	0.5459
9	上尾市	1,837	ふじみ野市	1.50	皆野町	0.1923	東松山市	0.4480	吉川市	0.5441
10	深谷市	1,510	三郷市	1.50	嵐山町	0.1913	深谷市	0.4434	上尾市	0.5391
11	狭山市	1,445	富士見市	1.49	八潮市	0.1860	三郷市	0.4395	三郷市	0.5339
12	久喜市	1,409	川口市	1.46	三芳町	0.1819	朝霞市	0.4350	滑川町	0.5312
13	新座市	1,257	東松山市	1.43	三郷市	0.1812	神川町	0.4286	新座市	0.5273
14	入間市	1,221	美里町	1.41	秩父市	0.1793	羽生市	0.4280	秩父市	0.5251
15	加須市	1,180	本庄市	1.41	神川町	0.1724	宮代町	0.4255	所沢市	0.5197
16	三郷市	1,119	さいたま市	1.40	本庄市	0.1697	皆野町	0.4217	八潮市	0.5188
17	鴻巣市	1,014	熊谷市	1.40	川口市	0.1645	飯能市	0.4199	川口市	0.5166
18	行田市	982	上尾市	1.40	伊奈町	0.1634	草加市	0.4172	志木市	0.5163
19	ふじみ野市	924	草加市	1.40	寄居町	0.1609	ふじみ野市	0.4155	白岡市	0.5081
20	本庄市	910	新座市	1.40	加須市	0.1609	富士見市	0.4131	寄居町	0.5076
21	富士見市	889	和光市	1.39	羽生市	0.1592	熊谷市	0.4110	熊谷市	0.5076
22	朝霞市	884	所沢市	1.38	春日部市	0.1591	本庄市	0.4108	本庄市	0.5066
23	東松山市	861	深谷市	1.37	日高市	0.1503	上里町	0.4079	越谷市	0.5001
24	秩父市	849	越谷市	1.36	行田市	0.1471	蓮田市	0.4042	東松山市	0.4927
25	戸田市	847	宮代町	1.35	幸手市	0.1469	上尾市	0.4040	草加市	0.4907
26	飯能市	843	川越市	1.34	宮代町	0.1445	川口市	0.4036	三芳町	0.4904
27	坂戸市	827	白岡市	1.34	小鹿野町	0.1429	越谷市	0.4034	入間市	0.4828
28	蕨市	689	上里町	1.33	狭山市	0.1409	入間市	0.3996	宮代町	0.4825
29	八潮市	631	飯能市	1.32	草加市	0.1403	ときがわ町	0.3991	飯能市	0.4823
30	桶川市	622	行田市	1.31	東松山市	0.1374	川越市	0.3967	川越市	0.4811
31	羽生市	614	三芳町	1.31	越生町	0.1287	横瀬町	0.3869	上里町	0.4803
32	北本市	598	入間市	1.30	久喜市	0.1249	所沢市	0.3850	蓮田市	0.4745
33	幸手市	583	蕨市	1.30	上尾市	0.1247	さいたま市	0.3816	鶴ヶ島市	0.4724
34	蓮田市	538	嵐山町	1.29	志木市	0.1225	鶴ヶ島市	0.3787	行田市	0.4681
35	志木市	536	皆野町	1.29	熊谷市	0.1195	坂戸市	0.3782	日高市	0.4628
36	日高市	519	春日部市	1.28	戸田市	0.1195	鴻巣市	0.3759	坂戸市	0.4583
37	鶴ヶ島市	489	横瀬町	1.28	鴻巣市	0.1190	三芳町	0.3748	蕨市	0.4555
38	吉川市	470	坂戸市	1.28	蕨市	0.1178	狭山市	0.3740	深谷市	0.4528
39	和光市	454	蓮田市	1.27	川越市	0.1157	川島町	0.3739	春日部市	0.4506
40	白岡市	442	長瀬町	1.27	鳩山町	0.1154	春日部市	0.3714	桶川市	0.4484
41	杉戸町	424	鶴ヶ島市	1.27	蓮田市	0.1150	行田市	0.3707	久喜市	0.4392
42	小川町	418	羽生市	1.26	入間市	0.1139	桶川市	0.3696	嵐山町	0.4372
43	寄居町	403	寄居町	1.25	ときがわ町	0.1136	新座市	0.3657	鴻巣市	0.4275
44	毛呂山町	377	狭山市	1.24	小川町	0.1123	加須市	0.3636	横瀬町	0.4211
45	三芳町	344	桶川市	1.24	越谷市	0.1115	長瀬町	0.3600	狭山市	0.4121
46	宮代町	342	鴻巣市	1.23	坂戸市	0.1113	寄居町	0.3539	北本市	0.4081
47	上里町	306	日高市	1.23	桶川市	0.1109	和光市	0.3376	川島町	0.4036
48	伊奈町	288	神川町	1.20	吉見町	0.1074	小川町	0.3344	長瀬町	0.4032
49	松伏町	269	久喜市	1.20	新座市	0.1035	杉戸町	0.3337	羽生市	0.4006
50	小鹿野町	221	ときがわ町	1.20	北本市	0.1029	久喜市	0.3286	杉戸町	0.3918
51	吉見町	220	幸手市	1.17	飯能市	0.1006	幸手市	0.3269	加須市	0.3902
52	川島町	213	加須市	1.17	所沢市	0.0999	日高市	0.3227	吉見町	0.3837
53	嵐山町	208	北本市	1.12	富士見市	0.0982	北本市	0.3191	幸手市	0.3763
54	神川町	180	小川町	1.11	杉戸町	0.0963	美里町	0.3125	松伏町	0.3604
55	美里町	165	杉戸町	1.08	朝霞市	0.0952	小鹿野町	0.3086	小川町	0.3556
56	滑川町	161	松伏町	1.08	鶴ヶ島市	0.0926	蕨市	0.2966	毛呂山町	0.3490
57	鳩山町	157	川島町	1.06	ふじみ野市	0.0917	嵐山町	0.2785	小鹿野町	0.3440
58	ときがわ町	157	小鹿野町	0.98	さいたま市	0.0903	毛呂山町	0.2692	越生町	0.3435
59	皆野町	156	毛呂山町	0.97	和光市	0.0806	松伏町	0.2623	神川町	0.3281
60	越生町	142	越生町	0.93	白岡市	0.0753	鳩山町	0.2308	ときがわ町	0.2889
61	横瀬町	136	吉見町	0.89	毛呂山町	0.0664	越生町	0.2304	鳩山町	0.2823
62	長瀬町	113	鳩山町	0.85	川島町	0.0466	吉見町	0.1986	皆野町	0.2703
63	東秩父村	52	東秩父村	0.73	横瀬町	0.0329	東秩父村	0.1020	東秩父村	0.1961

順位	H27 母年齢 35-39歳の出生率		H27 25-29歳男性未婚率		H27 25-29歳女性未婚率		H27 30-34歳男性未婚率		H27 30-34歳女性未婚率	
1	戸田市	0.3436	鳩山町	90.3%	東秩父村	87.8%	東秩父村	75.0%	鳩山町	56.9%
2	ふじみ野市	0.3429	ときがわ町	88.8%	鳩山町	81.5%	鳩山町	73.1%	小川町	49.1%
3	和光市	0.3392	越生町	86.9%	ときがわ町	80.8%	ときがわ町	67.8%	ときがわ町	48.4%
4	蕨市	0.3378	毛呂山町	85.2%	毛呂山町	76.4%	小川町	65.2%	毛呂山町	48.3%
5	志木市	0.3335	吉見町	84.4%	吉見町	74.9%	川島町	62.8%	吉見町	47.8%
6	横瀬町	0.3316	川島町	84.2%	小川町	74.7%	吉見町	62.6%	川島町	45.3%
7	朝霞市	0.3309	長瀨町	82.7%	川島町	72.8%	毛呂山町	62.5%	東秩父村	45.1%
8	新座市	0.3200	東秩父村	82.1%	越生町	71.0%	長瀨町	60.6%	越生町	42.4%
9	ときがわ町	0.3160	小川町	82.0%	長瀨町	68.8%	越生町	60.3%	北本市	42.1%
10	さいたま市	0.3050	美里町	81.7%	北本市	68.1%	嵐山町	58.6%	飯能市	41.6%
11	八潮市	0.3006	飯能市	80.1%	杉戸町	67.9%	小鹿野町	56.6%	幸手市	41.3%
12	川口市	0.2972	日高市	79.8%	三芳町	67.8%	蓮田市	56.4%	蓮田市	40.1%
13	所沢市	0.2924	杉戸町	79.2%	日高市	67.7%	行田市	56.4%	寄居町	39.9%
14	富士見市	0.2907	三芳町	78.7%	飯能市	67.4%	幸手市	56.1%	美里町	39.7%
15	東松山市	0.2822	坂戸市	78.6%	鴻巣市	67.0%	寄居町	55.9%	長瀨町	39.5%
16	川越市	0.2790	久喜市	78.1%	久喜市	66.8%	狭山市	55.9%	杉戸町	39.4%
17	坂戸市	0.2773	嵐山町	77.9%	所沢市	66.5%	北本市	55.5%	狭山市	39.0%
18	上尾市	0.2765	鴻巣市	77.6%	蓮田市	66.4%	飯能市	55.3%	久喜市	38.9%
19	皆野町	0.2754	皆野町	77.4%	行田市	66.0%	日高市	54.8%	嵐山町	38.7%
20	伊奈町	0.2751	加須市	77.4%	鶴ヶ島市	65.8%	上里町	54.3%	宮代町	38.7%
21	越谷市	0.2736	鶴ヶ島市	77.4%	宮代町	65.6%	美里町	54.2%	羽生市	38.6%
22	熊谷市	0.2733	北本市	77.3%	加須市	65.3%	久喜市	54.1%	蕨市	38.2%
23	草加市	0.2731	幸手市	77.2%	羽生市	65.3%	羽生市	53.9%	所沢市	38.1%
24	三郷市	0.2726	松伏町	77.1%	幸手市	65.3%	蕨市	53.9%	鴻巣市	37.9%
25	鶴ヶ島市	0.2642	狭山市	77.1%	狭山市	65.2%	春日部市	53.8%	三芳町	37.7%
26	長瀨町	0.2597	東松山市	76.7%	桶川市	65.0%	加須市	53.6%	行田市	37.6%
27	飯能市	0.2583	蕨市	76.6%	小鹿野町	64.9%	杉戸町	53.5%	加須市	37.4%
28	吉川市	0.2501	羽生市	76.6%	富士見市	64.7%	松伏町	52.5%	上里町	37.4%
29	狭山市	0.2492	所沢市	76.6%	坂戸市	64.6%	入間市	52.4%	鶴ヶ島市	37.1%
30	久喜市	0.2489	入間市	76.5%	さいたま市	64.3%	鴻巣市	52.4%	東松山市	37.0%
31	嵐山町	0.2482	行田市	76.0%	草加市	63.9%	宮代町	52.3%	日高市	36.4%
32	鴻巣市	0.2480	熊谷市	76.0%	美里町	63.9%	坂戸市	52.2%	春日部市	36.4%
33	幸手市	0.2476	上尾市	75.9%	上尾市	63.9%	熊谷市	52.0%	松伏町	36.3%
34	桶川市	0.2474	宮代町	75.8%	和光市	63.8%	所沢市	51.1%	入間市	35.8%
35	入間市	0.2440	和光市	75.7%	春日部市	63.7%	三芳町	51.1%	本庄市	35.8%
36	本庄市	0.2415	桶川市	75.6%	入間市	63.7%	東松山市	50.7%	皆野町	35.7%
37	行田市	0.2400	寄居町	75.6%	熊谷市	63.6%	皆野町	50.7%	神川町	35.7%
38	北本市	0.2386	春日部市	75.4%	松伏町	63.2%	草加市	50.6%	小鹿野町	35.5%
39	小川町	0.2381	草加市	75.2%	川越市	63.1%	神川町	50.4%	桶川市	35.1%
40	春日部市	0.2378	上里町	75.2%	寄居町	62.9%	鶴ヶ島市	49.7%	坂戸市	35.0%
41	白岡市	0.2369	白岡市	75.1%	東松山市	62.8%	本庄市	49.6%	草加市	34.7%
42	宮代町	0.2346	さいたま市	75.1%	蕨市	62.7%	上尾市	49.5%	川越市	34.4%
43	滑川町	0.2273	川越市	75.1%	神川町	62.4%	川越市	49.4%	上尾市	34.1%
44	蓮田市	0.2260	蓮田市	74.8%	上里町	62.1%	八潮市	49.4%	熊谷市	33.9%
45	日高市	0.2251	本庄市	74.7%	新座市	62.0%	桶川市	48.8%	白岡市	33.9%
46	美里町	0.2232	小鹿野町	74.5%	越谷市	61.8%	川口市	48.1%	さいたま市	33.7%
47	神川町	0.2192	新座市	73.8%	白岡市	61.6%	深谷市	47.9%	和光市	33.4%
48	秩父市	0.2158	富士見市	73.7%	嵐山町	61.2%	和光市	47.8%	川口市	33.0%
49	深谷市	0.2154	神川町	73.4%	本庄市	61.1%	滑川町	47.8%	越谷市	32.8%
50	松伏町	0.2134	深谷市	72.9%	川口市	60.0%	横瀬町	47.6%	志木市	32.7%
51	杉戸町	0.2096	ふじみ野市	72.9%	志木市	59.7%	新座市	46.2%	深谷市	32.6%
52	越生町	0.2083	越谷市	72.8%	深谷市	59.6%	越谷市	46.2%	富士見市	32.6%
53	三芳町	0.2044	志木市	72.5%	伊奈町	58.9%	さいたま市	46.1%	新座市	32.0%
54	加須市	0.1970	川口市	72.3%	ふじみ野市	58.9%	秩父市	46.1%	横瀬町	31.7%
55	毛呂山町	0.1959	秩父市	70.9%	朝霞市	58.8%	三郷市	46.0%	八潮市	31.5%
56	羽生市	0.1945	三郷市	70.7%	皆野町	58.4%	志木市	45.6%	三郷市	31.3%
57	寄居町	0.1852	八潮市	70.4%	三郷市	58.4%	富士見市	45.4%	滑川町	31.1%
58	吉見町	0.1816	朝霞市	70.4%	戸田市	57.6%	伊奈町	45.2%	秩父市	30.9%
59	川島町	0.1805	戸田市	70.1%	八潮市	54.7%	白岡市	44.5%	ふじみ野市	29.0%
60	小鹿野町	0.1695	伊奈町	67.5%	秩父市	54.0%	ふじみ野市	43.3%	朝霞市	28.5%
61	上里町	0.1668	吉川市	67.5%	吉川市	53.2%	吉川市	42.5%	伊奈町	28.3%
62	鳩山町	0.1543	滑川町	66.0%	横瀬町	50.0%	朝霞市	40.3%	吉川市	28.3%
63	東秩父村	0.1020	横瀬町	63.3%	滑川町	47.9%	戸田市	39.4%	戸田市	26.1%

順位	H27 35-39歳男性未婚率		H27 35-39歳女性未婚率		H27 15-19歳 男性労働力率		H27 15-19歳 女性労働力率		H27 20-24歳 男性労働力率	
1	鳩山町	57.3%	鳩山町	34.0%	横瀬町	22.0%	八潮市	21.9%	小鹿野町	83.9%
2	東秩父村	52.9%	越生町	31.4%	八潮市	21.7%	幸手市	19.7%	皆野町	79.9%
3	小川町	51.9%	嵐山町	30.4%	神川町	20.3%	皆野町	19.6%	八潮市	78.2%
4	毛呂山町	50.9%	毛呂山町	30.2%	三郷市	20.0%	松伏町	19.3%	神川町	77.9%
5	川島町	49.9%	小川町	29.0%	長瀨町	19.9%	富士見市	19.2%	長瀨町	77.3%
6	越生町	48.4%	蕨市	28.2%	狭山市	19.5%	草加市	19.1%	横瀬町	77.0%
7	ときがわ町	48.3%	幸手市	28.1%	三芳町	19.4%	川島町	19.1%	滑川町	76.9%
8	宮代町	48.0%	飯能市	27.9%	幸手市	19.1%	所沢市	19.0%	上里町	75.1%
9	嵐山町	47.5%	宮代町	27.8%	松伏町	18.7%	上里町	18.9%	秩父市	74.4%
10	吉見町	47.2%	吉見町	27.8%	東秩父村	18.4%	日高市	18.9%	本庄市	74.1%
11	幸手市	44.4%	蓮田市	27.4%	新座市	18.4%	東松山市	18.6%	三郷市	73.9%
12	寄居町	43.3%	春日部市	27.0%	小川町	18.3%	羽生市	18.5%	松伏町	73.2%
13	神川町	43.1%	狭山市	26.8%	美里町	18.2%	吉川市	18.3%	美里町	73.0%
14	羽生市	43.0%	美里町	26.8%	春日部市	18.1%	飯能市	18.2%	ときがわ町	72.9%
15	杉戸町	42.9%	寄居町	26.7%	草加市	18.1%	新座市	18.2%	狭山市	72.8%
16	蓮田市	42.8%	東秩父村	26.5%	皆野町	18.0%	寄居町	18.1%	寄居町	72.4%
17	蕨市	42.8%	所沢市	26.0%	吉川市	17.9%	春日部市	17.8%	吉川市	72.3%
18	春日部市	42.6%	神川町	25.8%	熊谷市	17.8%	三郷市	17.7%	羽生市	72.1%
19	長瀨町	42.6%	久喜市	25.3%	宮代町	17.7%	戸田市	17.5%	和光市	72.0%
20	飯能市	42.1%	行田市	25.2%	和光市	17.6%	朝霞市	17.5%	川口市	71.6%
21	北本市	42.1%	杉戸町	25.0%	加須市	17.6%	本庄市	17.5%	三芳町	71.2%
22	狭山市	41.9%	ときがわ町	24.9%	寄居町	17.5%	上尾市	17.5%	吉見町	71.2%
23	松伏町	41.8%	鶴ヶ島市	24.8%	行田市	17.4%	狭山市	17.3%	春日部市	70.9%
24	久喜市	41.7%	羽生市	24.8%	ときがわ町	17.4%	行田市	17.2%	蕨市	70.8%
25	美里町	41.6%	長瀨町	24.7%	秩父市	17.4%	三芳町	17.1%	草加市	70.0%
26	三芳町	40.9%	三郷市	24.6%	川口市	17.4%	越谷市	17.0%	日高市	69.8%
27	日高市	40.6%	北本市	24.6%	杉戸町	17.1%	熊谷市	16.8%	越谷市	69.8%
28	皆野町	40.5%	川越市	24.3%	上里町	16.9%	坂戸市	16.8%	加須市	69.5%
29	行田市	40.5%	富士見市	24.1%	毛呂山町	16.8%	川越市	16.7%	杉戸町	69.5%
30	入間市	40.2%	坂戸市	24.1%	坂戸市	16.8%	川口市	16.6%	小川町	69.3%
31	小鹿野町	40.1%	入間市	24.0%	本庄市	16.8%	ふじみ野市	16.6%	富士見市	68.6%
32	東松山市	40.1%	熊谷市	23.9%	蕨市	16.7%	入間市	16.5%	朝霞市	68.5%
33	坂戸市	39.9%	加須市	23.9%	戸田市	16.5%	蕨市	16.4%	戸田市	68.4%
34	加須市	39.5%	東松山市	23.6%	東松山市	16.4%	杉戸町	16.4%	入間市	68.1%
35	鶴ヶ島市	39.5%	鴻巣市	23.5%	飯能市	16.3%	深谷市	16.2%	越生町	68.0%
36	所沢市	39.2%	小鹿野町	23.5%	富士見市	16.3%	吉見町	16.1%	幸手市	68.0%
37	白岡市	39.1%	川島町	23.5%	入間市	16.2%	久喜市	16.0%	深谷市	67.9%
38	本庄市	38.9%	本庄市	23.4%	北本市	16.2%	桶川市	16.0%	上尾市	67.7%
39	熊谷市	38.8%	越谷市	23.4%	越谷市	16.2%	鴻巣市	15.9%	川島町	67.7%
40	川越市	38.6%	川口市	23.2%	羽生市	16.1%	和光市	15.7%	嵐山町	67.5%
41	八潮市	38.6%	桶川市	23.1%	吉見町	15.9%	神川町	15.5%	所沢市	67.1%
42	横瀬町	38.3%	草加市	23.0%	所沢市	15.8%	加須市	15.4%	北本市	66.6%
43	深谷市	38.3%	白岡市	23.0%	久喜市	15.6%	志木市	15.3%	飯能市	66.5%
44	桶川市	38.0%	上尾市	23.0%	朝霞市	15.4%	伊奈町	15.3%	行田市	66.1%
45	鴻巣市	37.6%	三芳町	22.7%	嵐山町	15.2%	小川町	15.2%	鳩山町	66.1%
46	秩父市	37.5%	秩父市	22.5%	桶川市	15.2%	北本市	15.2%	桶川市	65.9%
47	上里町	37.4%	松伏町	22.4%	鴻巣市	15.1%	嵐山町	15.0%	久喜市	65.9%
48	上尾市	37.2%	志木市	22.3%	川越市	15.1%	越生町	14.8%	白岡市	65.7%
49	川口市	37.1%	日高市	22.3%	日高市	14.8%	さいたま市	14.7%	熊谷市	65.2%
50	和光市	37.1%	深谷市	21.9%	川島町	14.8%	白岡市	14.7%	新座市	65.0%
51	草加市	37.0%	さいたま市	21.7%	蓮田市	14.6%	宮代町	14.6%	伊奈町	64.6%
52	三郷市	37.0%	八潮市	21.7%	上尾市	14.6%	毛呂山町	14.5%	蓮田市	64.5%
53	越谷市	35.3%	和光市	21.7%	ふじみ野市	14.5%	秩父市	14.3%	ふじみ野市	64.3%
54	新座市	35.0%	皆野町	21.6%	鶴ヶ島市	14.3%	鶴ヶ島市	14.2%	鴻巣市	63.3%
55	志木市	34.7%	上里町	21.4%	深谷市	14.3%	横瀬町	14.1%	さいたま市	62.9%
56	富士見市	33.9%	ふじみ野市	20.7%	伊奈町	14.1%	ときがわ町	14.0%	川越市	60.5%
57	滑川町	33.8%	新座市	20.4%	さいたま市	14.1%	美里町	13.7%	東秩父村	60.3%
58	さいたま市	33.1%	滑川町	19.9%	白岡市	14.1%	蓮田市	13.5%	志木市	60.1%
59	ふじみ野市	32.9%	吉川市	19.5%	鳩山町	13.6%	長瀨町	13.2%	鶴ヶ島市	59.2%
60	伊奈町	31.4%	朝霞市	19.1%	志木市	12.4%	滑川町	12.6%	東松山市	57.6%
61	吉川市	31.3%	横瀬町	19.1%	滑川町	12.3%	小鹿野町	12.6%	宮代町	55.6%
62	朝霞市	31.2%	伊奈町	17.8%	越生町	12.0%	鳩山町	11.6%	坂戸市	55.0%
63	戸田市	28.5%	戸田市	16.6%	小鹿野町	11.6%	東秩父村	5.6%	毛呂山町	48.8%

順位	H27 20-24歳 女性労働力率		H27 25-59歳 男性労働力率		H27 25-59歳 女性労働力率		H27 60-64歳 男性労働力率		H27 60-64歳 女性労働力率	
1	八潮市	21.9%	朝霞市	97.4%	長瀬町	81.1%	草加市	85.3%	小鹿野町	57.2%
2	幸手市	19.7%	戸田市	97.2%	越生町	80.4%	新座市	84.9%	越生町	55.7%
3	皆野町	19.6%	吉川市	97.1%	小鹿野町	80.3%	志木市	84.8%	神川町	55.6%
4	松伏町	19.3%	和光市	96.9%	神川町	79.3%	朝霞市	84.2%	戸田市	55.1%
5	富士見市	19.2%	ふじみ野市	96.9%	ときがわ町	78.6%	和光市	84.1%	草加市	54.8%
6	草加市	19.1%	富士見市	96.9%	上里町	78.5%	富士見市	84.0%	八潮市	54.7%
7	川島町	19.1%	八潮市	96.9%	東秩父村	78.5%	川口市	83.8%	朝霞市	54.3%
8	所沢市	19.0%	川口市	96.9%	小川町	78.0%	三郷市	83.5%	川口市	54.0%
9	上里町	18.9%	草加市	96.9%	美里町	77.6%	北本市	83.5%	三芳町	53.9%
10	日高市	18.9%	白岡市	96.8%	吉見町	76.8%	春日部市	83.2%	蕨市	53.7%
11	東松山市	18.6%	北本市	96.8%	寄居町	76.6%	吉川市	83.2%	ときがわ町	53.7%
12	羽生市	18.5%	新座市	96.7%	川島町	76.5%	所沢市	82.9%	新座市	53.3%
13	吉川市	18.3%	伊奈町	96.7%	鳩山町	76.5%	入間市	82.9%	皆野町	52.7%
14	飯能市	18.2%	さいたま市	96.7%	本庄市	76.3%	八潮市	82.8%	三郷市	52.4%
15	新座市	18.2%	志木市	96.7%	皆野町	76.0%	越谷市	82.8%	吉見町	52.2%
16	寄居町	18.1%	蕨市	96.6%	行田市	75.7%	鶴ヶ島市	82.5%	吉川市	52.0%
17	春日部市	17.8%	越谷市	96.5%	秩父市	75.5%	松伏町	82.3%	長瀬町	51.9%
18	三郷市	17.7%	三芳町	96.4%	加須市	75.2%	さいたま市	82.0%	加須市	51.8%
19	戸田市	17.5%	行田市	96.4%	深谷市	75.2%	上尾市	81.9%	富士見市	51.8%
20	朝霞市	17.5%	上尾市	96.4%	蕨市	75.1%	白岡市	81.7%	寄居町	51.8%
21	本庄市	17.5%	長瀬町	96.3%	三芳町	75.0%	狭山市	81.4%	深谷市	51.7%
22	上尾市	17.5%	加須市	96.3%	羽生市	74.9%	杉戸町	81.3%	上里町	51.5%
23	狭山市	17.3%	上里町	96.3%	嵐山町	74.5%	久喜市	81.2%	川島町	50.7%
24	行田市	17.2%	入間市	96.2%	八潮市	74.5%	蓮田市	81.2%	本庄市	50.6%
25	三芳町	17.1%	川島町	96.2%	北本市	74.2%	川越市	81.1%	和光市	50.5%
26	越谷市	17.0%	狭山市	96.2%	熊谷市	73.9%	戸田市	81.1%	松伏町	50.5%
27	熊谷市	16.8%	久喜市	96.2%	和光市	73.8%	神川町	81.0%	坂戸市	50.4%
28	坂戸市	16.8%	深谷市	96.2%	松伏町	73.8%	伊奈町	81.0%	川越市	50.2%
29	川越市	16.7%	鶴ヶ島市	96.2%	横瀬町	73.6%	ふじみ野市	80.8%	鶴ヶ島市	50.1%
30	川口市	16.6%	日高市	96.2%	春日部市	73.5%	坂戸市	80.8%	ふじみ野市	49.9%
31	ふじみ野市	16.6%	鴻巣市	96.1%	鶴ヶ島市	73.5%	三芳町	80.7%	越谷市	49.8%
32	入間市	16.5%	宮代町	96.1%	草加市	73.5%	蕨市	80.5%	秩父市	49.7%
33	蕨市	16.4%	春日部市	96.1%	富士見市	73.4%	桶川市	80.3%	所沢市	49.6%
34	杉戸町	16.4%	所沢市	96.1%	朝霞市	73.3%	川島町	80.1%	羽生市	49.4%
35	深谷市	16.2%	坂戸市	96.0%	東松山市	73.2%	吉見町	80.1%	行田市	49.3%
36	吉見町	16.1%	三郷市	96.0%	毛呂山町	73.1%	幸手市	80.0%	東松山市	49.0%
37	久喜市	16.0%	東秩父村	96.0%	飯能市	73.1%	加須市	79.9%	桶川市	49.0%
38	桶川市	16.0%	本庄市	95.9%	入間市	73.1%	小鹿野町	79.6%	東秩父村	49.0%
39	鴻巣市	15.9%	吉見町	95.8%	所沢市	72.9%	鴻巣市	79.6%	毛呂山町	48.9%
40	和光市	15.7%	杉戸町	95.8%	宮代町	72.8%	皆野町	79.3%	嵐山町	48.8%
41	神川町	15.5%	松伏町	95.7%	久喜市	72.8%	行田市	79.1%	入間市	48.7%
42	加須市	15.4%	神川町	95.7%	三郷市	72.7%	深谷市	79.0%	上尾市	48.7%
43	志木市	15.3%	小鹿野町	95.7%	坂戸市	72.7%	宮代町	78.4%	小川町	48.6%
44	伊奈町	15.3%	越生町	95.6%	吉川市	72.7%	越生町	78.3%	春日部市	48.6%
45	小川町	15.2%	熊谷市	95.6%	日高市	72.7%	熊谷市	78.2%	さいたま市	48.2%
46	北本市	15.2%	横瀬町	95.6%	戸田市	72.7%	飯能市	78.1%	久喜市	48.1%
47	嵐山町	15.0%	飯能市	95.6%	上尾市	72.7%	上里町	78.0%	熊谷市	47.8%
48	越生町	14.8%	蓮田市	95.5%	鴻巣市	72.6%	寄居町	77.9%	狭山市	47.7%
49	さいたま市	14.7%	川越市	95.5%	川越市	72.6%	長瀬町	77.9%	北本市	47.7%
50	白岡市	14.7%	小川町	95.4%	川口市	72.6%	東松山市	77.7%	志木市	47.6%
51	宮代町	14.6%	秩父市	95.4%	狭山市	72.5%	鳩山町	77.3%	横瀬町	47.6%
52	毛呂山町	14.5%	寄居町	95.2%	新座市	72.4%	小川町	77.0%	美里町	47.6%
53	秩父市	14.3%	幸手市	95.2%	桶川市	72.3%	日高市	77.0%	伊奈町	47.4%
54	鶴ヶ島市	14.2%	桶川市	95.2%	幸手市	72.2%	ときがわ町	76.5%	日高市	47.3%
55	横瀬町	14.1%	東松山市	95.2%	滑川町	72.1%	本庄市	76.1%	幸手市	47.1%
56	ときがわ町	14.0%	滑川町	94.9%	越谷市	72.1%	嵐山町	76.1%	杉戸町	46.8%
57	美里町	13.7%	羽生市	94.6%	伊奈町	72.0%	羽生市	74.9%	飯能市	46.7%
58	蓮田市	13.5%	ときがわ町	94.5%	蓮田市	71.9%	横瀬町	73.9%	鳩山町	45.8%
59	長瀬町	13.2%	皆野町	94.5%	杉戸町	71.7%	毛呂山町	73.8%	鴻巣市	45.5%
60	滑川町	12.6%	美里町	93.3%	志木市	71.6%	美里町	73.6%	滑川町	44.6%
61	小鹿野町	12.6%	鳩山町	93.2%	ふじみ野市	71.3%	秩父市	73.3%	蓮田市	44.1%
62	鳩山町	11.6%	嵐山町	90.2%	さいたま市	70.6%	滑川町	72.9%	宮代町	44.0%
63	東秩父村	5.6%	毛呂山町	86.4%	白岡市	70.4%	東秩父村	68.3%	白岡市	42.7%

順位	H27 65歳以上 男性労働力率		H27 65歳以上 女性労働力率		H27 25-29歳 女性労働力率		H27 30-34歳 女性労働力率		H27 35-39歳 女性労働力率	
1	草加市	85.3%	草加市	85.3%	長瀨町	89.5%	美里町	81.4%	東秩父村	87.0%
2	新座市	84.9%	新座市	84.9%	越生町	81.6%	上里町	80.1%	神川町	83.8%
3	志木市	84.8%	志木市	84.8%	ときがわ町	80.9%	寄居町	79.7%	長瀨町	83.3%
4	朝霞市	84.2%	朝霞市	84.2%	小川町	79.3%	長瀨町	78.6%	越生町	82.4%
5	和光市	84.1%	和光市	84.1%	上里町	78.7%	小川町	78.2%	小鹿野町	82.0%
6	富士見市	84.0%	富士見市	84.0%	小鹿野町	78.4%	小鹿野町	78.0%	小川町	81.6%
7	川口市	83.8%	川口市	83.8%	鳩山町	77.6%	神川町	77.4%	寄居町	79.9%
8	三郷市	83.5%	三郷市	83.5%	神川町	76.6%	羽生市	77.1%	美里町	79.8%
9	北本市	83.5%	北本市	83.5%	羽生市	75.9%	川島町	77.0%	ときがわ町	79.8%
10	春日部市	83.2%	春日部市	83.2%	毛呂山町	75.9%	吉見町	76.9%	吉見町	79.8%
11	吉川市	83.2%	吉川市	83.2%	美里町	75.7%	鳩山町	76.7%	皆野町	79.6%
12	所沢市	82.9%	所沢市	82.9%	皆野町	75.5%	越生町	76.3%	秩父市	79.6%
13	入間市	82.9%	入間市	82.9%	本庄市	75.0%	ときがわ町	76.2%	行田市	79.5%
14	八潮市	82.8%	八潮市	82.8%	秩父市	75.0%	皆野町	75.8%	上里町	78.9%
15	越谷市	82.8%	越谷市	82.8%	和光市	74.9%	秩父市	75.2%	本庄市	78.8%
16	鶴ヶ島市	82.5%	鶴ヶ島市	82.5%	寄居町	74.0%	毛呂山町	74.7%	鳩山町	78.7%
17	松伏町	82.3%	松伏町	82.3%	飯能市	73.9%	本庄市	74.6%	深谷市	78.2%
18	さいたま市	82.0%	さいたま市	82.0%	蕨市	73.6%	行田市	74.1%	羽生市	77.3%
19	上尾市	81.9%	上尾市	81.9%	行田市	73.4%	嵐山町	73.7%	加須市	77.0%
20	白岡市	81.7%	白岡市	81.7%	深谷市	73.2%	横瀬町	73.5%	三芳町	77.0%
21	狭山市	81.4%	狭山市	81.4%	北本市	73.0%	深谷市	73.2%	嵐山町	76.9%
22	杉戸町	81.3%	杉戸町	81.3%	加須市	72.7%	加須市	72.9%	東松山市	76.1%
23	久喜市	81.2%	久喜市	81.2%	三芳町	72.4%	東秩父村	72.9%	幸手市	75.8%
24	蓮田市	81.2%	蓮田市	81.2%	川島町	72.1%	滑川町	72.5%	熊谷市	75.8%
25	川越市	81.1%	川越市	81.1%	日高市	72.0%	松伏町	72.1%	毛呂山町	75.5%
26	戸田市	81.1%	戸田市	81.1%	所沢市	71.9%	鶴ヶ島市	72.1%	八潮市	75.4%
27	神川町	81.0%	神川町	81.0%	熊谷市	71.8%	熊谷市	71.8%	宮代町	75.4%
28	伊奈町	81.0%	伊奈町	81.0%	吉見町	71.7%	東松山市	71.4%	松伏町	75.3%
29	ふじみ野市	80.8%	ふじみ野市	80.8%	久喜市	71.7%	幸手市	71.3%	北本市	75.3%
30	坂戸市	80.8%	坂戸市	80.8%	鶴ヶ島市	71.4%	春日部市	71.0%	吉川市	75.2%
31	三芳町	80.7%	三芳町	80.7%	嵐山町	71.2%	日高市	70.8%	日高市	75.1%
32	蕨市	80.5%	蕨市	80.5%	宮代町	71.2%	蕨市	70.4%	蓮田市	75.0%
33	桶川市	80.3%	桶川市	80.3%	八潮市	71.0%	坂戸市	70.4%	鶴ヶ島市	74.9%
34	川島町	80.1%	川島町	80.1%	春日部市	70.6%	八潮市	70.3%	蕨市	74.9%
35	吉見町	80.1%	吉見町	80.1%	志木市	70.6%	三芳町	70.2%	入間市	74.9%
36	幸手市	80.0%	幸手市	80.0%	朝霞市	70.5%	飯能市	70.1%	杉戸町	74.7%
37	加須市	79.9%	加須市	79.9%	入間市	70.2%	入間市	70.1%	川島町	74.6%
38	小鹿野町	79.6%	小鹿野町	79.6%	川越市	70.2%	宮代町	70.1%	狭山市	74.5%
39	鴻巣市	79.6%	鴻巣市	79.6%	鴻巣市	70.2%	三郷市	69.9%	飯能市	74.4%
40	皆野町	79.3%	皆野町	79.3%	草加市	69.9%	狭山市	69.4%	春日部市	74.3%
41	行田市	79.1%	行田市	79.1%	狭山市	69.7%	北本市	69.2%	鴻巣市	73.9%
42	深谷市	79.0%	深谷市	79.0%	越谷市	69.7%	所沢市	69.0%	坂戸市	73.6%
43	宮代町	78.4%	宮代町	78.4%	さいたま市	69.7%	草加市	68.8%	伊奈町	73.5%
44	越生町	78.3%	越生町	78.3%	川口市	69.7%	久喜市	68.8%	久喜市	73.4%
45	熊谷市	78.2%	熊谷市	78.2%	幸手市	69.6%	鴻巣市	68.8%	川越市	73.3%
46	飯能市	78.1%	飯能市	78.1%	滑川町	69.4%	杉戸町	68.4%	上尾市	73.2%
47	上里町	78.0%	上里町	78.0%	戸田市	69.3%	蓮田市	68.3%	所沢市	73.2%
48	寄居町	77.9%	寄居町	77.9%	三郷市	69.1%	桶川市	68.2%	草加市	73.2%
49	長瀨町	77.9%	長瀨町	77.9%	坂戸市	69.0%	志木市	68.1%	横瀬町	73.2%
50	東松山市	77.7%	東松山市	77.7%	桶川市	69.0%	吉川市	68.1%	富士見市	73.2%
51	鳩山町	77.3%	鳩山町	77.3%	東松山市	68.7%	富士見市	68.0%	滑川町	73.0%
52	小川町	77.0%	小川町	77.0%	上尾市	68.6%	川越市	67.9%	朝霞市	72.9%
53	日高市	77.0%	日高市	77.0%	富士見市	68.6%	川口市	67.9%	桶川市	72.7%
54	ときがわ町	76.5%	ときがわ町	76.5%	新座市	68.5%	和光市	67.4%	越谷市	72.6%
55	本庄市	76.1%	本庄市	76.1%	蓮田市	68.2%	上尾市	67.2%	川口市	72.4%
56	嵐山町	76.1%	嵐山町	76.1%	横瀬町	68.1%	新座市	67.1%	三郷市	72.4%
57	羽生市	74.9%	羽生市	74.9%	松伏町	68.0%	伊奈町	67.1%	戸田市	72.2%
58	横瀬町	73.9%	横瀬町	73.9%	杉戸町	67.5%	朝霞市	67.1%	白岡市	72.1%
59	毛呂山町	73.8%	毛呂山町	73.8%	伊奈町	67.4%	越谷市	66.8%	和光市	72.0%
60	美里町	73.6%	美里町	73.6%	吉川市	67.1%	ふじみ野市	66.6%	ふじみ野市	71.9%
61	秩父市	73.3%	秩父市	73.3%	ふじみ野市	66.8%	白岡市	66.2%	新座市	71.7%
62	滑川町	72.9%	滑川町	72.9%	白岡市	66.2%	戸田市	65.3%	志木市	71.5%
63	東秩父村	68.3%	東秩父村	68.3%	東秩父村	66.0%	さいたま市	65.2%	さいたま市	69.2%

順位	H27 20-24歳 有配偶女性労働力率		H27 25-29歳 有配偶女性労働力率		H27 30-34歳 有配偶女性労働力率		H27 35-39歳 有配偶女性労働力率		H27 15-19歳 男性失業率	
1	朝霞市	61.9%	東秩父村	80.0%	長瀨町	84.6%	美里町	79.6%	皆野町	16.7%
2	小鹿野町	61.1%	ときがわ町	69.7%	越生町	69.9%	上里町	75.3%	美里町	16.0%
3	ふじみ野市	61.1%	長瀨町	68.8%	上里町	68.9%	寄居町	74.5%	横瀬町	14.6%
4	ときがわ町	60.0%	嵐山町	68.3%	小鹿野町	68.8%	小鹿野町	74.0%	鳩山町	14.3%
5	宮代町	59.3%	和光市	67.7%	ときがわ町	68.0%	長瀨町	73.6%	嵐山町	12.9%
6	長瀨町	58.3%	横瀬町	67.1%	美里町	67.5%	毛呂山町	72.4%	宮代町	12.2%
7	滑川町	58.1%	朝霞市	66.7%	小川町	66.3%	ときがわ町	72.4%	長瀨町	11.4%
8	秩父市	57.6%	蕨市	66.6%	神川町	66.3%	羽生市	71.6%	小川町	11.1%
9	行田市	56.5%	本庄市	65.3%	羽生市	65.9%	小川町	71.5%	八潮市	10.2%
10	白岡市	56.5%	上里町	64.4%	皆野町	65.6%	神川町	71.2%	行田市	9.9%
11	蕨市	56.3%	皆野町	64.4%	秩父市	64.9%	川島町	71.2%	吉見町	9.9%
12	三芳町	56.1%	小川町	63.3%	本庄市	64.3%	鳩山町	71.2%	神川町	9.6%
13	鶴ヶ島市	55.6%	所沢市	62.9%	毛呂山町	64.1%	皆野町	70.8%	上里町	9.3%
14	越谷市	54.2%	秩父市	62.9%	和光市	63.9%	吉見町	70.4%	三郷市	9.0%
15	毛呂山町	53.8%	戸田市	62.8%	深谷市	63.3%	秩父市	70.0%	吉川市	8.7%
16	横瀬町	53.3%	さいたま市	62.6%	寄居町	62.2%	嵐山町	69.9%	深谷市	8.6%
17	狭山市	53.3%	八潮市	62.5%	鳩山町	61.1%	横瀬町	69.0%	川口市	8.4%
18	所沢市	52.7%	三芳町	61.6%	朝霞市	61.0%	本庄市	68.2%	滑川町	8.3%
19	美里町	52.6%	深谷市	61.6%	行田市	60.1%	行田市	67.8%	毛呂山町	8.2%
20	さいたま市	52.4%	美里町	60.9%	蕨市	59.9%	東秩父村	67.7%	春日部市	8.1%
21	飯能市	52.4%	寄居町	60.3%	戸田市	59.7%	深谷市	67.4%	坂戸市	8.0%
22	八潮市	52.3%	新座市	60.0%	熊谷市	59.6%	滑川町	67.1%	伊奈町	7.9%
23	和光市	52.3%	北本市	60.0%	加須市	59.3%	加須市	66.2%	白岡市	7.8%
24	本庄市	52.2%	ふじみ野市	59.9%	八潮市	59.3%	越生町	66.1%	戸田市	7.8%
25	戸田市	52.2%	久喜市	59.9%	飯能市	59.2%	松伏町	66.0%	幸手市	7.8%
26	川越市	51.8%	毛呂山町	59.9%	三芳町	58.8%	鶴ヶ島市	64.5%	東松山市	7.5%
27	熊谷市	51.4%	羽生市	59.6%	日高市	58.8%	熊谷市	64.5%	鶴ヶ島市	7.5%
28	志木市	51.3%	鴻巣市	59.4%	志木市	58.7%	日高市	63.9%	加須市	7.4%
29	深谷市	50.4%	川島町	59.3%	所沢市	58.4%	東松山市	63.3%	上尾市	7.4%
30	上尾市	50.0%	飯能市	59.3%	嵐山町	57.8%	三芳町	63.1%	北本市	7.3%
31	入間市	50.0%	越谷市	59.0%	横瀬町	57.8%	宮代町	62.7%	鴻巣市	7.3%
32	吉見町	50.0%	入間市	59.0%	久喜市	57.4%	八潮市	61.9%	狭山市	7.3%
33	鳩山町	50.0%	日高市	59.0%	川越市	57.3%	坂戸市	61.8%	草加市	7.2%
34	川口市	49.2%	川越市	58.7%	鶴ヶ島市	57.2%	三郷市	61.6%	東秩父村	7.1%
35	羽生市	49.0%	富士見市	58.5%	三郷市	57.1%	春日部市	61.4%	秩父市	7.1%
36	新座市	48.8%	越生町	58.5%	川口市	57.1%	入間市	61.2%	越谷市	7.0%
37	寄居町	48.6%	川口市	58.4%	春日部市	57.0%	幸手市	61.0%	日高市	7.0%
38	久喜市	48.6%	志木市	58.3%	越谷市	57.0%	飯能市	60.9%	寄居町	6.9%
39	鴻巣市	48.6%	滑川町	58.3%	滑川町	57.0%	吉川市	60.8%	蕨市	6.8%
40	北本市	48.5%	小鹿野町	58.2%	入間市	56.9%	鴻巣市	60.6%	杉戸町	6.7%
41	加須市	47.4%	狭山市	58.2%	北本市	56.8%	伊奈町	60.5%	本庄市	6.6%
42	東松山市	47.2%	加須市	57.9%	さいたま市	56.6%	桶川市	60.5%	桶川市	6.5%
43	桶川市	47.2%	上尾市	57.7%	吉川市	56.5%	久喜市	60.4%	新座市	6.3%
44	坂戸市	46.3%	坂戸市	57.7%	草加市	56.1%	新座市	60.2%	小鹿野町	6.3%
45	吉川市	46.2%	神川町	57.6%	新座市	56.1%	草加市	60.1%	松伏町	6.1%
46	三郷市	45.7%	杉戸町	57.4%	鴻巣市	56.0%	北本市	60.1%	志木市	6.0%
47	草加市	44.7%	東松山市	57.3%	吉見町	56.0%	狭山市	59.8%	蓮田市	5.9%
48	蓮田市	44.2%	熊谷市	57.1%	伊奈町	55.9%	所沢市	59.7%	入間市	5.9%
49	春日部市	44.0%	吉川市	56.9%	富士見市	55.6%	朝霞市	59.7%	羽生市	5.6%
50	松伏町	43.3%	白岡市	56.6%	上尾市	55.1%	志木市	59.5%	川越市	5.6%
51	越生町	41.7%	草加市	56.6%	ふじみ野市	55.0%	蕨市	59.3%	所沢市	5.5%
52	富士見市	41.3%	蓮田市	56.5%	宮代町	55.0%	川越市	59.3%	久喜市	5.5%
53	杉戸町	40.7%	春日部市	55.1%	桶川市	54.6%	和光市	59.2%	さいたま市	5.5%
54	日高市	40.5%	三郷市	54.9%	坂戸市	54.5%	川口市	59.1%	飯能市	5.5%
55	伊奈町	39.0%	桶川市	54.8%	東松山市	54.4%	蓮田市	58.9%	熊谷市	5.0%
56	幸手市	37.8%	伊奈町	54.1%	狭山市	53.4%	杉戸町	58.8%	ふじみ野市	5.0%
57	小川町	37.1%	幸手市	54.0%	幸手市	53.3%	富士見市	58.8%	朝霞市	4.6%
58	嵐山町	37.0%	鶴ヶ島市	53.8%	川島町	52.9%	戸田市	58.4%	川島町	4.5%
59	川島町	33.3%	吉見町	53.6%	蓮田市	52.6%	上尾市	58.3%	ときがわ町	4.3%
60	上里町	33.3%	宮代町	53.5%	白岡市	52.6%	ふじみ野市	58.2%	和光市	4.2%
61	神川町	32.3%	行田市	51.4%	松伏町	52.4%	越谷市	57.4%	富士見市	3.9%
62	東秩父村	25.0%	鳩山町	51.2%	杉戸町	51.2%	白岡市	57.1%	三芳町	3.5%
63	皆野町	16.7%	松伏町	45.9%	東秩父村	47.6%	さいたま市	56.3%	越生町	0.0%

順位	H27 20-24歳 男性失業率		H27 25-59歳 男性失業率		H27 60-64歳 男性失業率		H27 65歳以上 男性失業率		H27 15-19歳 女性失業率	
1	皆野町	15.3%	鳩山町	7.3%	毛呂山町	8.2%	坂戸市	7.7%	東秩父村	33.3%
2	日高市	11.7%	毛呂山町	7.3%	秩父市	7.2%	毛呂山町	7.6%	皆野町	16.7%
3	美里町	11.2%	日高市	6.8%	熊谷市	6.7%	寄居町	7.1%	ときがわ町	11.4%
4	鳩山町	11.0%	坂戸市	6.3%	神川町	6.7%	伊奈町	6.1%	松伏町	9.4%
5	ときがわ町	10.4%	小川町	6.3%	幸手市	6.7%	鶴ヶ島市	6.0%	長瀨町	8.7%
6	松伏町	9.9%	幸手市	6.0%	滑川町	6.5%	幸手市	5.7%	上里町	8.6%
7	小鹿野町	9.9%	ときがわ町	6.0%	東松山市	6.4%	戸田市	5.7%	毛呂山町	8.3%
8	蓮田市	9.6%	上里町	5.7%	蕨市	6.3%	入間市	5.5%	小川町	8.2%
9	吉見町	9.6%	寄居町	5.7%	美里町	6.3%	越生町	5.5%	嵐山町	8.2%
10	伊奈町	9.4%	蓮田市	5.6%	戸田市	6.2%	蕨市	5.4%	寄居町	7.7%
11	坂戸市	9.3%	皆野町	5.6%	坂戸市	6.2%	狭山市	5.4%	杉戸町	7.6%
12	上里町	9.3%	長瀨町	5.5%	上里町	6.1%	ふじみ野市	5.4%	深谷市	7.2%
13	嵐山町	9.1%	松伏町	5.4%	日高市	6.1%	朝霞市	5.2%	富士見市	7.1%
14	本庄市	9.1%	深谷市	5.4%	寄居町	6.0%	上里町	5.2%	日高市	7.1%
15	小川町	8.9%	行田市	5.3%	深谷市	6.0%	蓮田市	5.2%	幸手市	7.0%
16	越生町	8.7%	熊谷市	5.2%	小川町	6.0%	三郷市	5.1%	八潮市	6.7%
17	蕨市	8.6%	春日部市	5.2%	富士見市	6.0%	鴻巣市	5.1%	坂戸市	6.7%
18	羽生市	8.5%	東秩父村	5.2%	羽生市	5.9%	松伏町	5.1%	滑川町	6.7%
19	行田市	8.5%	小鹿野町	5.2%	本庄市	5.9%	宮代町	5.0%	鳩山町	6.7%
20	入間市	8.4%	飯能市	5.2%	伊奈町	5.9%	新座市	5.0%	蕨市	6.5%
21	滑川町	8.4%	鴻巣市	5.1%	蓮田市	5.8%	富士見市	4.9%	小鹿野町	6.5%
22	加須市	8.2%	蕨市	5.0%	越生町	5.8%	上尾市	4.9%	蓮田市	6.3%
23	飯能市	8.2%	狭山市	5.0%	三郷市	5.7%	嵐山町	4.9%	本庄市	6.2%
24	秩父市	8.2%	宮代町	5.0%	川口市	5.7%	草加市	4.8%	宮代町	6.1%
25	鶴ヶ島市	8.2%	越生町	5.0%	八潮市	5.6%	飯能市	4.8%	神川町	6.0%
26	深谷市	8.1%	羽生市	5.0%	ふじみ野市	5.6%	杉戸町	4.8%	加須市	5.8%
27	久喜市	8.1%	美里町	5.0%	三芳町	5.5%	さいたま市	4.8%	久喜市	5.7%
28	白岡市	8.0%	秩父市	5.0%	鴻巣市	5.5%	春日部市	4.7%	三郷市	5.7%
29	杉戸町	8.0%	鶴ヶ島市	5.0%	白岡市	5.4%	小川町	4.7%	入間市	5.6%
30	志木市	7.9%	本庄市	5.0%	さいたま市	5.4%	行田市	4.6%	川口市	5.3%
31	鴻巣市	7.8%	久喜市	4.9%	入間市	5.3%	日高市	4.6%	越生町	5.1%
32	毛呂山町	7.7%	加須市	4.9%	草加市	5.3%	東松山市	4.6%	行田市	5.1%
33	春日部市	7.6%	入間市	4.8%	嵐山町	5.3%	所沢市	4.6%	鶴ヶ島市	4.9%
34	川越市	7.6%	嵐山町	4.8%	横瀬町	5.3%	北本市	4.5%	春日部市	4.7%
35	上尾市	7.6%	三郷市	4.8%	ときがわ町	5.2%	本庄市	4.5%	秩父市	4.7%
36	北本市	7.6%	北本市	4.7%	上尾市	5.2%	横瀬町	4.5%	鴻巣市	4.7%
37	川口市	7.6%	桶川市	4.7%	皆野町	5.2%	深谷市	4.4%	北本市	4.7%
38	吉川市	7.6%	東松山市	4.7%	鶴ヶ島市	5.2%	熊谷市	4.4%	川島町	4.6%
39	東松山市	7.6%	杉戸町	4.7%	朝霞市	5.2%	川口市	4.3%	戸田市	4.5%
40	三郷市	7.5%	神川町	4.7%	桶川市	5.1%	越谷市	4.3%	草加市	4.5%
41	神川町	7.4%	所沢市	4.6%	志木市	5.1%	ときがわ町	4.3%	熊谷市	4.4%
42	新座市	7.3%	吉見町	4.5%	飯能市	5.1%	川越市	4.2%	三芳町	4.4%
43	熊谷市	7.3%	川口市	4.5%	久喜市	5.1%	八潮市	4.2%	桶川市	4.3%
44	富士見市	7.3%	越谷市	4.5%	長瀨町	5.0%	和光市	4.1%	越谷市	4.3%
45	宮代町	7.3%	ふじみ野市	4.5%	北本市	4.9%	鳩山町	4.1%	伊奈町	4.3%
46	八潮市	7.3%	川越市	4.4%	春日部市	4.9%	滑川町	4.1%	新座市	4.3%
47	草加市	7.2%	白岡市	4.3%	鳩山町	4.9%	白岡市	4.0%	吉川市	4.2%
48	幸手市	7.2%	八潮市	4.3%	狭山市	4.8%	久喜市	4.0%	飯能市	4.1%
49	ふじみ野市	7.1%	上尾市	4.3%	川島町	4.8%	吉見町	4.0%	上尾市	3.9%
50	寄居町	7.1%	滑川町	4.3%	越谷市	4.8%	三芳町	3.9%	さいたま市	3.8%
51	狭山市	7.1%	草加市	4.3%	東秩父村	4.8%	桶川市	3.9%	吉見町	3.8%
52	さいたま市	7.0%	さいたま市	4.3%	所沢市	4.8%	秩父市	3.9%	羽生市	3.8%
53	越谷市	7.0%	三芳町	4.2%	加須市	4.7%	志木市	3.8%	所沢市	3.8%
54	所沢市	7.0%	富士見市	4.2%	川越市	4.6%	加須市	3.8%	狭山市	3.5%
55	川島町	6.9%	戸田市	4.1%	小鹿野町	4.5%	羽生市	3.7%	志木市	3.5%
56	戸田市	6.7%	川島町	4.1%	吉見町	4.4%	長瀨町	3.7%	川越市	3.4%
57	三芳町	6.7%	新座市	4.1%	行田市	4.4%	川島町	3.5%	朝霞市	3.2%
58	桶川市	6.6%	志木市	4.0%	新座市	4.3%	吉川市	3.2%	ふじみ野市	3.2%
59	長瀨町	6.0%	伊奈町	3.7%	杉戸町	4.2%	美里町	3.1%	和光市	2.8%
60	朝霞市	6.0%	朝霞市	3.6%	和光市	4.1%	神川町	3.0%	東松山市	2.7%
61	横瀬町	6.0%	吉川市	3.6%	松伏町	4.1%	小鹿野町	2.9%	白岡市	1.2%
62	東秩父村	5.3%	横瀬町	3.4%	吉川市	3.6%	皆野町	2.7%	横瀬町	0.0%
63	和光市	5.2%	和光市	2.7%	宮代町	3.6%	東秩父村	1.3%	美里町	0.0%

順位	H27 20-24歳 女性失業率		H27 25-59歳 女性失業率		H27 60-64歳 女性失業率		H27 65歳以上 女性失業率		H27 25-29歳 女性失業率	
1	幸手市	8.4%	東秩父村	5.0%	ときがわ町	3.7%	坂戸市	3.5%	上里町	7.2%
2	美里町	8.4%	鳩山町	4.7%	毛呂山町	3.5%	鶴ヶ島市	2.9%	吉見町	7.2%
3	東秩父村	8.2%	毛呂山町	4.3%	戸田市	3.4%	戸田市	2.9%	川島町	6.9%
4	松伏町	7.7%	坂戸市	4.1%	坂戸市	3.4%	三郷市	2.8%	鳩山町	6.8%
5	坂戸市	7.6%	蕨市	4.0%	長瀬町	3.3%	越生町	2.6%	長瀬町	6.3%
6	小川町	7.6%	上里町	3.9%	宮代町	3.2%	皆野町	2.5%	東秩父村	6.1%
7	宮代町	7.5%	幸手市	3.9%	志木市	3.1%	嵐山町	2.4%	狭山市	5.6%
8	加須市	7.5%	狭山市	3.8%	幸手市	3.0%	滑川町	2.4%	寄居町	5.4%
9	本庄市	7.4%	草加市	3.8%	小川町	3.0%	蓮田市	2.3%	皆野町	5.4%
10	滑川町	7.2%	春日部市	3.8%	滑川町	3.0%	毛呂山町	2.2%	宮代町	5.4%
11	上里町	7.2%	本庄市	3.8%	草加市	2.9%	幸手市	2.2%	鴻巣市	5.4%
12	深谷市	7.0%	滑川町	3.8%	川口市	2.9%	草加市	2.2%	神川町	5.4%
13	久喜市	7.0%	三郷市	3.7%	行田市	2.9%	横瀬町	2.2%	毛呂山町	5.4%
14	熊谷市	6.9%	日高市	3.7%	朝霞市	2.8%	杉戸町	2.1%	深谷市	5.3%
15	吉見町	6.8%	川口市	3.7%	上尾市	2.8%	蕨市	2.0%	蕨市	5.3%
16	蕨市	6.8%	白岡市	3.7%	越谷市	2.8%	朝霞市	2.0%	蓮田市	5.3%
17	越生町	6.8%	八潮市	3.7%	鶴ヶ島市	2.8%	ふじみ野市	2.0%	越生町	5.3%
18	八潮市	6.8%	松伏町	3.6%	日高市	2.7%	和光市	2.0%	滑川町	5.3%
19	三郷市	6.7%	寄居町	3.6%	春日部市	2.7%	上尾市	2.0%	羽生市	5.2%
20	神川町	6.6%	鶴ヶ島市	3.6%	さいたま市	2.7%	新座市	2.0%	飯能市	5.2%
21	鴻巣市	6.6%	熊谷市	3.6%	本庄市	2.7%	松伏町	1.9%	松伏町	5.0%
22	飯能市	6.5%	深谷市	3.6%	東松山市	2.7%	越谷市	1.9%	幸手市	4.9%
23	狭山市	6.5%	所沢市	3.6%	富士見市	2.6%	所沢市	1.9%	三芳町	4.9%
24	桶川市	6.4%	鴻巣市	3.6%	所沢市	2.6%	熊谷市	1.9%	本庄市	4.9%
25	日高市	6.3%	杉戸町	3.5%	ふじみ野市	2.6%	寄居町	1.8%	久喜市	4.8%
26	秩父市	6.3%	宮代町	3.5%	蓮田市	2.5%	伊奈町	1.8%	草加市	4.8%
27	三芳町	6.2%	行田市	3.5%	横瀬町	2.5%	さいたま市	1.8%	坂戸市	4.8%
28	蓮田市	6.1%	入間市	3.5%	狭山市	2.5%	志木市	1.8%	東松山市	4.7%
29	戸田市	6.1%	北本市	3.5%	鴻巣市	2.4%	宮代町	1.8%	鶴ヶ島市	4.7%
30	川口市	6.1%	越谷市	3.4%	三郷市	2.4%	深谷市	1.8%	熊谷市	4.6%
31	嵐山町	6.0%	三芳町	3.4%	羽生市	2.4%	入間市	1.7%	北本市	4.6%
32	毛呂山町	5.8%	川越市	3.4%	川越市	2.4%	春日部市	1.7%	白岡市	4.6%
33	春日部市	5.8%	蓮田市	3.4%	熊谷市	2.3%	飯能市	1.7%	春日部市	4.6%
34	羽生市	5.8%	志木市	3.4%	白岡市	2.3%	八潮市	1.7%	杉戸町	4.5%
35	寄居町	5.7%	上尾市	3.4%	杉戸町	2.3%	富士見市	1.7%	志木市	4.5%
36	志木市	5.7%	飯能市	3.4%	上里町	2.2%	川口市	1.7%	加須市	4.5%
37	北本市	5.7%	伊奈町	3.4%	寄居町	2.2%	行田市	1.6%	所沢市	4.5%
38	入間市	5.7%	富士見市	3.4%	伊奈町	2.2%	小川町	1.5%	上尾市	4.5%
39	白岡市	5.6%	久喜市	3.3%	入間市	2.2%	鴻巣市	1.5%	ときがわ町	4.4%
40	川島町	5.6%	神川町	3.3%	新座市	2.1%	川越市	1.5%	伊奈町	4.4%
41	上尾市	5.6%	ふじみ野市	3.3%	加須市	2.1%	狭山市	1.5%	ふじみ野市	4.3%
42	行田市	5.5%	新座市	3.3%	神川町	2.1%	三芳町	1.4%	越谷市	4.3%
43	吉川市	5.5%	吉見町	3.3%	深谷市	2.0%	本庄市	1.4%	八潮市	4.3%
44	杉戸町	5.5%	皆野町	3.3%	和光市	2.0%	日高市	1.4%	川越市	4.3%
45	越谷市	5.4%	さいたま市	3.3%	久喜市	1.9%	上里町	1.3%	吉川市	4.2%
46	長瀬町	5.4%	桶川市	3.3%	八潮市	1.9%	鳩山町	1.3%	行田市	4.2%
47	皆野町	5.3%	加須市	3.3%	蕨市	1.9%	加須市	1.2%	三郷市	4.2%
48	鳩山町	5.3%	羽生市	3.3%	吉見町	1.8%	桶川市	1.2%	富士見市	4.2%
49	ふじみ野市	5.2%	秩父市	3.2%	吉川市	1.7%	秩父市	1.2%	川口市	4.2%
50	草加市	5.2%	戸田市	3.2%	桶川市	1.7%	東松山市	1.2%	桶川市	4.2%
51	朝霞市	5.1%	小川町	3.2%	飯能市	1.7%	小鹿野町	1.2%	入間市	4.1%
52	さいたま市	5.1%	長瀬町	3.1%	北本市	1.6%	北本市	1.1%	新座市	4.1%
53	東松山市	5.0%	美里町	3.1%	秩父市	1.6%	東秩父村	1.1%	小川町	4.1%
54	小鹿野町	5.0%	東松山市	3.0%	小鹿野町	1.5%	川島町	1.1%	さいたま市	4.1%
55	新座市	5.0%	朝霞市	2.9%	越生町	1.5%	白岡市	1.1%	日高市	4.0%
56	伊奈町	4.9%	嵐山町	2.9%	鳩山町	1.5%	吉見町	1.0%	秩父市	4.0%
57	和光市	4.7%	川島町	2.9%	嵐山町	1.4%	吉川市	0.9%	戸田市	3.9%
58	富士見市	4.7%	和光市	2.8%	東秩父村	1.4%	久喜市	0.9%	横瀬町	3.9%
59	所沢市	4.6%	吉川市	2.8%	松伏町	1.1%	美里町	0.8%	和光市	3.3%
60	川越市	4.6%	越生町	2.8%	美里町	0.9%	ときがわ町	0.8%	朝霞市	3.0%
61	横瀬町	4.3%	横瀬町	2.6%	三芳町	0.6%	羽生市	0.7%	美里町	2.9%
62	鶴ヶ島市	4.2%	ときがわ町	2.6%	川島町	0.6%	神川町	0.5%	小鹿野町	1.8%
63	ときがわ町	3.8%	小鹿野町	2.4%	皆野町	0.0%	長瀬町	0.4%	嵐山町	1.3%



順位	H27 30-34歳 女性失業率		H27 35-39歳 女性失業率		H22→H27 15-19歳 男性純移動率		H22→H27 15-19歳 女性純移動率		H22→H27 20-24歳 男性純移動率	
1	横瀬町	6.3%	東秩父村	6.0%	宮代町	38.9%	毛呂山町	28.5%	蕨市	44.4%
2	長瀬町	5.8%	鳩山町	5.7%	東松山市	30.0%	東松山市	21.3%	和光市	43.7%
3	東秩父村	5.7%	嵐山町	5.0%	毛呂山町	28.0%	戸田市	16.5%	朝霞市	43.2%
4	蕨市	5.0%	三芳町	4.2%	坂戸市	24.7%	坂戸市	15.3%	戸田市	39.2%
5	飯能市	4.7%	坂戸市	4.1%	朝霞市	18.1%	蕨市	14.1%	宮代町	22.3%
6	小川町	4.5%	毛呂山町	4.1%	戸田市	17.5%	鶴ヶ島市	12.9%	川越市	17.7%
7	杉戸町	4.5%	日高市	4.0%	飯能市	16.7%	富士見市	12.2%	草加市	16.1%
8	熊谷市	4.3%	宮代町	3.9%	鶴ヶ島市	16.3%	朝霞市	10.4%	毛呂山町	15.7%
9	日高市	4.3%	松伏町	3.9%	川越市	10.4%	志木市	10.3%	川口市	15.3%
10	上里町	4.2%	久喜市	3.8%	蕨市	10.4%	所沢市	9.5%	滑川町	15.0%
11	草加市	4.2%	皆野町	3.7%	さいたま市	9.6%	川越市	9.4%	坂戸市	14.6%
12	川越市	4.2%	春日部市	3.7%	志木市	9.2%	滑川町	8.5%	富士見市	13.9%
13	毛呂山町	4.1%	鶴ヶ島市	3.7%	所沢市	8.8%	新座市	8.1%	さいたま市	13.4%
14	坂戸市	4.1%	寄居町	3.6%	草加市	8.6%	さいたま市	7.5%	志木市	13.0%
15	鳩山町	4.0%	所沢市	3.6%	ふじみ野市	7.4%	越谷市	7.5%	八潮市	11.3%
16	加須市	4.0%	神川町	3.6%	杉戸町	6.7%	草加市	7.4%	所沢市	11.1%
17	狭山市	4.0%	蓮田市	3.6%	新座市	5.4%	ふじみ野市	7.0%	鶴ヶ島市	10.6%
18	神川町	4.0%	川口市	3.6%	富士見市	5.4%	飯能市	5.6%	越谷市	10.0%
19	川口市	3.9%	滑川町	3.5%	熊谷市	5.3%	入間市	5.0%	狭山市	8.7%
20	寄居町	3.9%	狭山市	3.5%	川口市	5.3%	川口市	4.7%	ふじみ野市	8.5%
21	幸手市	3.9%	白岡市	3.5%	和光市	5.1%	宮代町	4.0%	東松山市	6.9%
22	皆野町	3.9%	行田市	3.5%	伊奈町	5.0%	幸手市	3.3%	新座市	6.6%
23	羽生市	3.9%	三郷市	3.4%	越谷市	4.9%	蓮田市	3.2%	吉川市	5.7%
24	三郷市	3.8%	越谷市	3.4%	狭山市	4.7%	狭山市	2.8%	伊奈町	2.6%
25	秩父市	3.8%	ふじみ野市	3.4%	滑川町	4.5%	春日部市	2.2%	三郷市	0.8%
26	鴻巣市	3.8%	伊奈町	3.4%	本庄市	3.6%	日高市	2.2%	上尾市	0.4%
27	白岡市	3.8%	志木市	3.3%	久喜市	3.6%	上尾市	2.0%	三芳町	-1.4%
28	本庄市	3.8%	本庄市	3.3%	深谷市	3.4%	八潮市	2.0%	白岡市	-1.7%
29	富士見市	3.8%	熊谷市	3.3%	加須市	3.0%	三芳町	2.0%	熊谷市	-2.4%
30	蓮田市	3.7%	鴻巣市	3.3%	松伏町	2.8%	本庄市	1.9%	蓮田市	-3.7%
31	川島町	3.7%	北本市	3.3%	三芳町	2.7%	熊谷市	1.7%	桶川市	-5.1%
32	所沢市	3.7%	幸手市	3.3%	行田市	2.0%	桶川市	1.6%	嵐山町	-5.1%
33	松伏町	3.7%	秩父市	3.3%	上尾市	1.8%	三郷市	1.4%	久喜市	-5.2%
34	入間市	3.6%	草加市	3.3%	三郷市	1.7%	伊奈町	1.2%	春日部市	-6.2%
35	深谷市	3.6%	富士見市	3.2%	八潮市	1.6%	吉川市	1.0%	飯能市	-6.2%
36	滑川町	3.6%	加須市	3.2%	吉川市	1.4%	嵐山町	1.0%	入間市	-6.5%
37	八潮市	3.6%	上尾市	3.2%	春日部市	1.4%	羽生市	0.7%	幸手市	-6.7%
38	鶴ヶ島市	3.6%	さいたま市	3.2%	白岡市	1.3%	久喜市	0.6%	鴻巣市	-7.1%
39	越谷市	3.6%	八潮市	3.1%	羽生市	0.8%	白岡市	0.6%	北本市	-8.3%
40	上尾市	3.5%	深谷市	3.1%	入間市	0.8%	鴻巣市	-0.1%	深谷市	-8.5%
41	さいたま市	3.5%	川越市	3.1%	幸手市	0.3%	和光市	-0.3%	東秩父村	-9.7%
42	久喜市	3.4%	新座市	3.1%	小川町	0.1%	北本市	-0.3%	羽生市	-10.2%
43	春日部市	3.4%	朝霞市	3.1%	嵐山町	0.0%	加須市	-0.5%	杉戸町	-10.4%
44	行田市	3.4%	杉戸町	3.1%	上里町	-0.4%	深谷市	-0.5%	寄居町	-11.6%
45	美里町	3.4%	蕨市	3.1%	蓮田市	-0.4%	小川町	-0.9%	日高市	-11.8%
46	志木市	3.3%	上里町	3.0%	鴻巣市	-0.6%	杉戸町	-1.4%	川島町	-12.0%
47	新座市	3.3%	飯能市	3.0%	北本市	-1.2%	鳩山町	-1.9%	上里町	-13.0%
48	東松山市	3.2%	入間市	2.9%	川島町	-1.4%	行田市	-1.9%	松伏町	-13.1%
49	伊奈町	3.2%	戸田市	2.8%	桶川市	-1.7%	越生町	-2.2%	行田市	-13.3%
50	ふじみ野市	3.2%	桶川市	2.8%	日高市	-1.7%	寄居町	-2.3%	加須市	-13.5%
51	朝霞市	3.2%	羽生市	2.8%	鳩山町	-3.3%	上里町	-2.8%	本庄市	-16.9%
52	三芳町	3.2%	吉見町	2.7%	寄居町	-3.5%	長瀬町	-3.9%	吉見町	-17.6%
53	宮代町	3.1%	吉川市	2.6%	美里町	-4.1%	川島町	-4.0%	ときがわ町	-18.2%
54	桶川市	3.1%	東松山市	2.6%	越生町	-4.7%	松伏町	-4.5%	神川町	-18.3%
55	小鹿野町	3.0%	小川町	2.5%	東秩父村	-4.9%	吉見町	-4.8%	越生町	-19.1%
56	嵐山町	2.9%	美里町	2.5%	吉見町	-5.5%	皆野町	-4.9%	小川町	-20.0%
57	戸田市	2.9%	越生町	2.5%	ときがわ町	-5.9%	美里町	-5.0%	鳩山町	-20.3%
58	ときがわ町	2.9%	長瀬町	2.4%	神川町	-7.4%	神川町	-6.9%	横瀬町	-24.7%
59	北本市	2.9%	ときがわ町	2.3%	秩父市	-8.8%	秩父市	-6.9%	長瀬町	-26.2%
60	越生町	2.8%	和光市	2.3%	皆野町	-9.3%	ときがわ町	-7.0%	秩父市	-28.5%
61	吉川市	2.6%	川島町	2.2%	長瀬町	-12.0%	横瀬町	-10.2%	皆野町	-30.8%
62	吉見町	2.3%	横瀬町	2.1%	横瀬町	-12.0%	小鹿野町	-12.5%	美里町	-31.3%
63	和光市	2.2%	小鹿野町	1.8%	小鹿野町	-12.3%	東秩父村	-19.4%	小鹿野町	-40.7%

順位	H22→H27 20-24歳 女性純移動率	H22→H27 25-29歳 男性純移動率	H22→H27 25-29歳 女性純移動率	H22→H27 30-34歳 男性純移動率	H22→H27 30-34歳 女性純移動率
1	和光市 52.2%	和光市 32.3%	和光市 28.3%	八潮市 19.1%	戸田市 17.8%
2	戸田市 40.9%	八潮市 21.4%	戸田市 20.6%	ふじみ野市 15.9%	八潮市 17.2%
3	蕨市 34.7%	滑川町 20.9%	川口市 17.3%	吉川市 15.7%	ふじみ野市 14.9%
4	毛呂山町 31.1%	蕨市 20.7%	八潮市 17.0%	白岡市 13.6%	吉川市 13.8%
5	富士見市 22.5%	戸田市 19.7%	蕨市 15.2%	三郷市 12.0%	三郷市 10.2%
6	朝霞市 21.8%	吉川市 15.8%	吉川市 14.6%	戸田市 10.6%	川口市 9.8%
7	志木市 18.6%	川口市 15.2%	朝霞市 11.7%	朝霞市 9.3%	白岡市 8.4%
8	川口市 14.8%	朝霞市 12.1%	滑川町 10.0%	滑川町 8.7%	朝霞市 8.0%
9	越谷市 13.8%	横瀬町 7.0%	伊奈町 8.9%	横瀬町 8.3%	志木市 7.5%
10	八潮市 12.4%	伊奈町 4.9%	さいたま市 5.9%	川口市 7.3%	滑川町 7.4%
11	さいたま市 11.8%	富士見市 4.3%	三郷市 3.8%	伊奈町 7.3%	さいたま市 7.4%
12	所沢市 11.7%	三郷市 3.8%	富士見市 2.2%	志木市 6.7%	越谷市 6.8%
13	草加市 10.9%	越谷市 1.4%	白岡市 1.6%	越谷市 5.6%	新座市 6.4%
14	川越市 9.3%	上尾市 1.1%	ふじみ野市 1.1%	宮代町 5.0%	美里町 5.4%
15	新座市 8.6%	秩父市 1.0%	志木市 0.7%	新座市 3.9%	蕨市 4.4%
16	伊奈町 8.6%	蓮田市 0.5%	越谷市 -0.3%	さいたま市 3.2%	川越市 2.4%
17	ふじみ野市 8.3%	さいたま市 -0.1%	上尾市 -0.8%	川越市 1.9%	東松山市 2.1%
18	宮代町 8.2%	羽生市 -2.0%	深谷市 -1.3%	秩父市 1.9%	富士見市 1.9%
19	坂戸市 8.1%	深谷市 -3.1%	川越市 -2.0%	桶川市 1.5%	深谷市 1.1%
20	吉川市 7.5%	草加市 -4.7%	蓮田市 -4.8%	富士見市 1.2%	秩父市 0.4%
21	鶴ヶ島市 6.1%	白岡市 -5.1%	秩父市 -4.8%	深谷市 1.1%	伊奈町 0.3%
22	蓮田市 5.5%	志木市 -6.0%	桶川市 -6.5%	鴻巣市 0.8%	熊谷市 -0.1%
23	滑川町 3.3%	上里町 -6.5%	新座市 -6.9%	上尾市 0.6%	宮代町 -0.6%
24	三郷市 2.6%	ふじみ野市 -6.5%	草加市 -7.6%	東松山市 -1.0%	羽生市 -0.6%
25	上尾市 0.9%	新座市 -6.9%	上里町 -7.7%	神川町 -1.2%	和光市 -1.7%
26	狭山市 0.4%	北本市 -7.4%	羽生市 -8.1%	三芳町 -1.9%	草加市 -2.0%
27	春日部市 -1.3%	本庄市 -7.6%	春日部市 -8.1%	加須市 -2.3%	上尾市 -2.2%
28	白岡市 -2.6%	春日部市 -7.9%	鴻巣市 -9.2%	坂戸市 -2.3%	三芳町 -3.1%
29	日高市 -3.9%	川越市 -8.0%	宮代町 -10.4%	美里町 -2.4%	鶴ヶ島市 -3.3%
30	桶川市 -4.4%	桶川市 -9.0%	本庄市 -10.6%	入間市 -2.7%	横瀬町 -3.6%
31	三芳町 -4.5%	鴻巣市 -9.3%	狭山市 -10.9%	蕨市 -2.8%	上里町 -3.6%
32	東松山市 -5.7%	嵐山町 -9.4%	北本市 -11.0%	久喜市 -3.0%	加須市 -4.1%
33	久喜市 -5.9%	神川町 -9.5%	久喜市 -11.2%	蓮田市 -3.2%	桶川市 -4.2%
34	鴻巣市 -5.9%	寄居町 -9.8%	行田市 -11.7%	春日部市 -3.8%	久喜市 -4.2%
35	熊谷市 -6.7%	皆野町 -10.0%	横瀬町 -12.0%	嵐山町 -3.9%	入間市 -4.4%
36	北本市 -6.8%	熊谷市 -10.1%	所沢市 -13.0%	熊谷市 -4.3%	鴻巣市 -4.5%
37	嵐山町 -7.1%	狭山市 -10.9%	寄居町 -13.5%	鶴ヶ島市 -4.7%	所沢市 -4.5%
38	羽生市 -7.2%	美里町 -11.2%	熊谷市 -13.6%	所沢市 -4.7%	坂戸市 -5.4%
39	幸手市 -8.2%	所沢市 -12.2%	三芳町 -14.3%	日高市 -4.7%	本庄市 -6.0%
40	深谷市 -8.2%	長瀨町 -12.8%	幸手市 -14.4%	飯能市 -5.3%	杉戸町 -6.7%
41	杉戸町 -9.0%	入間市 -12.9%	小鹿野町 -14.7%	草加市 -5.5%	春日部市 -6.7%
42	行田市 -10.0%	久喜市 -13.2%	嵐山町 -15.2%	上里町 -5.9%	蓮田市 -6.8%
43	加須市 -11.0%	幸手市 -15.3%	入間市 -15.5%	小川町 -6.3%	飯能市 -7.8%
44	飯能市 -12.2%	日高市 -15.4%	松伏町 -15.8%	皆野町 -6.7%	狭山市 -8.2%
45	松伏町 -12.8%	加須市 -16.4%	鶴ヶ島市 -16.5%	本庄市 -7.1%	日高市 -8.8%
46	入間市 -13.6%	川島町 -16.7%	加須市 -16.5%	寄居町 -7.2%	北本市 -9.5%
47	本庄市 -15.7%	行田市 -17.0%	美里町 -16.8%	羽生市 -7.3%	皆野町 -10.2%
48	寄居町 -16.0%	三芳町 -17.6%	東松山市 -16.9%	行田市 -7.5%	行田市 -10.8%
49	上里町 -16.0%	杉戸町 -18.7%	杉戸町 -17.3%	松伏町 -7.6%	嵐山町 -11.1%
50	川島町 -19.1%	小鹿野町 -20.0%	皆野町 -17.5%	長瀨町 -7.7%	神川町 -13.1%
51	吉見町 -20.0%	越生町 -21.3%	日高市 -19.9%	幸手市 -7.8%	寄居町 -13.8%
52	美里町 -20.1%	鶴ヶ島市 -21.3%	川島町 -20.8%	越生町 -8.5%	越生町 -13.8%
53	越生町 -20.5%	松伏町 -21.7%	飯能市 -24.4%	北本市 -8.7%	幸手市 -14.2%
54	小川町 -21.9%	吉見町 -22.1%	坂戸市 -24.5%	和光市 -9.0%	吉見町 -14.2%
55	神川町 -22.6%	小川町 -22.9%	越生町 -25.7%	川島町 -10.7%	小川町 -14.4%
56	鳩山町 -23.8%	ときがわ町 -23.6%	神川町 -25.8%	小鹿野町 -11.0%	長瀨町 -15.1%
57	東秩父村 -26.5%	飯能市 -24.7%	小川町 -27.3%	杉戸町 -11.1%	松伏町 -15.5%
58	秩父市 -27.2%	坂戸市 -26.3%	吉見町 -27.7%	狭山市 -12.9%	小鹿野町 -18.7%
59	ときがわ町 -28.3%	東松山市 -29.3%	長瀨町 -28.2%	東秩父村 -15.3%	鳩山町 -20.0%
60	皆野町 -28.5%	鳩山町 -33.3%	鳩山町 -30.3%	吉見町 -16.3%	川島町 -20.4%
61	横瀬町 -31.8%	宮代町 -40.4%	ときがわ町 -31.4%	毛呂山町 -16.3%	毛呂山町 -23.6%
62	長瀨町 -32.8%	東秩父村 -42.3%	東秩父村 -32.9%	ときがわ町 -19.6%	ときがわ町 -23.7%
63	小鹿野町 -45.0%	毛呂山町 -43.4%	毛呂山町 -48.2%	鳩山町 -20.1%	東秩父村 -25.0%

順位	H27 昼夜間人口比率		H27 15歳以上通学者 昼夜間比率		H27 15歳以上通学者 自市町村内通学割合		H27 15歳以上通学者 埼玉県内流出割合		H27 15歳以上通学者 東京都流出割合	
	市町村	比率	市町村	比率	市町村	比率	市町村	比率	市町村	比率
1	三芳町	117.2%	鳩山町	305.5%	秩父市	49.0%	小鹿野町	86.8%	和光市	56.0%
2	美里町	104.9%	越生町	233.8%	毛呂山町	46.7%	皆野町	86.8%	所沢市	53.5%
3	川島町	103.1%	伊奈町	222.6%	本庄市	44.6%	長瀬町	84.1%	さいたま市	51.5%
4	本庄市	102.8%	宮代町	168.1%	さいたま市	42.8%	東秩父村	82.0%	川口市	50.7%
5	嵐山町	102.5%	坂戸市	167.3%	熊谷市	39.7%	横瀬町	81.0%	戸田市	49.8%
6	東松山市	100.3%	本庄市	157.8%	坂戸市	38.5%	毛呂山町	79.4%	新座市	48.8%
7	滑川町	98.9%	東松山市	146.1%	深谷市	37.8%	川島町	76.6%	朝霞市	47.9%
8	伊奈町	98.9%	杉戸町	128.5%	川越市	37.6%	吉見町	75.8%	蕨市	46.3%
9	熊谷市	97.9%	川越市	128.3%	東松山市	37.6%	ときがわ町	75.7%	志木市	45.7%
10	羽生市	97.0%	毛呂山町	128.2%	飯能市	37.1%	寄居町	75.6%	草加市	42.2%
11	川越市	96.6%	新座市	119.4%	小鹿野町	37.0%	鶴ヶ島市	73.5%	入間市	42.1%
12	寄居町	96.3%	飯能市	108.3%	宮代町	36.6%	上里町	73.1%	川越市	40.7%
13	八潮市	96.2%	滑川町	101.2%	越谷市	33.1%	越生町	72.7%	飯能市	40.1%
14	秩父市	96.0%	深谷市	92.0%	伊奈町	32.7%	美里町	72.6%	狭山市	40.0%
15	鳩山町	95.6%	熊谷市	91.0%	川口市	30.8%	神川町	72.2%	八潮市	39.6%
16	日高市	95.4%	さいたま市	89.6%	草加市	29.8%	滑川町	71.8%	富士見市	38.8%
17	狭山市	94.9%	越谷市	89.6%	羽生市	29.8%	日高市	71.3%	ふじみ野市	37.2%
18	深谷市	94.1%	狭山市	84.8%	所沢市	29.7%	嵐山町	71.3%	三郷市	36.7%
19	小鹿野町	93.5%	羽生市	84.0%	三郷市	28.2%	坂戸市	69.8%	越谷市	36.2%
20	さいたま市	93.0%	蕨市	79.1%	入間市	27.6%	伊奈町	69.4%	三芳町	33.8%
21	毛呂山町	92.8%	加須市	77.4%	久喜市	27.2%	行田市	69.2%	白岡市	33.2%
22	加須市	92.6%	草加市	76.7%	八潮市	26.7%	小川町	68.7%	久喜市	31.1%
23	坂戸市	92.4%	春日部市	76.4%	春日部市	26.7%	北本市	68.1%	上尾市	30.9%
24	神川町	91.6%	志木市	73.2%	行田市	25.8%	秩父市	68.1%	桶川市	29.4%
25	皆野町	91.5%	所沢市	72.7%	狭山市	25.6%	東松山市	67.5%	東松山市	29.4%
26	戸田市	91.3%	入間市	70.4%	上尾市	24.8%	深谷市	66.9%	蓮田市	29.4%
27	久喜市	90.5%	久喜市	69.9%	加須市	24.8%	杉戸町	66.7%	鳩山町	29.4%
28	行田市	89.8%	秩父市	66.6%	杉戸町	24.7%	鳩山町	66.6%	鴻巣市	28.5%
29	ときがわ町	89.8%	嵐山町	62.1%	松伏町	24.5%	鴻巣市	66.1%	小川町	28.1%
30	飯能市	89.3%	上尾市	61.7%	新座市	23.9%	加須市	66.0%	坂戸市	27.8%
31	杉戸町	89.0%	日高市	60.7%	越生町	23.7%	桶川市	65.6%	北本市	27.3%
32	越生町	88.5%	朝霞市	57.0%	横瀬町	23.0%	蓮田市	64.3%	熊谷市	27.3%
33	三郷市	88.4%	和光市	56.6%	皆野町	22.1%	上尾市	63.7%	宮代町	27.1%
34	吉見町	87.8%	小鹿野町	55.2%	滑川町	21.8%	松伏町	63.4%	春日部市	27.0%
35	越谷市	87.3%	幸手市	55.1%	鴻巣市	21.3%	三芳町	63.2%	松伏町	26.7%
36	和光市	87.3%	小川町	52.5%	日高市	21.1%	幸手市	63.1%	秩父市	26.6%
37	入間市	86.5%	行田市	52.0%	幸手市	21.1%	熊谷市	63.1%	日高市	26.6%
38	幸手市	86.3%	ふじみ野市	49.6%	鳩山町	20.6%	春日部市	62.4%	伊奈町	26.2%
39	所沢市	86.1%	皆野町	48.0%	桶川市	20.3%	宮代町	62.3%	幸手市	25.7%
40	長瀬町	86.0%	桶川市	45.8%	寄居町	19.0%	吉川市	61.8%	吉川市	25.4%
41	新座市	85.7%	三郷市	45.8%	小川町	18.9%	羽生市	61.7%	越生町	25.3%
42	上里町	84.7%	松伏町	45.6%	吉川市	18.9%	白岡市	60.2%	滑川町	25.3%
43	桶川市	84.4%	寄居町	44.7%	ふじみ野市	18.9%	ふじみ野市	59.4%	嵐山町	25.2%
44	草加市	84.0%	川口市	43.3%	長瀬町	18.5%	久喜市	58.1%	鶴ヶ島市	24.6%
45	蕨市	83.2%	鴻巣市	42.9%	朝霞市	18.3%	富士見市	58.0%	杉戸町	23.5%
46	蓮田市	82.9%	三芳町	42.8%	鶴ヶ島市	18.0%	本庄市	57.8%	行田市	23.0%
47	春日部市	82.8%	八潮市	42.2%	北本市	17.3%	狭山市	57.7%	吉見町	22.2%
48	上尾市	82.7%	鶴ヶ島市	39.3%	神川町	17.1%	飯能市	56.9%	加須市	21.6%
49	横瀬町	82.7%	戸田市	35.1%	上里町	17.1%	川越市	55.5%	川島町	21.4%
50	朝霞市	82.6%	神川町	35.0%	戸田市	17.1%	入間市	54.8%	ときがわ町	21.3%
51	ふじみ野市	82.4%	蓮田市	32.4%	和光市	17.1%	越谷市	53.3%	深谷市	21.2%
52	小川町	82.1%	白岡市	32.2%	志木市	16.5%	志木市	50.3%	羽生市	21.1%
53	宮代町	82.1%	吉川市	29.4%	嵐山町	16.5%	草加市	48.7%	本庄市	20.8%
54	川口市	82.0%	北本市	28.6%	ときがわ町	16.4%	八潮市	48.2%	寄居町	19.1%
55	鶴ヶ島市	80.7%	富士見市	23.5%	蕨市	15.8%	朝霞市	47.3%	毛呂山町	18.7%
56	吉川市	80.1%	横瀬町	23.0%	蓮田市	15.6%	蕨市	47.3%	横瀬町	17.4%
57	北本市	80.1%	吉見町	22.3%	富士見市	15.4%	新座市	47.0%	東秩父村	16.5%
58	鴻巣市	79.9%	上里町	20.2%	美里町	14.3%	戸田市	44.8%	美里町	13.7%
59	東秩父村	79.5%	長瀬町	18.8%	白岡市	14.3%	所沢市	42.5%	長瀬町	12.6%
60	志木市	79.1%	川島町	17.9%	三芳町	13.2%	川口市	42.0%	上里町	11.2%
61	松伏町	77.9%	ときがわ町	16.9%	吉見町	13.0%	三郷市	41.2%	皆野町	10.2%
62	白岡市	77.3%	美里町	14.5%	川島町	12.1%	さいたま市	39.6%	小鹿野町	10.1%
63	富士見市	74.0%	東秩父村	9.0%	東秩父村	8.3%	和光市	39.0%	神川町	7.5%

順位	H27 15歳以上通学者 特別区流出割合	H27 通勤者 昼夜間比率	H27 通勤者 自市町村内通勤割合	H27 通勤者 埼玉県内流出割合	H27 通勤者 東京都流出割合
1	和光市 50.0%	三芳町 146.6%	秩父市 73.1%	小鹿野町 97.1%	和光市 80.5%
2	川口市 44.1%	美里町 118.4%	小鹿野町 62.6%	皆野町 96.0%	所沢市 68.5%
3	戸田市 43.7%	川島町 113.5%	深谷市 57.2%	長瀬町 95.3%	新座市 67.4%
4	さいたま市 42.2%	嵐山町 108.3%	熊谷市 56.7%	東秩父村 95.0%	戸田市 66.9%
5	蕨市 39.1%	本庄市 99.6%	本庄市 54.2%	横瀬町 93.4%	川口市 66.1%
6	朝霞市 38.5%	滑川町 98.4%	羽生市 51.6%	ときがわ町 92.3%	朝霞市 63.9%
7	草加市 37.7%	寄居町 98.1%	さいたま市 50.5%	秩父市 90.5%	草加市 63.6%
8	志木市 37.6%	八潮市 97.0%	加須市 50.0%	寄居町 89.7%	さいたま市 61.6%
9	新座市 36.3%	熊谷市 96.7%	川越市 48.7%	越生町 89.1%	八潮市 60.8%
10	八潮市 36.0%	羽生市 95.6%	行田市 47.4%	吉見町 87.7%	蕨市 55.7%
11	所沢市 33.8%	秩父市 94.9%	東松山市 45.9%	川島町 86.6%	三郷市 55.2%
12	富士見市 32.2%	東松山市 94.3%	八潮市 45.7%	嵐山町 85.3%	志木市 53.8%
13	川越市 32.0%	日高市 93.8%	狭山市 45.2%	美里町 85.2%	越谷市 52.5%
14	三郷市 31.9%	小鹿野町 90.9%	寄居町 45.0%	毛呂山町 84.3%	入間市 46.8%
15	越谷市 30.5%	神川町 89.4%	飯能市 44.3%	小川町 84.2%	富士見市 46.6%
16	ふじみ野市 30.5%	狭山市 89.2%	川口市 44.2%	滑川町 82.9%	ふじみ野市 44.1%
17	白岡市 27.9%	戸田市 88.5%	三郷市 44.0%	行田市 80.2%	三芳町 43.7%
18	久喜市 26.6%	深谷市 88.4%	皆野町 43.3%	鳩山町 80.2%	狭山市 41.4%
19	久喜市 26.3%	川越市 88.4%	所沢市 42.6%	東松山市 77.8%	飯能市 39.7%
20	入間市 26.0%	ときがわ町 88.1%	川島町 42.1%	深谷市 77.4%	川越市 37.4%
21	狭山市 25.9%	加須市 87.1%	入間市 42.0%	伊奈町 77.2%	春日部市 35.1%
22	飯能市 25.6%	皆野町 86.6%	日高市 41.9%	日高市 76.9%	吉川市 33.5%
23	上尾市 25.3%	吉見町 84.9%	久喜市 41.7%	坂戸市 76.1%	上尾市 33.2%
24	東松山市 24.6%	さいたま市 84.8%	越谷市 41.7%	羽生市 75.9%	蓮田市 31.9%
25	鳩山町 24.5%	行田市 83.9%	美里町 41.7%	鶴ヶ島市 73.5%	白岡市 30.2%
26	桶川市 24.5%	久喜市 83.0%	長瀬町 41.6%	鴻巣市 70.9%	桶川市 27.9%
27	鴻巣市 24.3%	伊奈町 82.3%	横瀬町 41.4%	北本市 70.5%	久喜市 27.7%
28	蓮田市 23.6%	三郷市 79.9%	神川町 40.6%	加須市 70.2%	北本市 26.1%
29	北本市 23.4%	長瀬町 79.2%	春日部市 40.4%	熊谷市 69.8%	宮代町 25.3%
30	宮代町 23.1%	毛呂山町 77.7%	ときがわ町 40.1%	桶川市 68.5%	鴻巣市 24.4%
31	春日部市 23.0%	上里町 77.1%	毛呂山町 39.7%	松伏町 68.1%	鶴ヶ島市 24.2%
32	松伏町 23.0%	和光市 76.7%	上里町 38.6%	宮代町 67.5%	杉戸町 23.3%
33	熊谷市 22.9%	飯能市 75.7%	小川町 38.5%	上里町 67.0%	坂戸市 21.9%
34	坂戸市 22.9%	幸手市 74.6%	上尾市 38.3%	神川町 66.4%	幸手市 21.8%
35	小川町 22.2%	入間市 74.3%	三芳町 38.2%	杉戸町 65.7%	松伏町 21.2%
36	幸手市 22.0%	坂戸市 73.6%	鴻巣市 37.8%	本庄市 65.2%	日高市 21.0%
37	滑川町 21.4%	杉戸町 72.5%	東秩父村 37.3%	白岡市 64.1%	伊奈町 19.8%
38	伊奈町 21.3%	桶川市 72.3%	嵐山町 37.1%	蓮田市 63.2%	東松山市 19.4%
39	嵐山町 21.3%	越谷市 72.2%	草加市 37.1%	上尾市 63.0%	鳩山町 18.0%
40	鶴ヶ島市 20.2%	所沢市 71.5%	幸手市 36.6%	幸手市 61.4%	加須市 16.7%
41	吉川市 19.9%	横瀬町 70.9%	戸田市 36.3%	久喜市 61.1%	熊谷市 15.5%
42	秩父市 19.7%	鳩山町 70.6%	坂戸市 35.7%	川越市 59.6%	滑川町 14.7%
43	行田市 19.4%	蓮田市 69.2%	吉川市 34.9%	飯能市 58.1%	毛呂山町 14.2%
44	杉戸町 19.3%	小川町 68.1%	吉見町 34.7%	狭山市 56.1%	小川町 13.5%
45	加須市 19.1%	上尾市 67.0%	新座市 33.3%	吉川市 54.0%	嵐山町 12.3%
46	羽生市 18.8%	鶴ヶ島市 66.4%	北本市 33.0%	春日部市 53.8%	川島町 11.8%
47	吉見町 18.1%	草加市 66.4%	杉戸町 33.0%	三芳町 53.7%	行田市 11.1%
48	越生町 18.1%	川口市 66.2%	桶川市 32.6%	ふじみ野市 53.1%	羽生市 10.0%
49	川島町 17.8%	新座市 66.2%	伊奈町 32.4%	富士見市 51.0%	越生町 9.8%
50	深谷市 17.8%	朝霞市 66.2%	越生町 32.2%	入間市 50.7%	吉見町 9.6%
51	本庄市 17.4%	吉川市 65.4%	蓮田市 32.0%	志木市 42.9%	深谷市 9.5%
52	日高市 16.9%	蕨市 64.9%	ふじみ野市 31.6%	蕨市 40.3%	本庄市 6.8%
53	ときがわ町 15.9%	北本市 64.8%	滑川町 30.3%	越谷市 39.8%	秩父市 6.5%
54	東秩父村 15.8%	春日部市 64.8%	朝霞市 30.2%	朝霞市 32.8%	ときがわ町 6.4%
55	寄居町 15.6%	東秩父村 64.8%	松伏町 30.2%	八潮市 31.3%	寄居町 5.8%
56	毛呂山町 15.3%	ふじみ野市 64.8%	鶴ヶ島市 29.6%	さいたま市 31.3%	横瀬町 5.4%
57	横瀬町 12.2%	鴻巣市 63.5%	和光市 28.9%	草加市 30.9%	上里町 4.5%
58	美里町 10.7%	越生町 62.7%	鳩山町 28.4%	新座市 29.4%	東秩父村 4.0%
59	上里町 9.5%	白岡市 60.2%	白岡市 28.1%	戸田市 28.9%	美里町 2.9%
60	長瀬町 9.4%	松伏町 59.3%	富士見市 27.3%	川口市 28.8%	長瀬町 1.9%
61	小鹿野町 7.9%	志木市 55.6%	志木市 25.7%	三郷市 28.8%	神川町 1.8%
62	皆野町 6.8%	宮代町 50.9%	宮代町 25.4%	所沢市 28.1%	小鹿野町 1.6%
63	神川町 6.4%	富士見市 49.9%	蕨市 24.7%	和光市 16.1%	皆野町 1.5%

順位	H27 通勤者 特別区流出割合		H27 15歳以上通勤通 学者流出者数		H27 15歳以上通勤通 学者流入者数		H27 15歳以上通学者の流出 者数に対する流入者数の比		H27 通勤者の流出者数に対 する流入者数の比	
1	和光市	78.0%	さいたま市	306,520	さいたま市	217,172	鳩山町	359.0%	三芳町	175.5%
2	戸田市	64.5%	川口市	163,415	川越市	75,984	伊奈町	282.1%	美里町	131.5%
3	川口市	64.1%	越谷市	96,745	川口市	60,726	越生町	275.3%	川島町	123.3%
4	草加市	62.6%	所沢市	96,325	越谷市	54,031	坂戸市	209.3%	嵐山町	113.2%
5	八潮市	59.9%	川越市	88,563	所沢市	49,782	宮代町	207.3%	本庄市	99.1%
6	朝霞市	59.5%	草加市	76,046	熊谷市	41,831	本庄市	204.4%	滑川町	97.7%
7	さいたま市	58.8%	上尾市	72,790	草加市	37,026	東松山市	173.8%	寄居町	96.5%
8	蕨市	54.0%	春日部市	71,608	上尾市	34,096	毛呂山町	152.9%	八潮市	94.5%
9	三郷市	53.9%	新座市	54,228	戸田市	33,508	川越市	145.4%	熊谷市	92.3%
10	新座市	53.5%	朝霞市	47,767	狭山市	33,484	杉戸町	137.8%	羽生市	90.9%
11	越谷市	50.9%	久喜市	46,937	久喜市	32,601	新座市	125.5%	東松山市	89.5%
12	志木市	50.3%	熊谷市	45,772	春日部市	31,514	飯能市	113.3%	日高市	89.4%
13	所沢市	46.9%	入間市	45,320	新座市	31,156	滑川町	101.6%	神川町	82.1%
14	富士見市	43.8%	戸田市	44,880	東松山市	26,237	深谷市	87.1%	戸田市	82.0%
15	ふじみ野市	41.3%	狭山市	41,753	入間市	25,408	熊谷市	85.1%	秩父市	80.8%
16	三芳町	40.2%	富士見市	39,220	深谷市	25,136	越谷市	84.4%	狭山市	80.3%
17	春日部市	34.2%	三郷市	39,134	坂戸市	25,018	さいたま市	81.9%	ときがわ町	80.1%
18	川越市	33.4%	鴻巣市	38,979	朝霞市	24,385	狭山市	79.5%	川越市	77.3%
19	上尾市	31.9%	ふじみ野市	36,644	加須市	23,758	羽生市	77.3%	吉見町	76.9%
20	吉川市	31.9%	深谷市	33,579	三郷市	23,533	蕨市	75.1%	皆野町	76.3%
21	蓮田市	30.9%	坂戸市	32,669	八潮市	20,892	加須市	69.9%	小鹿野町	75.8%
22	白岡市	29.1%	加須市	32,301	本庄市	20,516	志木市	67.9%	加須市	74.1%
23	狭山市	28.9%	和光市	28,984	和光市	18,938	春日部市	67.8%	伊奈町	73.8%
24	入間市	27.9%	蕨市	27,002	三芳町	18,204	草加市	66.8%	深谷市	72.9%
25	久喜市	26.8%	志木市	26,522	ふじみ野市	17,310	所沢市	61.1%	久喜市	70.9%
26	桶川市	26.8%	鶴ヶ島市	26,191	行田市	15,427	入間市	59.2%	行田市	69.4%
27	北本市	25.2%	東松山市	26,082	鴻巣市	15,426	久喜市	58.7%	さいたま市	69.3%
28	宮代町	24.7%	桶川市	26,015	飯能市	15,022	嵐山町	54.6%	和光市	67.3%
29	鴻巣市	23.4%	吉川市	24,072	蕨市	14,977	日高市	50.1%	長瀬町	64.4%
30	杉戸町	22.7%	八潮市	23,922	桶川市	14,539	上尾市	49.1%	三郷市	64.1%
31	鶴ヶ島市	22.1%	飯能市	23,761	伊奈町	14,376	和光市	47.7%	毛呂山町	63.1%
32	幸手市	21.2%	行田市	23,757	日高市	14,297	朝霞市	47.4%	上里町	62.7%
33	飯能市	20.8%	北本市	23,662	羽生市	12,850	幸手市	43.2%	幸手市	59.9%
34	松伏町	20.5%	蓮田市	21,505	鶴ヶ島市	12,782	小川町	41.4%	杉戸町	59.0%
35	坂戸市	19.8%	白岡市	19,988	志木市	11,520	ふじみ野市	37.9%	桶川市	58.9%
36	伊奈町	18.9%	本庄市	18,502	富士見市	11,295	行田市	35.3%	坂戸市	58.9%
37	東松山市	17.9%	幸手市	16,961	蓮田市	10,868	秩父市	34.4%	鳩山町	58.9%
38	加須市	16.2%	日高市	16,873	杉戸町	10,489	三芳町	34.1%	飯能市	56.4%
39	鳩山町	16.0%	杉戸町	15,521	吉川市	10,336	皆野町	33.2%	入間市	55.6%
40	熊谷市	14.7%	伊奈町	14,998	北本市	10,323	桶川市	32.0%	蓮田市	54.6%
41	滑川町	13.6%	羽生市	14,426	幸手市	9,863	寄居町	31.7%	蕨市	53.4%
42	日高市	12.7%	宮代町	12,413	寄居町	9,064	小鹿野町	28.9%	越谷市	52.3%
43	小川町	12.0%	三芳町	11,525	白岡市	8,361	松伏町	27.9%	鶴ヶ島市	52.3%
44	毛呂山町	11.3%	松伏町	11,063	毛呂山町	8,241	鴻巣市	27.5%	朝霞市	51.5%
45	嵐山町	11.3%	毛呂山町	10,968	川島町	7,096	鶴ヶ島市	25.9%	所沢市	50.4%
46	行田市	10.5%	小川町	10,528	秩父市	6,879	三郷市	24.5%	横瀬町	50.4%
47	川島町	10.3%	上里町	10,406	滑川町	6,614	戸田市	21.8%	新座市	49.4%
48	羽生市	9.7%	寄居町	10,282	嵐山町	6,576	神川町	21.6%	ふじみ野市	48.5%
49	吉見町	8.7%	秩父市	9,408	宮代町	6,369	八潮市	21.1%	小川町	48.0%
50	深谷市	8.6%	吉見町	7,597	上里町	5,760	白岡市	20.9%	北本市	47.5%
51	越生町	7.3%	滑川町	6,745	吉見町	5,212	蓮田市	19.9%	吉川市	46.8%
52	本庄市	6.2%	川島町	6,519	小川町	4,978	川口市	18.0%	草加市	46.6%
53	寄居町	5.0%	嵐山町	6,188	松伏町	4,450	北本市	13.8%	上尾市	46.5%
54	ときがわ町	4.9%	鳩山町	4,990	鳩山町	4,357	吉川市	12.9%	越生町	45.0%
55	秩父市	4.8%	神川町	4,565	美里町	4,134	吉見町	10.6%	白岡市	44.6%
56	上里町	4.0%	神川町	4,339	神川町	3,425	富士見市	9.6%	東秩父村	43.9%
57	横瀬町	3.2%	ときがわ町	3,979	越生町	2,999	川島町	6.6%	松伏町	41.7%
58	東秩父村	3.1%	美里町	3,582	ときがわ町	2,818	上里町	3.8%	鴻巣市	41.3%
59	美里町	2.7%	皆野町	2,996	皆野町	2,145	東秩父村	0.8%	春日部市	41.0%
60	神川町	1.7%	横瀬町	2,646	小鹿野町	1,779	ときがわ町	0.6%	志木市	40.3%
61	長瀬町	1.4%	小鹿野町	2,543	長瀬町	1,335	長瀬町	0.4%	川口市	39.5%
62	小鹿野町	1.4%	長瀬町	2,347	横瀬町	1,176	美里町	0.2%	宮代町	34.2%
63	皆野町	1.2%	東秩父村	965	東秩父村	366	横瀬町	0.0%	富士見市	31.1%

## ■用語の説明

- 人口……………平成 27 年 10 月 1 日人口（国勢調査）
- 人口増加率……………平成 27 年人口÷平成 22 年人口×100
- 平均年齢……………年齢の平均値
- 年少人口……………0 歳から 14 歳の人口
- 年少人口割合……………年少人口÷（人口－年齢不詳）
- 生産年齢人口……………15 歳から 64 歳の人口
- 生産年齢人口割合……………生産年齢人口÷（人口－年齢不詳）
- 高齢者人口……………65 歳以上の人口
- 高齢者人口割合……………高齢者人口÷（人口－年齢不詳）
- 20 代 30 代女性人口……………20 歳から 39 歳の女性人口
- 出生数……………平成 27 年 1 月 1 日から平成 27 年 12 月 31 日の出生数（外国国籍含む）
- 死亡数……………平成 27 年 1 月 1 日から平成 27 年 12 月 31 日の死亡数（外国国籍含む）
- 合計特殊出生率……………15 歳から 49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの  
（外国国籍を含めた出生数、女性人口で計算しているため、埼玉県保健医療政策課で公表している合計特殊出生率と異なる。）
- 母の年齢別出生率……………母の年齢を 5 歳階級別に区分して計算した出生率（外国国籍含む）  
（出生数÷女性人口×5）
- 未婚率……………未婚者数÷（人口－配偶関係不詳）
- 労働力率……………労働力人口÷（人口－労働力状態不詳）
- 失業率……………失業者数÷労働力人口
- 純移動率……………ある年齢層の平成 22 年人口から 5 年間の死亡数を引いた人口を封鎖人口という。封鎖人口を平成 27 年人口で引くと純移動人口となる。その純移動人口を平成 22 年人口で割った率が純移動率。  
「H22→H27 15-19 歳男性純移動率（東松山市）」の場合  
平成 22 年 10-14 歳人口；1,992 人  
平成 27 年 15-19 歳人口；2,588 人  
平成 22 年 10-14 歳の人々の 5 年間の死亡数；2 人  
封鎖人口＝1,992－2＝1,990 人  
純移動人口＝2,588－1,990＝598 人  
純移動率＝598÷1,992＝0.30
- 昼夜間人口比率……………昼間人口÷夜間人口×100
- 15 歳以上通学者自市町村内通学割合……………通学者のうち、自市町村内に通学している人の割合
- 15 歳以上通学者埼玉県内流出割合……………通学者の流出人口のうち、埼玉県に通学している人の割合
- 15 歳以上通学者東京都流出割合……………通学者の流出人口のうち、東京都に通学している人の割合
- 15 歳以上通学者特別区流出割合……………通学者の流出人口のうち、特別区に通学している人の割合
- 通勤者昼夜間比率……………通勤者における昼夜間人口比率
- 通勤者自市町村内通勤割合……………通勤者のうち、自市町村内に通勤している人の割合
- 通勤者埼玉県内流出割合……………通勤者の流出人口のうち、埼玉県に通勤している人の割合
- 通勤者東京都流出割合……………通勤者の流出人口のうち、東京都に通勤している人の割合
- 通勤者特別区流出割合……………通勤者の流出人口のうち、特別区に通勤している人の割合
- 流出者数に対する流入者数の比……………流入者数÷流出者数×100



埼玉県のマスコット

コバトン

## 統計ツールによる埼玉県の人口分析

平成31年3月発行

編集・発行 埼玉県総務部統計課経済分析担当  
〒330-9301  
埼玉県さいたま市浦和区高砂3-15-1  
TEL 048-830-2327 (直通)